基礎分野　科学的思考の基盤

科目名	単位数	開講期
日本語表現法	1単位30時間	1年次前期

＜設定理由＞

看護実践では、自分が観察したことや実践したことについて、その事実と考えを正確に伝える力が必要になる。情報を伝達し共有する手段として文章が用いられるが、自分の考えを筋道立てて正確に表現することや、書かれている内容を正しく読みとることは簡単ではないのが現状である。そこで「論理的に述べる」とはどういうことなのかを学び、自分の考えを他者にわかりやすく正確に伝える文章表現力を養う。

＜目　　的＞

日本語の知識と論理的に述べる（書く）ための基本を学び、読み手に伝えるべき事実と意見を分かり易く、論理的に表現をする文章の書き方を習得する。

＜目　　標＞

1．日本語の特性と文章の基本構造がわかる
2．日本語表記の原理がわかる
3．論理的でわかりやすい文章表現ができる

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．日本語表現の基本	10	1．日本語の特質と文の基本構造 2．日本語表記の原理 1）文体と文末表現 2）語句の意味と文脈 3）文脈の道筋（文章読解力） 4）文章の書き方 （1）主語・述語・助詞・接続詞の使い方 （2）一義一文で意味が通じやすい文章の長さ （3）序論・本論・結論の三段構成	林　　美都子
2．文章作成の実際	19	1．文章全体の要旨をつかみ文章化する（要約） 1）新聞記事・評論から文章の論理性をみる 2．文章構成と成文化 3．事実と意見の書き分け 4．レポートと論文の違い 5．述べることと説明することの違い 6．課題解決型の文章構成 7．レポート提出 課題：時事問題など 1）学習したことをもとに文章を書く 2）グループで、日本語表現の基本と文章作成のポイントを視点に、クリティークする 3）2）と講師からの指導を受けて、文章を修正する	

評　価	筆記試験　1時間（30%）、レポート課題（70%）を総合評価する
教科書	参考資料提示
参考書	

基礎分野　科学的思考の基盤

科目名	単位数	開講期
情報科学	１単位 30 時間	１年次前期～後期

＜設定理由＞

現代社会はＩＴ化がすすみ、生活のいたる場面で気軽にコンピュータから情報を得て活用できるようになった。医療の分野でも、安全な医療を合理的・効率的にすすめるためにコンピュータが導入され、看護においても情報処理の基礎は不可欠なものになっている。本講義では、氾濫する情報に関する倫理的配慮を理解したうえで、情報を適切に活用するための基礎を学ぶ。さらに、看護研究に活用できるような統計データの見方と処理方法を学び、プレゼンテーション能力を身につける。

＜目　　的＞

情報科学の基礎知識を学び、コンピュータを活用するための基本操作を身につける。さらに統計学に基づいた情報の整理と情報処理の基礎を身につけ、看護の学習に役立てる。

＜目　　標＞

１．膨大な情報から真に必要な情報を選択する視点を身につける
２．コンピュータの特性としくみがわかり、基本的な操作方法を理解する
３．情報をめぐる倫理的問題と情報管理の必要性を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．情報の基礎知識	15	１．情報と情報処理 ２．コンピュータの概要としくみ ３．コンピュータネットワークとインターネット ４．情報セキュリティと情報倫理 ５．医療を支えるコンピュータネットワークシステム ６．コンピュータおよびソフトウエアの操作 ７．情報検索（医療・看護文献の Web 検索）	中 村　秀 夫
２．コンピュータの活用	14	１．文書作成ソフトの活用 ２．統計処理の概要と表計算ソフトの活用 ３．プレゼンテーションソフトの活用	

評　価	実技試験　１時間
教科書	系統看護学講座・別巻　看護情報学　医学書院
参考書	

基礎分野　科学的思考の基盤

科目名	単位数	開講期
論理学	1 単位 30 時間	1 年次前期～後期

＜設定理由＞

この学校は一貫した看護論で学生を育てています。その看護論はナイチンゲール看護論（科学的看護論）です。

では、その看護論はどうやったら身に付くのでしょう。看護学や看護技術の１つ１つをきちんと学ぶのは当然です。しかしそれだけでは「ストン」とは落ちないでしょう。何が足りないのでしょう。「一貫した」のところです。この学校に入学する以前の学習を振り返ってください。１つ１つの教科をバラバラに勉強しバラバラな知識として頭に収めていたはずです。「一貫」とは程遠い学び方です。「一貫した看護論」で全ての教科を統括するには、統括できる強靭な頭脳を作る必要があります。その役割を担うのが論理学の授業です。

＜目　　的＞

論理とは共通性のことです。共通性をとり出す力が論理能力です。専門家になるための勉強は「より詳しく、より細かく」という方向に向きやすい。論理学の授業は逆向きです。関係がなさそうな事象に共通性を見つける練習を積みます。その繰り返しの中で「先に共通性を想定してから個別の問題を考えた方が本質に早く近づける」と気づいていきます。これが「一般論を媒介させる」という科学的な考え方です。看護で言うなら「看護とは患者の生命力の消耗を……」です。物事の変化であれば「相互浸透」「量質転化」…です。

こういう一般論や視点、考えの枠組みがサッと頭に浮かんでしまう、そういう頭を創りたいのです。

＜目　　標＞

１．共通性を見つける力を付ける（それを「のぼる」と言います）。そのための教具（円錐モデル）を操作しながら「のぼりおり」の像を創ります。

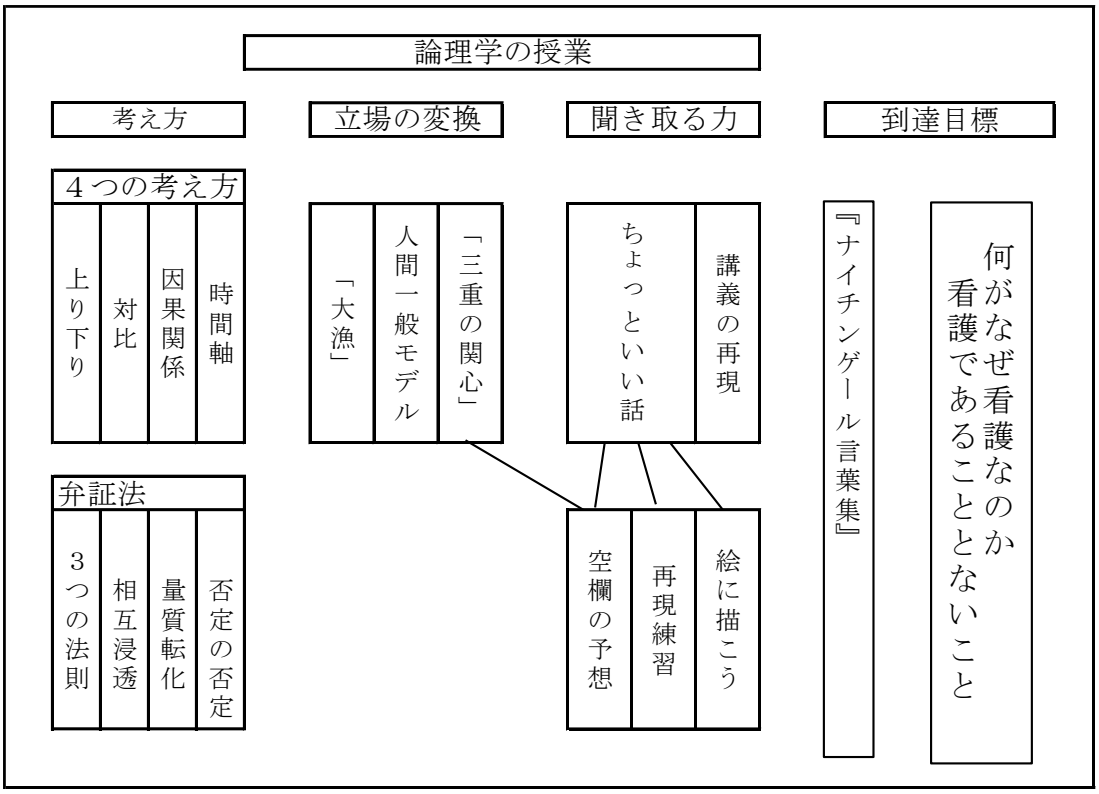
２．具体例を聞いたら、まず場面の絵やモデル図（人間一般モデル、像モデル、円錐モデル…）を描く癖をつける。時間（歴史、生活過程……）に関する情報が出てきたらすぐに時間軸を書く。頭の中だけで考えると１点に集中してしまいます。全体が見えなくなります。絵や図は全体像を見せてくれます。

３．一人で孤独に考えられる力を付ける。グループワークで相手の持てる力を引き出せる質問ができるようにする。クラス全員に向かって自分の意見が言える度胸を付ける。授業はこの 3 種類の編成で進められます。

４．考えを文章化する力を付ける。考える力を付けるために書く。書きっぱなしではなく、推敲する。その過程を通して「自問自答」できるようにしていきます。

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
ガイダンス	2	１．授業の進め方、宿題、成績評価の説明。	森　　誠 治
「いま・ここ」を拡げる	16	２．メロンガム、サッカー場の飲み物、東日本大震災	
見えないものを見る工夫		３．アイロンをかける前に霧吹きするのはなぜ 地下鉄サリン事件、消化器・循環器・呼吸器の共通性は？	
推敲	4	４．自作の推敲　何度も行います	
立場の変換	4	５．「大漁」「あなたと私」「もう一人の自分」	
何がなぜ看護なのか	4	６．実習場面を素材にします。ここまでの学びの総合化です。	
その他		７．毎回、『ナイチンゲール言葉集』や「私のちょっといい話」を読みます。	

評　価	平常点 50 点（毎回授業の最後に書く「振り返り」、宿題、ミニテスト）、レポートテスト 40 点、クラスパワー10 点、ミスナシポイント 5 点
教科書	・ナイチンゲール言葉集（現代社）
参考書	その都度紹介します



基礎分野　人間と生活・社会の理解

科目名	単位数	開講期
発達心理学	1 単位 30 時間	1 年次前期

＜設定理由＞

人間は個別の認識をもち、生活過程の中で互いにつくり合う社会的存在である。看護の対象は、各発達段階にある発達課題と向き合い成長し続けている存在である。看護は、そのような対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることにある。そのためには、対象となる人間を理解し、対象に合わせて看護を実践することが必要となる。また、看護は対象との相互作用により育まれるため、看護師自身の自己理解も必要となる。さらに、望ましい健康状態は、身体・心・社会関係の三者のバランスがとれている状態であり、持てる力を十分に発揮できている状態であることから、心と身体の関係についても理解する必要がある。

そこで、心理学の側面から人間を理解し、発達に関する学習内容に重点をおいて、看護における対象理解につなげる。

＜目　　的＞

看護実践で重要となる対象理解と対人関係の構築に役立てる。

＜目　　標＞

１．人間の心の成り立ちや心と身体の関係について、心理学の基礎知識を理解する

２．認知・行動・発達・パーソナリティ形成の側面から人間を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．心理学とは	2	１．心理学とはどのような学問か ２．対人援助と心理学 ３．心理学の歴史 ４．心理学の研究方法	今 在　景 子
２．感覚と知覚	2	１．外界を理解する心のはたらき ２．感覚のしくみとはたらき ３．知覚のしくみとはたらき	
３．記憶	2	１．記憶のメカニズム ２．感覚・短期記憶と作業記憶 ３．長期記憶と忘却	
４．思考・言語・知能	4	１．思考 ２．言語とコミュニケーション ３．知能 ４．知能検査	
５．学習	2	１．学習とは ２．古典的条件づけ ３．オペラント条件づけ ４．社会的学習と効果的な学習方法	
６．感情と動機づけ	2	１．感情の諸相 ２．感情のメカニズム ３．動機づけ ４．動機づけの理論	

7．性格とパーソナリティ	3	1．性格とは 2．性格の理論 3．性格の測定 4．性格検査の体験	
8．社会と集団	4	1．社会的認知 2．態度と説得的コミュニケーション 3．対人関係と対人魅力 4．集団とリーダーシップ	
9．発達	6	1．発達とは 2．乳幼児の発達 3．児童・青年の発達 4．成人・高齢者の発達	
10.心理臨床	2	1．心理臨床と臨床心理 2．心の適応と不適応 3．心理療法	

評　価	筆記試験　1時間
教科書	・系統看護学講座　基礎分野　心理学　医学書院
参考書	・発達心理学　心の謎を探る旅　長谷川 真 理　（北樹出版） ・エイジング心理学　老いについての理解と支援 谷 口　幸 一　他（北樹出版）

基礎分野　人間と生活・社会の理解

科目名	単位数	開講期
地域社会学	1単位 15時間	1年次前期

＜設定理由＞

私たちが生まれ育った街、函館。江戸時代の日米和親条約によって開港して以来、海外文化が入り異国情緒あふれる街、函館。全国において魅力度の高い街として観光地としても人気が高い街、函館。吹奏楽が盛んで、さらにGLAYやJUDY AND MARYといった90年代後期における日本の音楽シーンを築き上げた街、函館。ラッキーピエロのチャイニーズバーガー、カリフォルニアベイビーのシスコライス、ハセガワストアのやきとり弁当を中心とした食文化を有する街、函館。

受講生のみなさんにとっては、こうした函館「像」は、何度も耳にしたであろう「あたりまえ」の姿です。しかしながら、函館の「外」にて暮らしている人、育った人にとっては、「あたりまえ」ではありません。

本講義では、自分の育った函館について俯瞰して見て、考えることによって、自分のもつ「あたりまえ」を疑うところから出発します。そして、函館の良いところや、より良くすべき点について自分なりの考えを持ち、説明できるようになることを目標としています。

最終的に、「自分は、函館でこんな看護師になりたい！」と、目標を設定するきっかけになることを願っています。

＜目　　的＞

函館を中心に道南地区における医療的貢献の視野について、「地域社会学」での学びを通して、自分なりに関心を持ち、分析枠組を構築するとともに自分なりの言葉で説明できるようになる。

＜目　　標＞

1．函館市を中心とした、地域社会の歴史的変遷について知る
2．地域社会学および都市設計のフレームワークについて理解する
3．函館市がかかえる課題について理解し、自分の考えを提示できる

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．地域社会とは 2．都市の社会学的分析 3．都市と農村 4．過疎地域へのまなざし① 5．やってみよう！都市設計① 6．やってみよう！都市設計② 7．まとめ	14	1．イントロダクション:「地域社会学」とは何か？ 2．地域社会のフレームワーク 3．地域社会の比較分析（東京都と函館） 4．人口集中と過疎化の問題：医療・福祉、単身高齢者、貧困の再生産 5．都市設計のフレームワーク 6．理想的な街と暮らしとは？：今までの良さを活かして、不備を改善する 7．まとめ：課題に対して私たちができること	伊藤　好一

評　価	筆記試験　1時間
教科書	特に指定しない
参考書	講義中適宜紹介する

基礎分野　人間と生活・社会の理解

科目名	単位数	開講期
家族社会学	1単位30時間	1年次後期

＜設定理由＞

社会はさまざまな集団で成り立っており、人はそれら集団に所属し、人と人との関わりを持ちつつ生活している。それらの社会集団のなかで、私達が通常、最初に所属し社会関係をもつ集団が家族である。すなわち、私たちは家族の一員として生まれ、家族を媒介にして親族、地域社会へと関係を広げていく。家族は私達にとって最も身近な集団であり、生活の基本単位である。

しかし、家族のありようは、その時代や社会によってさまざまであり、今日では少子高齢化、晩婚化、核家族化、価値観の多様化により、さらに複雑化している。ここでは、家族社会学の基礎的な概念をふまえながら、現代社会における家族の諸相について学び、家族を含めた看護を展開する能力を養うための基礎的な学習をする。

＜目　　的＞

人間を社会的存在、生活する存在として理解し、家族が社会の変動に伴いどのように変化してきたのかをとらえ、社会の最小単位である家族と家族関係を学ぶ。

＜目　　標＞

1．社会の変動と社会の成り立ちを理解する
2．家族の定義と分類、構造と機能を理解する
3．家族のライフサイクルにおける課題を理解する
4．家族の安定維持のために必要な親族や地域社会との関係を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．社会と価値観	9	1．社会の成り立ちと変動 　1）現代社会の特徴 　2）個人と社会関係 2．現代社会と価値観 　1）科学（医療）技術の発達と価値観 　2）文化と価値観の関係 　3）信仰と価値観の関係	伊　藤　好　一
2．社会と家族	21	1．家族の基本概念 　1）家族の変貌 　2）ライフステージと家族の課題 2．家族の機能 　1）ジェンダーの概念 　2）コミュニケーションの概念 　3）ケアの社会化 3．生活と社会 　1）地域集団 　2）集団と行動特性	

評　価	レポート課題を評価する
教科書	・系統看護学講座　別巻　家族看護学　上別府 圭 子　他（医学書院）
参考書	

基礎分野　人間と生活・社会の理解

科目名	単位数	開講期
コミュニケーション論Ⅰ （人間関係論）	1単位30時間	1年次前期

＜設定理由＞
人間は、自然環境及び社会環境との相互作用の中で生活し、絶えず変化している存在である。看護は、あらゆる成長発達段階にある人、並びにあらゆる健康の段階にある個人及び家族・集団を対象としており、対象との信頼関係の上に成り立っている。また、看護実践においては、保健医療福祉チームの中で連携・協働する調整的役割が求められている。そのため、より良い人間関係を築き看護（対象）の目標を達成することが必要となる。
そこで、より良い人間関係を築くための理論と技術の基本について学ぶ。

＜目　　的＞
より良い人間関係を築くための理論と技術の基本について学び、看護の目標を達成するために、看護の対象と保健医療福祉チームとの人間関係の構築に役立てる。

＜目　　標＞
１．人間関係の基本的意義について理解する
２．人間関係に影響を与える因子について理解する
３．人間関係の構築のスキルについて実践をとおして理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．人間関係の中の自己と他者	2	１．人間関係論とは ２．自己認知 ３．対人認知	今在　景子
２．対人関係と役割	2	１．対人関係の成立 ２．対人関係の維持と崩壊 ３．対人葛藤と対処 ４．社会的役割	
３．態度と対人行動	2	１．態度と態度変化 ２．説得的コミュニケーション ３．攻撃 ４．援助	
４．集団と個人	2	１．集団の特性 ２．集団での課題遂行 ３．集団での問題解決と意思決定 ４．リーダーシップ	
５．コミュニケーション	2	１．コミュニケーションとは ２．対人コミュニケーション ３．マスコミュニケーション ４．ICTの発達とコミュニケーション	
６．カウンセリングと心理臨床	5	１．カウンセリング・心理療法の理論とスキル ２．様々な理論によるカウンセリング	
７．コーチング	2	１．コーチングの理論とスキル	
８．アサーティブ－コミュニケーション	2	１．アサーションの理論とスキル	

９．人付き合いのスキル	５	１．アサーティブでいるためのしくみの理解 ２．事実と感情の切り分け	
10.信頼関係をどのように構築するか	５	１．非合理的思考 ２．アクティブリスニング	
評　価	筆記試験　１時間		
教科書	・系統看護学講座　基礎分野　人間関係論　石川ひろの　他（医学書院）		
参考書			

基礎分野　人間と生活・社会の理解

科目名	単位数	開講期
コミュニケーション論Ⅱ （社会人基礎力）	1単位30時間	1年次前期

＜設定理由＞

人間は、自然環境及び社会環境との相互作用の中で生活し、絶えず変化している存在である。看護は、あらゆる成長発達段階にある人、並びにあらゆる健康の段階にある個人及び家族・集団を対象としており、対象との信頼関係の上に成り立っている。また、看護実践においては、保健医療福祉チームの中で連携・協働する調整的役割が求められている。そのため、より良い人間関係を築き看護の目標を達成することが必要となる。

そこで、専門的知識と技術を発揮するための土台となる「社会人基礎力」とビジネスマナーについて学ぶ。

＜目　　的＞

対人関係の中で、看護師として責任とやりがいをもち、活躍するために（自己の持てる力を十分に発揮するための）職業人としての基礎となる能力を養う。

＜目　　標＞

１．職業人に求められる社会人基礎力について理解する

２．看護を学ぶ社会人としてのビジネスマナーを習得する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．社会人基礎力について	8	１．社会人基礎力とは １）職業人に求められるものとは ２）社会人基礎力の構成要素 ３）仕事の基本：ＰＤＣＡサイクル	藤本　恭子
２．ビジネスマナーについて	22	１．ビジネスマナー １）コミュニケーションとは （１）コミュニケーションの意義 〔演習〕 ・コミュニケーション技法 ２）ビジネスマナー入門 （１）社会人としての心得 （２）ヒューマンスキル３ヵ条（笑顔・挨拶と返事・相手の立場に立つ） 〔演習〕 ・報告・連絡・相談 ・接遇 ・敬語の使い方	

評　価	レポート課題を評価する
教科書	参考資料提示
参考書	

基礎分野　人間と生活・社会の理解

科目名	単位数	開講期
生活科学	1単位30時間	1年次前期～後期

＜設定理由＞

看護は、人間の生活に直接的に関わる仕事である。

生活とは人間生命の活動であり、“人間生命の維持”と“社会的活動”という二つの側面をもつ。(“人間生命の維持”は家庭での日常生活、“社会的活動”は仕事と考えてよい)

前の側面が後の側面を支え、後の側面が前の側面を導くというサイクルがスムーズに進むと人間は健康に生活していける。

しかし、人間は個別な認識によって動いていくので、この生活のサイクル（ライフサイクル）も多様となり、必ずしも健康に生活していけるとは限らない。

ナイチンゲールは「すべての幼児、すべての人たちが健康への最善の機会を与えられるような方法、すべての病人が回復への最善の機会を与えられるような方法が学習され実践されるように」と述べている。

生活科学では、「すべての人たちが健康への最善の機会を与えられるような方法」に焦点を当てる。具体的には『看護覚え書』を学び、そこから自己の学生生活を見つめ・改善していく。この繰り返しを通して、「健康な生活（ライフサイクル）とはどういうものか」ということを自分自身の事実で納得できるように学んでいく。

こうして学生生活で築きあげた「健康な生活（ライフサイクル）とは」という像は、将来看護師として患者という他者の生活を整えるときに“ものさし”となっていく。「生命力の消耗を最小にするように生活過程を整える」という看護の基盤となっていくと期待できる。

＜目　　的＞

自己の学生生活を健康に整えられる能力を養う。

＜目　　標＞

1．より快適な人間生活を営むために必要な生活全般の知識を理解する
2．健康な生活を整えるために必要な考え方としての“生命とは”（代謝）“人間とは”（認識）について理解する
3．健康な生活（ライフサイクル）をイメージするため『看護覚え書』を学ぶ
4．自己の生活の事実と『看護覚え書』で学んだことを比較して健康な生活（ライフサイクル）をイメージする
5．自己の生活を健康なものに整えるための改善策を挙げられる

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．生活科学とは	2	1．生活科学とはどういうものか 1）生活科学とは 2）生活とは 3）生命とは（代謝：摂取－自己化－排泄） 4）人間とは（認識） 〔学習の視点〕 「赤ん坊の世話」を通して、『看護覚え書』の全体像を知るとともに、生活科学のおおよその姿と学び方を知る。	小河　一敏

2.『看護覚え書』と自己の生活を比較して、健康な生活をイメージする	16	1.『看護覚え書』と自己の生活を比較して、健康な生活をイメージする 1）各章の意味を捉える 〔学習の視点〕 “生命とは”“人間とは”に照らして意味を捉える。 （1）換気と保温 （2）住居の健康 （3）部屋と壁の清潔・からだの清潔 （4）ベッドと寝具類・陽光 （5）ロンドンの子供たち・変化 （6）食事・食事の選択	
	6	2）学生個人のライフサイクルとその実態レポートより、現状を明らかにする （1）24時間の過ごし方 （2）1－1）－（1）（2）（3）（4）（5）（6）の生活の実態 3）自己の生活の事実と理論を比較して健康な生活（ライフサイクル）をイメージする （1）1－1）2）より、自己の生活の改善点を具体的に挙げる （2）1－1）－（1）（2）（3）（4）（5）（6）の生活がライフサイクルとして繋がりをもって個々が存在していることをイメージする （3）1－1）－（1）（2）（3）（4）（5）（6）の生活を整える視点が明確になる ＊2）3）はレポート課題として提出する	
3.「健康な生活（ライフサイクル）」像の習熟	6	1. これまでの学びを総括し、「健康な生活（ライフサイクル）」とはどういうものかを描く 〔学習の視点〕 学生生活で描いた「健康な生活（ライフサイクル）」を十分に復習する。 その上で、家庭生活の中での家族関係・衣食住を含めた生活環境・社会環境という面にも視野を広げていく。	

評　価	提出物とレポート課題を総合評価する
教科書	・「看護覚え書」に学ぶ生活科学ワークノート 小 河　一 敏（㈱アノック） ・看護学生宇宙を学ぶ　小 河 一 敏　（㈱アノック）

	・看護覚え書－看護であること看護でないこと－ フロレンス・ナイチンゲール　（現代社） ・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）
参考書	・看護学原論講義　薄 井　坦 子　（現代社）

基礎分野　人間と生活・社会の理解

科目名	単位数	開講期
教育学	1単位 15 時間	2年次前期～後期

＜設定理由＞

人間は、自己実現を目指し自由意思を働かせて、主体的に行動する存在である。その成長発達過程において、その後の人間形成に教育が担う役割は大きい。

意図的教育とは、学習者に意図をもって働きかけ、学習者の持てる力を伸ばし望ましい姿に変化させることである。そして、看護も個人の持てる力を引き出して活用することにあり、健康な生活に関する教育的役割をもつ。

そこで、教育的側面から対象を理解し、対象に合わせた患者指導・健康教育が必要となるため、人間形成に関する教育の機能と発達段階に合わせた教育方法について学ぶ。また学習者自身が教育学を学ぶことで、自己学習力を習得する。

＜目　　的＞

人間形成に関する教育の機能と発達段階に合わせた教育方法を学び、人間理解や対象の健康な生活に関する教育指導に役立てる。

＜目　　標＞

1．人間形成における教育の機能を理解する
2．教育制度および現代社会の特徴と教育をめぐる問題を理解する
3．教育の目標と評価の意義と関係について理解する
4．発達段階に合わせた教育方法を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．教育の機能	2	1．教育の機能 1）教育とは 2）学習とは	風　間　和　夫
2．教育の対象と教育の場	2	1．教育の対象 2．教育の場 1）家庭　2）学校　3）地域	
3．教育の制度	2	1．教育の制度 1）教育基本法の基本理念 2）学校教育 3）社会教育・生涯教育	
4．現代社会の特徴と教育をめぐる問題	2	1．現代社会の特徴と教育をめぐる問題 1）現代社会の光陰と教育 2）社会問題としての教育・身近な話題としての教育	
5．教育の目標と評価	2	1．教育の目標と評価の意義と関係 1）目標とは 2）計画とは 3）評価とは	

６．発達段階別教育方法	４	１．発達段階別教育方法 １）学習援助原理 （１）子ども （２）成人 （３）高齢者	

評　価	筆記試験　１時間 、レポート課題を総合評価する
教科書	・系統看護学講座　基礎分野　教育学　木 村　　元　他（医学書院）
参考書	

基礎分野　人間と生活・社会の理解

科目名	単位数	開講期
英語Ⅰ	１単位 15 時間	３年次前期

＜設定理由＞

看護はあらゆる成長発達段階にある人、並びにあらゆる健康の段階にある個人及び家族・集団を対象とする。また、看護は社会の変動に伴って、変化するニーズに対応する社会的活動である。昨今、社会の国際化が進み、異文化の交流が盛んになる中、医療現場においても英語によるコミュニケーション力が求められている。

そこで、医療現場で英語によるコミュニケーション能力を発揮するために、前提となる基礎英語について学ぶ。

＜目　　的＞

社会の国際化により看護の対象も多様化しているので、国際共通語である英語をとおして異文化に触れ、医療現場での看護実践に役立てる。

＜目　　標＞

１．英会話の基礎となる英語表現（読む・書き・聞く・話す）を理解する

２．英語の学習をとおして異文化に関心をもつことができる

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．英文法の基礎	6	１．英文構成の基礎	上 山　恭 男
２．英文読解とリスニング	4	１．ＤＶＤ（映画）による英文読解とリスニング	
３．英語表現	4	１．英語表現 １）ＤＶＤ鑑賞による感想を英語で表現する	

評　価	筆記試験　１時間、平常点を総合評価する
教科書	・ようこそ！ニッポンへ　映像で学ぶ大学基礎英語　留学生の日本文化体験 田地野　　彰　他（朝日出版社）
参考書	

基礎分野　人間と生活・社会の理解

科目名	単位数	開講期
英語Ⅱ	１単位 30 時間	３年次後期

＜設定理由＞
　看護はあらゆる成長発達段階にある人、並びにあらゆる健康の段階にある個人及び家族・集団を対象とする。また、看護は社会の変動に伴って変化するニーズに対応する社会的活動である。昨今、社会の国際化が進み、異文化の交流が盛んになる中、医療看護の現場においても英語によるコミュニケーション能力が求められている。
　そこで、医療現場で求められる英語によるコミュニケーション能力を養う。
＜目　　的＞
　日常会話や臨床場面の英語でのコミュニケーション能力を養い、看護実践に役立てる。
＜目　　標＞
　１．英語による日常会話の基本的な会話ができる
　２．医療場面で英語による基本的な会話ができる

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．日常会話	9	１．日常会話の基本 〔演習〕 ・日常のコミュニケーション	上 山　恭 男
２．医療場面での英会話	20	１．医療場面での英会話の基本 １）基礎的な看護用語 ２）医療専門用語 〔演習〕 ・医療場面でのコミュニケーション	

評　価	リスニング・筆記試験　１時間（70%）、演習（30%）を総合評価する
教科書	・医療と看護の総合英語〔三訂版〕　笹 島　　茂　他　（三修社）
参考書	・ＤＶＤで学ぶ看護英語　園城寺 康 子　他（成美堂）

基礎分野　人間と生活・社会の理解

科目名	単位数	開講期
音　楽	１単位 15 時間	２年次前期～後期

＜設定理由＞

音楽は、嬉しい・楽しい・悲しい・辛いときなど、人間の人生に寄り添うように存在しており、生活する上で不可欠なものである。医療の現場でも音楽は癒しであったり、勇気づけられたり、入院生活に彩りを加えるものとなっている。さらに、音楽は人と人をつなぐコミュニケーションとしても意味を成す。

そこで、音楽をとおして、豊かな感性と創造性を育み、生活の中にある音楽の力を看護実践に役立てたい。

＜目　　的＞

音楽をとおして、豊かな感性と創造性を育む。また、音楽からその時代ごとの背景を読み取り、対象の理解と対象への関わりにつなげる。

＜目　　標＞

１．音楽のもつ意義について理解する
２．音楽（歌詞・リズム）をとおして、楽しさなどの様々な感情を実感できる
３．各年代の童謡・歌謡曲をとおして、時代背景と文化について理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．音楽の意義	2	１．音楽とは １）学生のこれまでの人生経験より、音楽のもつ意義につなげる ２）校歌のもつ意味を読み解く	佐々木雅代
２．音楽鑑賞と合唱	6	１．合唱 １）校歌 ２）各年代の童謡・歌謡曲	
３．リズム	6	１．リズム １）童謡 ２）函館賛歌 ３）いか踊り	

評　価	レポート課題を評価する
教科書	・講師資料
参考書	

基礎分野　人間と生活・社会の理解

科目名	単位数	開講期
保健体育	１単位 15 時間	２年次前期

＜設定理由＞
　適切な運動・身体活動は、生活習慣病の予防やストレス解消など、健康な生活のために重要である。
　そこで、現代生活における健康と運動の意義、運動と体の関係、健康な生活を送るための運動の留意点と実践を学び、疾病の予防や健康の保持増進に役立てる。また、運動を実践し、楽しさやリラグゼーション効果を実感し、自己表現力を高め協調性を養う。
＜目　　的＞
　健康の保持増進に関する運動の知識と具体的な方法を学び、疾病の予防や健康の保持増進に役立てる。
＜目　　標＞
　１．現代社会における健康と運動の意義を理解する
　２．健康の保持増進、および疾病予防のための運動の留意点と実践方法を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．健康管理と運動	5	〔講義〕 １．現代人の健康状態 ２．健康危機と生活環境 ３．健康の概念 ４．健康観 ５．健康とストレス ６．運動の必要性 ７．安全な運動実践 ８．子どもと高齢期の健康と運動 ９．運動プログラムの作成と実際	齊藤　恭平
２．フィットネス	9	〔実技〕 １．体力診断テスト ２．ウォーミングアップとクールダウン ３．フィットネストレーニング （ストレッチングとストレッチングストレーニング） ４．フィットネスエクササイズ （腰痛体操・肩こり体操・メタボ体操）	

評　価	レポート課題を評価する
教科書	・講師資料
参考書	

専門基礎分野　人体の構造と機能

科目名	単位数	開講期
解剖生理学Ⅰ	1単位 15 時間	1年次前期

＜設定理由＞

人間は、ヒトであることの共通な特徴をそなえた生物体としてのあり方と、その人らしい特殊性と個別性をあらわす生活体としてのあり方が有機的に絡み合って統一されている存在である。看護は対象の持てる力を最大限に働かせながら生きていけるように、生活過程を整えることにある。看護師は対象の“いのちを守る”ために健康状態を把握し、“日々の生活を安楽にする”ために健康状態に合わせて、日常生活を支えることが求められる。

そこで、健康な状態にある正常な人体の構造と機能を学び、生活と関連させて理解する必要がある。

『解剖生理学Ⅰ』では、正常な人体の構造と機能を理解する上で基礎となる知識（見方・考え方）を学習する。

＜目　　的＞

対象の健康状態を判断し、健康状態に合わせた回復への支援と日々の生活を安楽にするための基礎的能力を養う。

＜目　　標＞

１．人体のしくみや働きを学ぶ上で基礎となる知識（見方・考え方）を理解する。

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．人体の大要をつかむ	14	〔学習の視点〕 健康な身体の構造と機能の概要をおさえる。その上で、身体の部位・器官等の名称や位置関係を自分の身体を使ってイメージ出来るようにする。 １．人体とはどのようなものなのか １）人体の階層性 （１）個体―器官系―器官―組織―細胞―細胞小器官―分子 （２）60 兆の細胞の秩序だった構造 （３）自然界における人類の位置 ２．人体の素材としての細胞・組織 １）細胞 （１）細胞の構造・機能 （２）細胞を構成する物質とエネルギーの生成 （３）細胞膜の構造と機能 （４）細胞の増殖と染色体 ２）組織 （１）分化した細胞がつくる組織 ３．構造と機能からみた人体 １）構造からみた人体 （１）人体の区分、腔所と膜、人体の形状、方向と位置など ２）機能からみた人体 （１）生命維持システムとしての植物機能と運動 （２）調節システムとしての動物機能	枝澤　寛

		４．体液とホメオスタシス １）体液・内部環境とホメオスタシス （１）体液の分類と量、電解質、血漿のpH、酸素分圧、糖分、体温、神経性調節と液性調節	
評　価	筆記試験　１時間		
教科書	・系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能〔１〕解剖生理学 坂 井　建 雄　他　（医学書院）		
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・人体の構造と機能　第４版　エレイン Ｎ．マリーブ　（医学書院）		

専門基礎分野　人体の構造と機能

科目名	単位数	開講期
解剖生理学Ⅱ	1単位30時間	1年次前期

＜目　　的＞
対象の健康状態を判断し、その状態に合わせた回復への支援と日々の生活を安楽にするための基礎的能力を養う。

＜目　　標＞
1．生命を維持する働きを担う器官（循環器系・呼吸器系）の構造と機能を理解する
2．統一体を支える血液の構造と機能を理解する
3．外部環境からの防御をする器官（皮膚・防御機構・体温調節）のしくみと機能を理解する

単　元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．生命を維持する働き	16	〔学習の視点〕 生命を維持し、活動を可能にするエネルギーを生み出すために必要な酸素の取り入れ方やその体内分配のしくみと人体を守る免疫システムを学ぶ。 1．流通経路としての循環器系の構造と機能 1）循環器系の構成（体循環・肺循環） 2）心臓の構造 3）心臓の拍出機能（心臓の興奮と伝播・心電図・心臓の収縮） 4）末梢循環系の構造と機能（血管・リンパ系の構造と機能・血管の種類と構造・脳循環の特徴） 5）血液循環の調節（血圧・血液の循環・調節） 6）リンパとリンパ管（リンパ管の構造と循環） 2．呼吸器の構造と機能 1）呼吸器系の構成 2）呼吸器の構造 3）呼吸器の機能（外呼吸と内呼吸・呼吸運動・呼吸器量・ガス交換とガス運搬・肺循環と血流・呼吸運動の調節）	古　城　　徹
2．統一体を支える血液の働き	5	〔学習の視点〕 生命を維持し、活動を可能にするエネルギーを生み出すために必要な酸素の取り入れ方やその体内分配のしくみと人体を守る免疫システムを学ぶ。 1．血液 1）血液の組成と機能 2）血球：赤血球・白血球・血小板 3）血漿タンパク質と赤血球沈降速度 4）血液の凝固と線維素溶解	枝 澤　　寛

		５）血液型	
３．外部環境からの防御	８	１．侵入物に対する生体防御機構のしくみと働き １）皮膚の構造と機能 ２）生体の防御機能 ３）体温とその調節	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能〔１〕解剖生理学 坂 井　建 雄　他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・人体の構造と機能　第４版　エレイン Ｎ．マリーブ　（医学書院）

専門基礎分野　人体の構造と機能

科目名	単位数	開講期
解剖生理学Ⅲ	1単位 30 時間	1年次前期～後期

＜目　　的＞
対象の健康状態を判断し、その状態に合わせた回復への支援と日々の生活を安楽にするための基礎的能力を養う。
＜目　　標＞
1．食物を消化・吸収する働きを担う器官（消化器系）の構造と機能を理解する
2．内部環境を維持する働きを担う器官（腎・泌尿器系）の構造と機能を理解する

単　元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．食物を消化・吸収する働き	15	〔学習の視点〕 人体を構成しエネルギーを得るために、必要な栄養素はどのように取り入れ、処理されていくのか、そのために必要な消化管のつくりやしくみを学ぶ。 1．口・咽頭・食道の構造と機能 2．腹部消化管の構造と機能 1）胃・小腸・大腸の構造と機能 2）小腸における消化 3）栄養素の消化吸収 （1）糖質　（2）タンパク質 （3）脂肪　（4）水 （5）電解質　（6）ビタミン 4）大腸の構造と機能 5）腹膜 3．膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 1）膵臓 2）肝臓と胆嚢（門脈） 3）肝臓	佐々木 春 喜
2．内部環境を維持する働き	14	〔学習の視点〕 内部環境がどのように調節されていくのか、腎・泌尿器のつくりやしくみを学ぶ。 1．腎臓・泌尿器の構造と機能 1）泌尿器系の構成 2）腎臓の構造と機能 （1）糸球体・糸球体ろ過・尿細管・尿の生成 （2）傍糸球体装置（レニン－アンギオテンシン－アルドステロン系） （3）腎臓から分泌される生理活性物質（エリスロポエチン） 2）排尿路の構造と機能 （1）尿の貯蔵と排尿 3）体液の調節 （1）水の出納・酸塩基平衡（アシドーシスとアルカローシス）	非 常 勤 講 師

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能〔１〕解剖生理学 坂 井　建 雄　他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・人体の構造と機能　第４版　エレイン Ｎ．マリーブ　（医学書院）

専門基礎分野　人体の構造と機能

科目名	単位数	開講期
解剖生理学Ⅳ	1単位30時間	1年次前期

＜目　　的＞
対象の健康状態を判断し、その状態に合わせた回復への支援と日々の生活を安楽にするための基礎的能力を養う。

＜目　　標＞
1．人間を統合する脳の働きを担う器官（脳・神経系）の構造と機能を理解する
2．外界と個とを適応させる働きをもつ器官（感覚器系）の構造と機能を理解する
3．生活をつくりだし行動範囲を拡大する働きを担う器官（運動器系）の構造と機能を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．人間を統合する脳の働き	14	〔学習の視点〕 その人を支配、統合する人間特有の頭部のつくりやしくみを学ぶ。 1．脳・神経系の構造と機能 1）神経系の構造と機能 2）脊髄と脳 3）脳循環 4）脊髄神経と脳神経 5）脳の高次機能 6）運動機能 7）感覚機能 8）痛覚機能	非常勤講師
2．外界と個とを適応させる働き	2	〔学習の視点〕 外界の情報を受け止める感覚器のつくりや脳への情報を伝えるしくみを学ぶ。 1．感覚器系の構造と機能 1）眼の構造と視覚	清水　信晶
	2	2）鼻の構造と味覚・嗅覚 3）耳の構造と聴覚	赤澤　茂
3．生活をつくりだし行動範囲を拡大する働き	11	〔学習の視点〕 日常生活の基盤をなす動きを可能にする骨格・骨格筋などについてつくりや働きを学ぶ。 1．運動器系の構造と機能 1）人体を構成する骨格 2）骨の構造と機能 3）骨の連結と骨格筋と神経支配 4）体幹の骨格と筋 5）上肢と下肢の骨格と筋 6）頭頸部の骨格と筋 7）筋の収縮	大森弘貴

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能〔１〕解剖生理学 坂 井　建 雄　他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・人体の構造と機能　第４版　エレイン Ｎ．マリーブ　（医学書院）

専門基礎分野　人体の構造と機能

科目名	単位数	開講期
解剖生理学Ⅴ	１単位 15 時間	１年次前期

＜目　　的＞
　対象の健康状態を判断し、その状態に合わせた回復への支援と日々の生活を安楽にするための基礎的能力を養う。
＜目　　標＞
　１．統一体を支える働きを担う器官（神経系・内分泌系）の構造と機能を理解する
　２．生命の連続性を維持する働きをもつ器官（生殖器系）の構造と機能を理解する

単　元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．統一体を支える働き	8	〔学習の視点〕 　人体の働きを統一体として調整する役割を担う神経系・ホルモン系のしくみを、これまでに系統的に学習した器官系の働きと関連させて学ぶ。 １．内臓機能の調節 　１）自律神経による調節 　２）内分泌系による調節 　３）全身の内分泌腺と内分泌細胞 　４）ホルモン分泌の調節 　５）ホルモンによる調節の実際	枝 澤　　寛
２．生命の連続性を維持する働き	6	〔学習の視点〕 　次世代の個体を生み出し、種を維持する役割を担う生殖器のつくりやしくみを学ぶ。 １．男性生殖器の構造や機能 ２．女性生殖器の構造と機能 ３．受精と妊娠	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能〔１〕解剖生理学 坂 井　建 雄　他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・人体の構造と機能　第４版　エレイン Ｎ．マリーブ　（医学書院）

専門基礎分野　人体の構造と機能

科目名	単位数	開講期
解剖生理学Ⅵ	1単位15時間	1年次後期

＜目　　的＞

これまでに学んだ、生活機能別の解剖生理を統合して、生活行動としての現れ方を理解することで、健康状態に合わせた回復への支援と日々の生活を安楽にするための基礎的能力を養う。

＜目　　標＞

1．生活行動をとおして、生物体と生活体の統一体としての人間を理解する
2．正常な人間の機能・構造について理解する
3．自己の健康な身体と日常生活に関心が持てる
4．生活過程を整える上で要となる"いのちを守り"“日々の生活を安楽する”“その人を尊重する”の看護の視点と関連づけることができる

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．生活行動をとおして、統一体としての人間を理解する	14	［学習の視点］ 解剖生理学Ⅰ～Ⅴを総合し、自己の健康な体と生活行動を結び付けて学ぶ。 ［学習課題］ 1．外部環境とからだ　人類誕生時の環境と今 2．外部情報調整と内部情報調整 3．息をする、 4．物質の流通　循環 5．食べる 6．トイレに行く 7．動く 8．眠る 9．話す、聞く 10．私たちの体はどうやって病原体をやっつけるのか？ 11．「日常生活行動からみるからだ」をテーマとし、自分たちが興味のある生活行動について解剖生理学をもとにメカニズムを考えてみる。 ［学習の進め方］ 1．講義・.体験学習・グループワーク 2．学びと課題の提出	大島　慈代 （実務経験教員）

評　価	課題（50%）、　筆記試験（50%）
教科書	・系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 坂井　建雄　他　（医学書院） ・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄井　坦子　（講談社） ・看護のための疾病論「ナースが視る病気」薄井　坦子　（講談社） ・フローレンス・ナイチンゲール「看護覚え書」改訳第7版（現代社）
参考書	・形態機能学　生活行動からみるからだ　第4版　菱沼　典子 （日本看護協会出版会） ・携帯機能学ワークブック体験してか考えるからだのいとなみ 菱沼　典子　（日本看護協会出版会）

専門基礎分野　人体の構造と機能

科目名	単位数	開講期
栄養学	1単位 30 時間	1年次前期～後期

＜設定理由＞

成人の人体は、細胞総数 60 兆からなり、神経系と内分泌系の働きにより恒常性が保たれ、約２％の細胞は毎日新しい細胞と入れかわっている。その細胞のつくりかえにより、健康は維持される。つまり、人間の健康状態は細胞の健康度に左右されている。それは、食事をすることに始まり、排泄をするという日常生活の営みそのものである。そのため、看護師は生活過程を整えるために、栄養素が摂取された後、どのように変化し活用され処理されるのか、物質の流れを栄養学と生化学の視点を併せて理解する必要がある。さらに、対象に合わせた健康な食生活のあり方と健康が脅かされる場合の回復に向けた食事療法についても理解が必要となる。

そこで、栄養学では、①人間が健全な生命活動を営むために必要な栄養素の働きや消化・吸収・代謝について、②ライフステージに合わせた栄養の取り方について、③健康が脅かされる場合の回復に向けた食事療法について、学ぶ。①～③の学びをもとに学生自身の食生活を振り返り、これまでの食習慣を見直す機会とする。

＜目　　的＞

生物体と生活体の両方の側面から対象の健康状態を理解し、食生活の関連において生命力を脅かされるものを発見し、生活過程を整えることに役立てる。

＜目　　標＞

１．各栄養素の性質・役割・代謝過程を理解する
２．健康を維持するために必要な栄養の取り方と栄養状態を評価する方法を理解する
３．食生活と健康障害との関連を知り、健康回復に必要な食事療法について理解する
４．自己の食生活について関心が持てる

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．栄養素の種類と働きと消化・吸収・代謝	8	１．栄養素の種類と働き １）糖質　２）脂質 ３）タンパク質　４）ビタミン ５）ミネラル　６）食物繊維 ７）水 ２．食物の消化と栄養素の吸収・代謝 １）食物の消化 ２）栄養素の吸収 ３）血液成分と栄養素 ４）栄養素の代謝 ５）吸収・代謝産物の排泄 ３．エネルギー代謝 １）食品のエネルギー ２）体内のエネルギー ３）エネルギー代謝の測定 ４）エネルギー消費	渡 邉 久里子
２．食事と食品	4	１．人間の食事と食文化 ２．日本人の食事摂取基準 ３．食品と栄養素 ４．食品群とその分類法 ５．食品の調理	

３．健康づくりと食生活	４	１．ライフステージと栄養 １）乳児期　２）幼児期　３）学童期 ４）思春期・青年期　５）成人期 ６）妊娠期　７）授乳期　８）更年期 ９）高齢期 ２．食生活と健康問題 ３．生活習慣病の予防 ４．食生活改善への施策 ５．食の安全性と表示	
４．栄養ケアとマネジメント（演習）	４	１．栄養ケアとマネジメント １）栄養アセスメントの目的 ２）栄養状態の評価・判定法 ３）栄養ケア計画 （１）エネルギー補給量の算出 （２）栄養教育 ４）演習１：自己の栄養状態を評価する 〔方法〕各種の判定法を用いて自己の栄養状態を評価する。 演習２：食生活を見直す 〔方法〕自己の１週間の食生活を挙げ、４群点数法と比較する。その上で自己の食生活の改善点を具体的にし、健康な食生活を目指せるようにする。	
５．臨床栄養（演習）	９	１．チームで取り組む栄養管理 ２．栄養補給法 １）経腸栄養法　２）静脈栄養法 ３．病院食 １）病院食の意義　２）病院食の種類 ３）疾患・症状別食事療法 ４．糖尿病の患者事例を用いて、献立を立案する １）演習 〔方法〕 ①糖尿病の治療食のカロリー、塩分制限など、必要な知識を学習する ②グループで学習を生かして献立を立案する（カロリー計算・塩分量計算を含む・フードモデルを活用） ③発表 ④まとめ	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能〔３〕栄養学 小 野　章 史　他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社）

専門基礎分野　人体の構造と機能

科目名	単位数	開講期
臨床生化学	1単位30時間	1年次前期

＜設定理由＞

人間の健康状態は、細胞の健康度に左右されている。そのため、看護師は、生物体としての健康な状態を細胞内の化学変化を分子レベルで理解することが必要となる。つまり、ミクロの世界で行われている生命現象から理解することが不可欠である。

そこで、臨床生化学では、生体がどのような化合物でなりたっていて、それらの化合物がどのように作られ、壊されて、生体の恒常性が保たれているのかを学ぶ。さらに、生体が正常に機能しているかを、検査データから健康状態を観る視点について学ぶ。

＜目　　的＞

生物体としての側面から対象の健康状態を理解し、生活の関連において生命力を脅かすものを発見し生活過程を整えることに役立てる。

＜目　　標＞

1．生体を構成する物質、生体内の物質代謝について理解する
2．遺伝情報とその発現について理解する
3．血液学検査・生化学検査・尿検査の基準値のもととなっている生理的な意味を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．生体を構成する物質	8	1．化学の基礎知識 1）生体をつくる元素 2）生体分子の構造と特徴 3）高分子の構造 2．細胞の構造と機能 3．物質の構造と性質 1）糖質　2）脂質 3）タンパク質　4）核酸 5）水と無機質　6）血液と尿 7）ホルモンと生理活性物質	日野　敬市
2．生体内の物質代謝	8	1．物質代謝 1）酵素 2）ビタミンと補酵素 3）糖質代謝 4）脂質代謝 5）タンパク質代謝 6）核酸代謝 7）ポルフィリン代謝 8）代謝の異常	
3．遺伝情報とその発現	7	1．遺伝情報 2．複製 3．転写 4．翻訳 5．ＤＮＡの損傷と修復	

４．臨床検査	６	１．臨床検査とは 　１）臨床検査の目的・種類・流れ 　２）基準値と正常値 　３）単位の意味 ２．各種検査のデータから身体を観る 　１）尿と便からわかること 　（１）尿のデータの読み方（その意味と疑われる疾患） 　　①尿外観、尿潜血反応 　　②尿量、比重 　　③尿pH、尿蛋白　　④尿糖 　　⑤尿ビリルビン、ウロビリノーゲン 　　⑥尿沈査 　　⑦尿妊娠反応の原理と妊娠診断薬の意義 　（２）便のデータの読み方（その意味と疑われる疾患） 　　①便潜血反応　　②寄生虫検査 　２）血液でわかる身体の情報 　（１）血液一般検査のデータ 　　①赤血球、ヘモクロビン濃度、ヘマトクリット値　②白血球とその種類 　　③血小板　④凝固系検査　⑤赤沈 　　⑥ＣＲＰ 　（２）肝臓・胆道・膵臓の機能検査 　　①ビリルビン値　②ＧＯＴ、ＧＰＴ 　　③ＡＬＰ　④γＧＴＰ　⑤ＣＨＥ 　　⑥ＴＰ/ＡＬＢ 　　⑦Ａ／Ｇ比、グロブリン、蛋白分画 　　⑧ＴＴＴ／ＺＴＴ 　（３）腎臓の機能検査 　　①ＢＵＮ　②血清クレアチニン、クレアチニンクリアランス 　　③ＵＡ　④ＰＳＰ試験 　（４）脂質代謝と糖質代謝の検査 　　①総コレステロール 　　②ＨＤＬコレステロール、βリポ蛋白 　　③中性脂肪　④血糖値 　　⑤HbA_{1c} 　（５）電解質の検査 　　①ナトリウム、カリウム 　　②カルシウム　③クロール 　　④血清鉄　他	古 木 ほのか
評　価	筆記試験　１時間		

教科書	・系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能〔２〕生化学 三 輪　一智　他　（医学書院） ・系統別看護学講座　別巻　臨床検査　奈 良　信 雄　他　（医学書院） ・検査値ガイドブック第２版　江 口　正 信　（サイオ出版）
参考書	

専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	単位数	開講期
病態学総論	1単位 15 時間	1年次前期～後期

＜設定理由＞

ナイチンゲールの病気観は、「日々の生活の中で衰えたり毒されたりするプロセスが気づかずして進行しており、それらと自然の回復力との力関係の結果として病気が現れてくる」と定義している。このことから、看護は、対象の生活の関連において生命力を脅かすものを発見し、「生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整える」ための方向を見出すことが必要となる。

そこで、健康な状態から病気への変化のプロセスと異常をきたした状態について、回復を支援するために必要な診断・治療の総論的な内容を学ぶ。

＜目　　的＞

解剖生理学の学習を土台に『病態学Ⅰ～Ⅴ』で学ぶ前提の知識を学び、対象の健康状態の変化を生活と重ねて理解することにつなげる。また、対象の健康状態に合った回復過程を支援するための基礎的能力を養う。

＜目　　標＞

1．健康な状態から病気への変化のプロセスを理解する
2．疾病の分類とそのメカニズムについて理解する
3．診断・治療の総論的な内容を理解する

単　元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．病気への変化のプロセス	2	1．健康な状態から病気へのプロセス 1）病気とその回復過程 2）病態生理とは （1）細胞や組織に生じる変化 （2）病気の原因（内因・外因）	非常勤講師
2．疾病の分類とメカニズム	6	1．疾病の分類とメカニズム 1）循環障害 2）炎症 3）代謝異常 4）先天性異常・遺伝子異常 5）腫瘍	
3．診療過程について	6	1．診療過程とは 1）診察―検査―診断―治療―評価 2）診断をつける （1）問診・理学的所見 （2）検査方法 （3）検体検査と生体検査 3）治療方法 （1）生活指導　（2）薬物療法 （3）栄養療法・輸液療法 （4）輸血療法　（5）透析療法 （6）手術療法　（7）放射線療法 （8）呼吸管理 （9）リハビリテーション （10）精神・心理療法	

		（11）その他	
評　価	筆記試験　１時間		
教科書	・系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進〔２〕 病態生理学　田 中　越 郎　他　（医学書院）		
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）		

専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	単位数	開講期
病態学Ⅰ	1単位30時間	1年次前期～後期

＜設定理由＞

ナイチンゲールの病気観は、「日々の生活の中で衰えたり毒されたりするプロセスが気づかずして進行しており、それらと自然の回復力との力関係の結果として病気が現れてくる」と定義している。そして、「看護は対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整える」ことにある。そのため、生活の関連において生命力を脅かすものを発見し整えるための方向を見出せる能力が必要となる。

そこで、体内で生じる病的な状態・症状とその原因・診断・治療を学ぶ。

＜目　　的＞

体内で生じる病的な状態、その症状と原因・診断・治療を生活と関連させて学び、対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整え、回復過程を支援する能力を養う。

＜目　　標＞

1．生命を維持する働きが障害された患者の状態を、アセスメントするための知識を理解する

2．生命を維持する働きが障害された患者の回復過程を、支援するための知識を理解する

単　元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．生命を維持する働きの障害	14	1．呼吸器系の障害 1）症状と病態生理 （1）咳嗽・喀痰・喀血 （2）呼吸困難・チアノーゼ （3）肺性心（呼吸器機能障害からの影響） （4）体液の調節障害と脱水 2）代表的疾患の病態生理・症状・検査・治療 （1）気道・肺の炎症（感冒・肺炎・インフルエンザ・結核） （2）気道の閉塞をきたす疾患（気管支喘息・肺気腫） （3）肺循環障害（肺疾患・肺塞栓） （4）肺の腫瘍（肺がん）	非常勤講師
	15	1．循環器系の障害 1）症状と病態生理 （1）胸痛・不整脈 （2）浮腫 （3）生命の危機をもたらす症状（ショック・外傷性ショック・熱中症） 2）代表的疾患の病態生理・症状・検査・治療 （1）心臓疾患（先天性疾患・虚血性心疾患・不整脈・心不全・心筋症・心内膜炎と弁膜疾患） （2）血管系の疾患（動脈硬化・高血圧・閉塞性動脈硬化・大動脈瘤・静脈瘤）	非常勤講師

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔２〕呼吸器 浅 野 浩一郎　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔３〕循環器 吉 田　俊 子　他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）

専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	単位数	開講期
病態学Ⅱ	1単位30時間	1年次前期～後期

＜目　　的＞

体内で生じる病的な状態、その症状と原因・診断・治療を生活と関連させて学び、対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整え、回復過程を支援する能力を養う。

＜目　　標＞

1．食物を消化・吸収する働きが障害された患者の状態を、アセスメントするための知識を理解する
2．食物を消化・吸収する働きが障害された患者の回復過程を、支援するための知識を理解する
3．内部環境を維持する働きが障害された患者の状態を、アセスメントするための知識を理解する
4．内部環境を維持する働きが障害された患者の回復過程を、支援するための知識を理解する

単　元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．食物を消化・吸収する働きの障害	19	1．消化器系の障害 1）症状と病態生理 （1）嘔気・嘔吐 （2）下痢・便秘 （3）腹痛・腹部膨満 （4）黄疸　　（5）吐血 （6）栄養不良 2）代表的疾患の病態生理・症状・検査・治療 （1）口腔と食道疾患（舌がん・食道アカラシア・食道静脈瘤） （2）消化管炎症（胃・十二指腸潰瘍・クローン病・腸管出血性大腸菌感染症） （3）消化管腫瘍（食道がん・胃がん・直腸がん） （4）イレウス （5）肝臓疾患（ウイルス性肝炎・肝硬変・肝不全・肝がん） （6）胆嚢・膵臓疾患（胆石症・膵炎・胆管胆のうがん・膵がん）	内藤　崇史

２．内部環境を維持する働きの障害	10	１．体液調節と排尿機能の障害 １）症状と病態生理 （１）体液の調節障害（水・電解質の異常、酸塩基平衡の異常） （２）乏尿・無尿・頻尿 （３）浮腫 ２）代表的疾患の病態生理・症状・検査・治療 （１）腎・尿路の炎症 （２）腎・尿路の腫瘍 （３）腎・尿路の通過障害（前立腺肥大症） （４）腎不全（血液透析の原理・適応・合併症）	非常勤講師

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔５〕消化器 松田　明子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔８〕腎・泌尿器 大東　貴志　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔９〕女性生殖器 末岡　浩　他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄井　坦子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄井　坦子　（講談社）

専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	単位数	開講期
病態学Ⅲ	1単位30時間	1年次後期

＜目　　的＞
体内で生じる病的な状態、その症状と原因・診断・治療を生活と関連させて学び、対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整え、回復過程を支援する能力を養う。

＜目　　標＞
1．統一体を支える働きが障害された患者の状態を、アセスメントするための知識を理解する
2．統一体を支える働きが障害された患者の回復過程を、支援するための知識を理解する
3．生体防御機能の働きが障害された患者の状態を、アセスメントするための知識を理解する
4．生体防御機能の働きが障害された患者の回復過程を、支援するための知識を理解する

単　元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．統一体を支える血液の働きの障害	8	1．血液・造血に関わる諸機能の障害 1）症状と病態生理 （1）貧血 （2）出血傾向 （3）白血球減少症 2）代表的疾患の病態生理・症状・検査・治療 （1）再生不良性貧血 （2）急性・慢性白血病 （3）悪性リンパ腫 （4）多発性骨髄腫	平山　繋樹
2．生体防御機能の働きの障害	9	1．生体防御機構の障害 1）症状と病態生理 （1）感染防御と免疫反応 （2）発熱 2）代表的疾患の病態生理・症状・検査・治療 （1）感染症（薬剤耐性菌・結核・ＨＩＶ・性感染症、新興・再興感染症） （2）敗血症と播種性血管内凝固症候群 （3）関節リウマチ （4）全身性エリテマトーデス （5）シェーングレン症候群	宮崎　　勢
3．統一体を支える内分泌代謝系の働きの障害	12	1．内分泌代謝系の機能障害 1）症状と病態生理 （1）体重変化・身長異常 （2）顔貌変化 （3）神経・筋症状 （4）循環器・消化器症状	安田　浩之

		（５）皮膚の変化 （６）無月経 ２）代表的疾患の病態生理・症状・検査・治療 （１）下垂体疾患 （２）甲状腺疾患 （３）副甲状腺疾患 （４）副腎疾患 （５）多発性内分泌症 （６）糖尿病（糖尿病性神経障害を含む） （７）脂質異常症 （８）肥満症とメタボリックシンドローム （９）尿酸代謝異常	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔４〕血液・造血器 飯 野　京 子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔６〕内分泌・代謝 黒 江 ゆり子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔11〕アレルギー　膠原病　感染症 岩 田 健太郎　他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）

専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	単位数	開講期
病態学Ⅳ	1単位30時間	1年次前期～後期

＜目　　的＞

体内で生じる病的な状態、その症状と原因・診断・治療を生活と関連させて学び、対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整え、回復過程を支援する能力を養う。

＜目　　標＞

1．人間を統合する脳の働きが障害された患者の状態を、アセスメントするための知識を理解する
2．人間を統合する脳の働きが障害された患者の回復過程を、支援するための知識を理解する
3．生活をつくりだし行動範囲を拡大する働きが障害された患者の状態を、アセスメントするための知識を理解する
4．生活をつくりだし行動範囲を拡大する働きが障害された患者の回復過程を、支援するための知識を理解する

単　元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．人間を統合する脳の働きの障害	16	1．脳・神経系の機能障害 1）症状と病態生理 （1）頭蓋内亢進症状 （2）言語障害 （3）運動障害 （4）感覚障害 （5）自律神経失調に伴う身体変化 （6）脳死 2）代表的疾患の病態生理・症状・検査・治療 （1）脳血管系の循環障害（脳梗塞・脳内出血・クモ膜下出血） （2）脳腫瘍 （3）頭部外傷 （4）脳・神経系感染症 （5）変性疾患・脱髄性の疾患（パーキンソン病・多発性硬化症） （6）認知症 （7）神経・筋疾患（ギランバレー症候群・筋ジストロフィー・筋委縮性側索硬化症） （8）てんかん	非常勤講師
2．生活をつくりだし行動範囲を拡大する働きの障害	13	1．運動機能の障害 1）症状と病態生理 （1）骨折の分類 （2）骨折の治癒経過 （3）創傷治癒 （4）疼痛・しびれ・腫脹 2）代表的疾患の病態生理・症状・検査・治療	非常勤講師

		（１）骨粗鬆症 （２）脊椎疾患 （３）骨折（上腕骨下端骨折・大腿骨頸部骨折） （４）骨の腫瘍 （５）変形性関節症（股関節・膝関節）	
評　価	筆記試験　１時間		
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔７〕脳・神経 井 出　隆 文　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔10〕運動器 織 田　弘 美　他　（医学書院）		
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）		

専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	単位数	開講期
病態学Ⅴ	1単位 30 時間	1年次前期～後期

＜目　　的＞

体内で生じる病的な状態、その症状と原因・診断・治療を生活と関連させて学び、対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整え、回復過程を支援する能力を養う。

＜目　　標＞

1．生命の連続性を維持する働きが障害された患者の状態を、アセスメントするための知識を理解する
2．生命の連続性を維持する働きが障害された患者の回復過程を、支援するための知識を理解する
3．外界と個との不適応現象により障害された患者の状態を、アセスメントするための知識を理解する
4．外界と個との不適応現象により障害された患者の回復過程を、支援するための知識を理解する

単　元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．生命の連続性を維持する働きの障害	4	1．性・生殖器の機能障害 1）症状と病態生理 （1）出血 （2）帯下 （3）疼痛 （4）陰部掻痒感 （5）自律神経症状・不定愁訴 （6）リンパ浮腫	中村　逸郎
	6	2）代表的疾患の病態生理・症状・検査・治療 （1）膣の疾患（膣炎） （2）子宮の疾患（子宮筋腫・子宮がん） （3）卵管・卵巣の疾患（卵管がん・卵巣の良性腫瘍・卵巣の悪性腫瘍）	工藤　隆之
2．外界と個との不適応現象による障害	6	1．感覚機能の障害 1）代表的な皮膚疾患の病態生理・症状・検査・治療 （1）麻疹・風疹・水痘 （2）蕁麻疹・接触性皮膚炎・アトピー性皮膚炎 （3）熱傷・褥瘡	西江　　渉
	7	2）代表的な眼疾患の病態生理・症状・検査・治療 （1）白内障 （2）緑内障 （3）網膜剥離	清水　信晶

	6	３）代表的な耳鼻咽喉疾患の病態生理・症状・検査・治療 （１）聴覚・平衡感覚の異常（突発性難聴・メニエール病） （２）臭覚・味覚（アレルギー性鼻炎・味覚障害） （３）咀嚼・嚥下機能の障害（咽頭・喉頭がん）	赤 澤　茂
評　価	筆記試験　１時間		
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔９〕女性生殖器 末 岡　　浩　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔12〕皮膚 佐 藤　博 子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔13〕眼 大 鹿　哲 郎　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔14〕耳鼻咽喉 小 松　浩 子　他　（医学書院）		
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）		

専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	単位数	開講期
微生物学	1単位 30 時間	1年次前期～後期

＜設定理由＞

人間は自然環境及び社会環境との相互作用の中で生活し、絶えず変化している存在である。人間を取り巻く環境は、目に見えない微生物との共存により成り立っており、微生物の働きは、「生物浄化」や食生活に必要な「有用微生物」など、健康な生活には欠かせないものである。しかし、微生物の中には「新興・再興感染症」と呼ばれ、健康な生活を脅かす感染源になりうるものも存在している。また、医療現場では「院内感染」と呼ばれる医療施設の特質に関連した問題も発生している。

そのため、看護として、生活の関連において生命力を脅かすものを発見し、整える方向を見出すことが必要となる。

そこで、①微生物とはどのようなものなのか②どのような感染症になるのか③感染源に対しどのような予防・対処が必要であるかを学ぶ。

＜目　　的＞

微生物についての知識を学び、感染症の発生・予防・回復に向けた看護実践に繋げる。

＜目　　標＞

1．微生物の性質・人間との関係について理解する
2．感染とその防御について理解する
3．主な病原微生物の特徴と人体に及ぼす影響を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．微生物とは	4	1．微生物とは 1）微生物の性質 （1）微生物の種類と特徴 （2）微生物の生物学的位置 2）微生物と人間	小 熊　惠 二
2．感染とその防御とは	10	1．感染とその防御 1）感染と感染症 2）感染に対する生体防御 3）感染源・感染経路からみた感染症 4）感染症の予防 （消毒法・滅菌法を含む） 5）感染症の検査と診断 6）感染症の治療 7）感染症の現状と対策 （院内感染を含む）	
3．主な病原微生物とその症状	15	1．主な病原微生物とその症状 1）病原真菌と真菌感染症 2）病原原虫と原虫感染症 3）主なウイルスとウイルス感染症 4）病原細菌と細菌感染症	

評　価	筆記試験　1時間
教科書	・病原微生物学の世界　　小 熊　惠 二　（あっぷる出版社）
参考書	・コンパクト微生物学　　小　熊　惠　二（南江堂）

専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	単位数	開講期
基礎薬理学	1単位30時間	1年次前期～後期

＜設定理由＞

健康とは、「最良の状態から死までの連続的なレベルがあり常に流動し、基本的には細胞の健康度に左右される」。ナイチンゲールの病気観は、「日々の生活の中で衰えたり毒されたりするプロセスが気づかずして進行しており、それらと自然の回復力との力関係の結果として病気が現れてくる」と定義している。その健康問題に対する治療方法の一つに薬物療法がある。そして、対象の健康な生活を支援する立場にある看護師は、医師の指示のもとに薬物を取り扱う機会が非常に多い。そのため、対象の健康状態と治療法を関連させて理解し、安全にかつ適正に与薬する知識と技術が必要となる。

そこで、看護に必要な薬物一般に対する基礎知識と機能障害別・状況別の治療薬の基礎知識について学ぶ。

＜目　　的＞

薬物一般に対する知識と個々の薬物の使用目的と作用について学び、対象に使用される薬物の使用目的を理解し、対象に合わせて安全かつ適正に与薬する基礎的能力を養う。

＜目　　標＞

1．安全にかつ適正に与薬をするために必要な、薬物一般に対する知識を理解する
2．機能障害別・状況別の治療薬の使用目的・作用（主・有害）について理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．看護に必要な薬物一般に対する知識	10	1．薬物とは 1）薬物とは何か 2）薬による病気の治療 （1）薬物の使用目的 （2）薬物療法における看護師の役割 ①誤薬防止（6R） ②治療効果の確認 ③有害作用の早期発見と予防 ④服薬に関する患者指導 ⑤患者・家族への治療の説明 2．薬理学の基礎知識 1）薬が作用するしくみ 2）薬物の体内動態 3）薬物の相互作用 4）個人差に影響する因子 5）薬物使用の有益性と危険性 6）薬と法律	今島　昌三
2．機能障害別・状況別の治療薬について	19	1．機能障害別・状況別の治療薬 1）抗感染症薬 2）抗がん剤 3）免疫治療薬 4）抗アレルギー薬・抗炎症薬 5）末梢での神経活動に作用する薬物 6）中枢神経系に作用する薬物 7）心臓・血管系に作用する薬物 8）呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 9）物質代謝に作用する薬物	

		10）皮膚科用薬・眼科用薬 11）救急の際に用いられる薬物 12）漢方薬 13）消毒薬 14）輸液剤・輸血剤	
評　価	筆記試験　１時間		
教科書	・系統別看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進〔３〕薬理学 吉 岡　充 弘　他　（医学書院）		
参考書	・今日の治療薬　浦 部　晶 夫　他　（南江堂）		

専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	単位数	開講期
臨床薬理学	１単位 15 時間	２年次前期

＜設定理由＞

対象の健康な生活を支援する立場にある看護師は、医師の指示のもとに薬物を取り扱う機会が非常に多い。そのため、対象の健康状態と治療法を関連させて理解し、安全かつ適正に与薬する知識と技術が必要となる。また、看護師には、薬物療法の評価や有害作用の早期発見と適切な対応が求められている。さらに、対象の健康の段階に応じた服薬指導が、医療チームで連携・協働して行えることが期待されている。

そこで、『基礎薬理学』で学習した薬物一般の基礎知識と、基礎看護学で学習した与薬の方法を土台にする。そして、対象の疾患・症状に応じて、治療のために薬物がどのような理由で用いられ、どのように作用（薬物動態）し評価されるのかを、事例をとおして学習する。さらに、与薬は医師や薬剤師・看護師との連携・協働の中で行われていることを学習し、臨床実践を意識できるものとする。

＜目　　的＞

臨床実践に近い状態で与薬の一連のプロセスを、対象の疾患・症状に応じて、安全で適正に薬物を使用できる知識と考え方を養う。また、これらの学習をとおして、薬物療法における医療チームの一員としての看護師の責任と役割について理解を深める。

＜目　　標＞

１．与薬の実際で必要となる知識を理解する
２．事例をもとに対象の疾患・症状に合わせた与薬の実際を理解する
３．薬物療法における医療チームの一員としての看護師の責任と役割について理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．与薬の実際で必要となる知識	4	１．医薬品の取り扱い １）医薬品の基礎知識 （１）医薬品の剤型 （２）医薬品の規格（含量・単位） （３）医薬品の用法 ２）医薬品の処方と調剤 ３）医薬品の適正使用と情報の活用 （１）適正使用と確認すべき事項 （緊急安全情報・安全性速報） ２．薬物治療の実際で必要となる知識 １）患者と薬物療法 ２）薬物療法の評価 ３）安全管理 ４）チーム医療と薬物治療 （１）医師、薬剤師、看護師の責任と役割 （２）薬物療法における医療チームの連携・協働 ３．服薬指導	今島　昌三
２．症状・疾患に合わせた与薬の基礎知識（事	6	１．事例１・２の処方例をもとに、対象の症状や疾患特有の１）～８）について、基礎となる知識を学習する。	

例）		１）治療方針　　２）治療薬 ３）薬物動態　　４）有害作用 ５）与薬　　６）薬物療法の評価 ７）医療チームの連携・協働 ８）服薬指導など 事例１：主要疾患の治療薬を使用のケース （１）高血圧症－カルシウム拮抗薬など （２）糖尿病―経口血糖降下薬など 事例２：対症療法薬を使用のケース （１）疼痛―解熱鎮痛薬 （２）悪心・嘔吐－制吐薬	
３．処方事例に応じた与薬の実際（事例演習）	４	１．「単元２」の学習をもとに、事例１・２の与薬の実際について演習する １）演習方法 （１）事例１・２について ①医師の指示を確認 ②６Ｒ（患者、目的、薬物名、容量、用法、時間） ③薬物動態から患者の状態をアセスメント ④インフォームドコンセント ⑤与薬 ⑥与薬後のアセスメント ⑦評価 ⑧医療チームの連携・協働 ⑨服薬指導の視点で、自己・グループ学習を行う （２）事例１・２について代表グループが①～⑨について実践する （３）代表グループの実践について意見交換する （４）まとめ	大島　慈代 （実務経験教員）

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　別巻　臨床薬理学　井上　智子　他　（医学書院）
参考書	・今日の治療薬　浦部　晶夫　他　（南江堂）

専門基礎分野　健康支援と社会保障制度

科目名	単位数	開講期
社会保障論Ⅰ	１単位 15 時間	２年次前期

＜設定理由＞

人間は誕生から死を迎えるまでの生活の中で、個人や家族の力では対処しきれない問題が生じる。そうした問題に対して生活の安定化をはかり、最低の生活を保障する国としての公的な社会サービスの存在が欠かせない。

また、看護師は専門職として、独自の機能を発揮しながら保健医療福祉チームの中で調整の役割を担うため、生活を支える社会保障や社会福祉に関する知識を得ることは必要不可欠である。

そこで、社会保障論をⅠとⅡに分け、Ⅰでは社会保障制度と社会福祉の法制度に関する概論的内容（歴史と動向を含む）を学ぶ。

＜目　　的＞

社会保障と社会福祉の基本的な考え方、しくみ、制度の現状について学び、保健医療福祉チームで連携・協働する基礎的能力を養う。

＜目　　標＞

１．社会の歴史的変遷をとおして、社会福祉の理念について理解する
２．社会保障制度の概要を学び、社会の変化に対応した社会保障のあり方について理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．社会福祉と社会保障制度	5	１．現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 ２．社会福祉の理念と社会保障制度	長谷山 哲 平
２．生活にかかわる社会保障制度と課題	9	１．医療保障 　１）沿革、種類、内容 ２．介護保障 　１）背景、概要 ３．所得保障 ４．公的扶助 ５．社会保障制度の課題と展望 ※看護職と関係の深い医療保障、介護保障を重点的に学習する。	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座 専門基礎分野　健康支援と社会保障制度〔３〕 社会保障・社会福祉　福 田　素 生　他　（医学書院）
参考書	

専門基礎分野　健康支援と社会保障制度

科目名	単位数	開講期
社会保障論Ⅱ	１単位 15 時間	２年次後期

＜設定理由＞

人間は誕生から死を迎えるまでの生活の中で、個人や家族の力では対処しきれない問題が生じる。これらの問題に対して生活の安定化をはかり、最低の生活を保障する国としての公的な社会サービスの存在が欠かせない。

また、看護師は専門職として、独自の機能を発揮しながら保健医療福祉チームの中で調整の役割を担うため、生活を支える社会保障や社会福祉に関する知識を得ることは必要不可欠である。

そこで、社会保障論をⅠとⅡに分け、Ⅱでは社会福祉の援助方法と看護職と福祉領域の協働について実践を学ぶ。

＜目　　的＞

医療や地域社会の現場で展開される社会福祉の援助方法を学び、保健医療福祉チームにおける看護職の役割について学ぶ。

＜目　　標＞

１．社会福祉の分野とサービスの概要について理解する
２．看護職と福祉領域の職種の連携・協働の実際について理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．暮らしと社会福祉	6	１．社会福祉の法制度の歴史的流れ ２．社会福祉サービスの内容とサービス提供の仕組み １）高齢者福祉 ２）障害者福祉 ３）児童家庭福祉 ４）民間活動	八重樫　　優
２．看護職と福祉領域の職種の連携・協働の実際	8	１．福祉領域の職種とその仕事内容 ２．社会福祉援助とは ３．個別援助技術（ケースワーク） １）生活支援の特徴 ４．集団援助技術（グループワーク） １）集団の特性 ５．間接援助技術と関連援助技術 ６．社会福祉実践と医療・看護との連携 ７．連携の場面とその方法 ８．社会福祉援助の検討課題	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座 専門基礎分野　健康支援と社会保障制度〔３〕 社会保障・社会福祉　福 田　素 生　他　（医学書院） ・社会保障入門　社会保障入門編集委員会　（中央法規）
参考書	

専門基礎分野　健康支援と社会保障制度

科目名	単位数	開講期
関係法規	１単位 15 時間	３年次前期

＜設定理由＞

看護師は人々の健康を守る専門職の一つであり、医師の指示がなくても患者の療養上の世話を行うことができる職種である。また、医療の高度化に伴い医療機器の精密化、複雑さなども絡み、看護職が関係している医療事故は、ヒヤリハットを含めると日常的に問題がある。したがって、行政・刑事・民事の三側面から問われる立場にある。

そこで、看護師が関係する法の変遷、法規の側面から看護活動を捉え、法的責任と役割を学習し、看護師としての倫理観の形成を養う。

＜目　　的＞

看護を行う上で必要となる法令とその根拠を学び、看護師の役割と法的責任についての理解を深め、対象への統合的な支援に結びつけるための基礎とする。

＜目　　標＞

１．社会の変化に応じて、法律や制度が変化していることを理解する

２．保健師助産師看護師法を学び、看護職の法的責任と役割を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．法規の概念	8	１．法の構成と厚生行政のしくみ ２．看護法 　１）目的・定義・免許 　２）看護の専門性と法的責任 　３）看護業務における責任 ３．医事法 　１）医療法 　２）医療を支える法 ４．薬務法 ５．社会基盤整備と労働法	鈴　木　沙　織
２．看護職と関係法規	6	１．看護関係法令 ２．看護師等の人材確保の促進に関する法律 ３．医療サービスの供給体制と医療事故	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座 専門基礎分野　健康支援と社会保障制度〔４〕看護関係法令 森 山　幹 夫　他　（医学書院）
参考書	・看護六法　看護行政研究会　（新日本法規出版）

専門基礎分野　健康支援と社会保障制度

科目名	単位数	開講期
公衆衛生	1単位30時間	2年次前期～後期

＜設定理由＞

人間は、生存・生活のためにさまざまな交流を図り社会を形成している。健康を維持するには、個々人がセルフケア能力を高めると共に、公の力で環境衛生への対策をとることが必要不可欠である。看護師は人々の健康状態の好転を目指して、生活調整能力を高められるように関わる職業である。また、人々の健康維持のために行う公的な集団への関わりを知ることは必須である。

そこで、人々の疾病を予防し、健康を保持・増進させていくための取り組みや保健活動の概要を学ぶ。

＜目　　的＞

人々の健康水準の維持向上に取り組み、歴史的変遷も踏まえてその人らしい健やかな生活が送れるための社会的システムや保健活動について学ぶ。また地域における看護師の役割を学ぶ。

＜目　　標＞

1．公衆衛生活動の理念や現代における課題を、歴史的変遷を踏まえて理解する
2．人々の健康を守るための法制度や社会システム、保健活動に携わる職種とその活動内容を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．公衆衛生の基礎	13	1．公衆衛生の概念 1）活動対象としくみ （1）公衆衛生の歴史 （2）プライマリーヘルスケア （3）ヘルスプロモーション （4）個人と集団 （5）暮らしと法律・政策 2）環境と健康 3）疫学と健康指標	齊藤　恭平
2．保健活動における専門職とその仕事内容	2	1．保健活動における専門職とその仕事内容 1）公衆衛生における看護職とその働き （1）保健師 （2）助産師 （3）看護師 （4）養護教諭 2）関連職種との協働 （1）行政領域 （2）産業領域 （3）学校領域	
3．社会システムと保健活動	14	1．地域保健 1）保健活動のしくみ 2）母子保健に係る保健活動 3）健康づくりに係る保健活動 4）高齢者に関する保健活動	

		５）精神保健に関する保健活動 ６）障害者・難病対策における保健活動 ７）感染症対策における保健活動 ２．学校と保健 ３．職場と健康 ４．健康危機管理と災害保険	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・わかりやすい公衆衛生学　第４版　（ヌーヴェルヒロカワ） ・国民衛生の動向　厚生統計協会編集　（厚生統計協会）
参考書	

専門基礎分野　健康支援と社会保障制度

科目名	単位数	開講期
リハビリテーション概論	１単位 15 時間	２年次前期

＜設定理由＞

人の生涯は、医療の進歩とともに病や障害があっても、長く生き続ける時代になった。この現代においてこそ、病や障害をもちながらどう生きるのかが問われてくる。看護師は、人に関心を寄せ、その人の生きざまに寄り添い、その人らしく生きることを自ら人として、その傍に立ち支えなければならない。人の生活のなかでの現象を、人体の形態や機能、疾病や障害の観点から明確に理解しなければ、看護のかかわり合いは不十分になる。さらに、医療の質が向上し、命を取り留める代わりに障害が残った人たちへの健康支援と、そのニーズに応えていくことが医療関係者の責務である。この状況下で対象の生活調整を担当する看護師には、リハビリテーションの基本を学び生活を支援することが求められている。

そこで、リハビリテーションの基礎と実践を学ぶ機会とする。また、対象が自分らしい暮らしを人生の最期まで続けるためには、看護職だけではなく多職種との連携が必要となる。そこで、多職種連携の基礎知識として、看護職と連携・協働する専門職とその仕事内容について学ぶ。

＜目　　的＞

人々が健康な生活を送るために必要なリハビリテーションの基本を学び、個人が持てる力を十分に活用できるように支援するための基礎的能力を養う。

＜目　　標＞

１．障害を抱えた人々の健康支援としてのリハビリテーションの基本を理解する
２．看護職と連携・協働する専門職とその仕事内容について理解する
３．生活の質を高める、支援方法の基本を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．リハビリテーション総論	２	１．リハビリテーションの定義と理念 ２．障害者の定義、分類 ３．リハビリテーションの分野 ４．多職種連携のあり方	堀　心紀
２．看護職と連携・協働する専門職とその仕事内容	８	１．看護職と連携・協働する専門職とその仕事内容 １）専門職種とその仕事内容 （１）医師　（２）栄養士 （３）理学療法士　（４）作業療法 （５）言語療法士　（６）義肢装具士 （７）視能訓練士 （８）医療ソーシャルワーカー （９）臨床心理士 ２）リハビリ関係職種の仕事の実際 （１）理学療法士　（２）作業療法 （３）言語療法士	
３．機能障害のアセスメント	４	１．生活機能障害 １）運動系 ２）中枢神経系 ３）呼吸・循環系 ４）感覚器系	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護 武 田　宜 子　他　（医学書院）
参考書	

専門基礎分野　健康支援と社会保障制度

科目名	単位数	開講期
総合医療論	１単位 15 時間	３年次後期

＜設定理由＞

人間の一生は 24 時間の生活の連続であり、その過ごし方の中に、健康を脅かす力を大きくしたり生物に備わっている自然力を小さくしたりする要因がある。つまり、人間はその生きる過程の中で病んだり傷ついたりして、個人の対応能力を超える事態が生じた時に、医療や看護と関わることになる。看護は、対象の持てる力を発揮できるように関わる仕事である。しかし、ともすれば医療者中心となりがちな医療の現状と課題を、受け手を主体とした視点で捉える必要がある。その中に、存在する生命倫理や人権擁護の問題と看護師の役割やその働きかけを考えることが重要である。そこで、患者の側に立った捉え方で現代医療の現状や課題を学び、対象の価値観や意志を尊重するとはどのようなことかを考える。

＜目　　的＞

医療を総合的に捉え、現代医療の現状と課題を理解し、看護師として何をなすべきかを学ぶ。

＜目　　標＞

１．医療を取り巻く諸問題や患者の権利と擁護について理解する
２．専門職業人として、患者を尊重するための倫理・規範について自分の考えを明らかにする

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．医療と倫理	6	１．医療の進歩と医の倫理 １）命と健康 ２）病と死 ３）チーム医療とマネジメント ４）医療の変遷 ５）科学技術の進歩と社会・生活の変化 ２．現代医療の新たな課題	渡 邉　　環
２．医療における患者の権利	6 2	１．生活と健康 １）医療のしくみ ２）環境・保健・福祉行政 ３）疾病の予防と健康増進 ２．医療におけるケアの視点 １）医療における合理的判断 ２）患者の安全 ３）医療の管理と評価 ３．事例演習 １）医療・看護の倫理・規範について自分の考えを表現する （１）生命とは何か （２）人間を尊重するとは	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度〔１〕医療概論 小 泉　俊 三　他　（医学書院）
参考書	

専門分野　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
看護学原論Ⅰ	1単位30時間	1年次前期

＜目　　的＞

「看護とは何か」看護学が成立するための条件や看護学の構造などを学び、看護実践の基盤となる考え方を学習する。

看護の基本となる概念を、ナイチンゲールの看護の考え方を基盤に据えて学び、より健康的な生活をつくりだすために必要な考え方、看護の役割、看護を実践する一連の過程の基礎を養う。

＜目　　標＞

1．看護とは何かを理解し（目的論）看護に必要な対象のみつめ方（対象論）を学び、看護を実践するための思考の道筋（方法論）を理解する

2．看護の本質を理解し、専門職として看護師に要求される能力とはどのようなものかを理解する

3．看護は他者への働きかけをする仕事であることの意味を学び、他者への責任をもつには確かな根拠をもち、相手の思いを尊重して関わることの重要性を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
導入	1	「看護学原論」で学ぶ内容の概要 学習の進め方など	本 間 かほり （実務経験教員）
1．看護の目的論	10	1．看護とは何か 1）ナイチンゲールの看護一般論を「看護覚え書」「科学的看護論」ほか、を用いながら学習する 2）ナイチンゲールの看護論の骨子、基盤となる考え方 「看護観」「健康観」「生活観」 「人間観」「自然観」「生命力」 「生活過程」 3）看護一般論の構造	
2．看護の対象論	10	1．看護の対象としての人間のみつめかた 1）生物体・生活体の統一体である人間（人間一般論）生活過程の本質 ※自己の24時間の生活を客観視 2）人間の一生（24時間の連続）と健康現象 （1）生命を維持発展させる過程 （2）生活習慣を維持発展させる過程 （3）社会関係を維持発展させる過程 2．人間の生活と健康現象 1）ライフサイクルモデル、健康的な生活リズム 2）ライフサイクルと病気の現れ 毒され群・衰え群・相互影響群	

３．看護の方法論	９	１．看護実践は科学的根拠に裏打ちされた看護観の表現 ２．看護師に必要とされる技術 １）実体に働きかける技術 ２）認識に働きかける技術 ３）看護過程を展開する技術 ３．看護の方法論の骨子とモデル図の使い方 「全体像モデル」「立体像モデル」 「日常生活アセスメントモデル」 「生命力アセスメントモデル」	

評　価	レポート課題で評価する
教科書	・「看護覚え書」－看護であること看護でないこと－ フロレンス・ナイチンゲール（現代社） ・「科学的看護論」　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・「ナースが視る人体」「ナースが視る病気」薄 井　坦 子　（講談社）
参考書	・「何がなぜ看護の情報なのか」　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・「狼に育てられた子」　Ｊ．Ａ．１．シング　（福村出版）

専門分野　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
看護学原論Ⅱ	1単位 30 時間	1年次前期～後期

＜目　　的＞

主な看護理論家たちが著した看護理論の概要を学び、理論適応の範囲と限界を知り、実践場面での活用のイメージができるように深める。そして、ナイチンゲールが示した看護師に必要な考え方をもとに、看護場面で対象の危機状況に接する際に求められる役割やその際に生じる葛藤など、倫理的課題解決に向けた行動の基準や原則を学び、専門職業人としての意識を高める。また看護の機能と役割を支えるしくみや保健医療福祉の連携、看護の対象を取り巻く多職種の役割と看護師に求められる役割を学び、看護に対する理解を深める。

＜目　　標＞

1．ナイチンゲールの看護論と比較して、看護理論と実践・各種理論の適応の範囲を知る
2．看護の専門職業人として果たすべき責務を学習し、看護倫理の基礎的な考え方を理解する
3．保健医療福祉チームの協働における看護師に期待する役割や課題を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．看護理論総説	7	1．看護理論とは 1）看護理論の定義 2）看護理論を使う意義 3）看護理論のレベル 4）看護理論の枠組み（主要概念） 2．看護理論家たちの歴史的な流れ 1）ナイチンゲールからアメリカの主要な看護理論家（バージニア･ヘンダーソン、ドロセア･E･オレム、マーサ･ロジャーズ、ジョイス･トラベルビー、シスター･カリスタ･ロイ、ヒルデガード･E･ペプロー、アイダ･ジーン･オーランド、アーネスティン･ウィーデンバック他）までを学習する。	本 間 かほり （実務経験教員）
2．看護倫理序説	18	1．看護職と倫理 1）看護倫理を学ぶ意義 2）職業倫理としての看護倫理 「看護者の倫理綱領」とは 3）倫理的事例を通して考える 4）看護倫理と患者の権利擁護 5）演習 （1）実習体験を「看護者の倫理綱領（15 条）」に沿って比較検討し、臨床場面での看護学生としての姿勢・態度と結びつけて考えられるように取り組み、自己課題を明確にする。 ＜個人ワークーGWー発表ー事後レポート＞	

３．看護活動と看護師	４	１．看護の機能と活動の場における特徴 ２．地域の保健医療活動と医療施設の連携 ３．看護活動の実践場所の特徴と期待される役割 ４．保健医療チームと看護 ５．保健医療福祉活動が直面する課題	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学　別巻　看護倫理　宮坂道夫他（医学書院） ・看護職の基本的責務　2022 年版　手 島　恵（日本看護協会出版会）
参考書	・新看護体系　看護学全書　専門分野Ｉ　基礎看護学①　看護学概論 宮 脇 美保子　他　（メヂカルフレンド社） ・看護学テキストＮＩＣＥ　基礎看護学　看護理論 筒 井 真優美　（南江堂）

専門分野　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
看護場面に共通する技術Ⅰ	1単位 30 時間	1年次前期～後期

＜目　　的＞

看護師には、対象の実体と認識への働きかけをつうじて、その人の持てる力を最大限に働かせ、生活過程をつくりだす看護を、計画的に実践することが求められる。その時に用いられる看護技術には、「実体に働きかける技術」「認識そのものに働きかける技術」「看護過程を展開する技術」がある。実際の場面では、この３種類の技術を組み合わせて活用することになる。そこで、その中でも共通して使われる技術を取り上げ学習する。

コミュニケーションは、基礎分野の『コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ』を土台に、看護の目的をもったコミュニケーションへ発展させる。記録・報告では、より良い看護につなげるために、看護師としての責任について意識できるようにする。安全・安楽では、これから学ぶ看護技術全般における危険や苦痛について学習し、援助の看護の視点となるようにする。

＜目　　標＞

1. 健康な生活を送る人間にとってのコミュニケーションを学び看護の視点を理解する
２．演習を通して対象の認識に働きかけるコミュニケーション技術について理解する
３．健康な生活を送る人間にとっての安全・安楽を学び看護の視点を理解する
４．看護における記録・報告の意義・目的・方法を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．コミュニケーション	19	１．健康な生活を送る人間にとってのコミュニケーションとは １）人間一般論、生活一般論、健康観からみたコミュニケーションについて （１）学生の日常生活におけるコミュニケーションについて情報を収集する （２）学生の情報をもとに、生活過程の本質に照らして考える （３）精神と精神の交通 （４）人間は個別の認識をもつ （５）認識が健康に及ぼす影響 （６）認識が生活の仕方に及ぼす影響 ２．看護におけるコミュニケーションとは １）看護におけるコミュニケーションの意義・目的 （１）看護は過程である（看護の原基形態） （２）三重の関心を注いだ看護実践から、コミュニケーションの意義・目的を考える ２）認識そのものに働きかける技術 （１）コミュニケーションの過程的構造（認識―表現） ①対象の認識 ②対象を見つめる看護師の認識のあり方	辻　早 （実務経験教員）

		（２）観念的追体験とは （３）コミュニケーション技術の目標行動 ①対象の頭の中を浮き彫りにする ②伝達内容の像を対象の頭の中につくる ③より良い状態の像を創り上げそれに向かう意思を高める ３）演習 （１）事例 「18 歳、女性、看護学生、風邪で学校を 4 日間欠席。体調が回復し、登校した時の一場面。」 （２）技術項目：ロールプレイ ４）演習 （１）事例 「『基礎看護学実習Ⅱ』の受け持ち患者とのコミュニケーション場面」 （２）技術項目：プロセスレコード	
２．安全・安楽	6	１．健康な生活を送る人間にとっての安全・安楽とは １）人間一般論、生活一般論、健康観、看護一般論からみた安全・安楽について （１）学生の日常生活において安全・安楽について感じることを情報収集する （２）学生の情報をもとに、生活過程の本質に照らして考える ２）安全を守る技術の目標行動 （１）生命力のおびやかしを最小にする ３）安楽をはかり効率を高める技術の目標行動 （１）最小のエネルギーで最大の効果をあげる ①安楽な体位の保持 ②ボディメカニクスの基本 ③安楽への援助 ４）演習（基本技術） （１）技術項目 ①安楽な体位 ②ボディメカニクス	大島　慈代 （実務経験教員）
３．記録・報告	4	１．看護をする上で必要な記録・報告とは １）記録・報告技術の目標行動 （１）対象を見つめる看護師の認識―看護実践へのつながり （２）ナイチンゲール看護一般論―小管理について	辻　早 （実務経験教員）

		２）記録について （１）記録で重要なもの（事実） （２）医療における記録の種類と管理 （３）看護記録に関する法的規定 （４）看護記録の種類と目的 （５）看護記録上の原則と留意点 （６）看護記録の記載方法 ３）報告について （１）報告で重要なもの（事実） （２）報告の種類と目的 （３）適切な報告の条件 ４）演習（基本技術） （１）技術項目 ①記録 ②報告	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔２〕基礎看護技術Ⅰ 有 田　清 子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔３〕基礎看護技術Ⅱ 有 田　清 子　他　（医学書院）
参考書	

専門分野　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
看護場面に共通する技術Ⅱ	1単位 30 時間	1年次前期～後期

＜目　　的＞

看護師は、対象の実体と認識への働きかけをつうじて、その人の持てる力を最大限に働かせ、生活過程をつくりだすように、計画的に実践することが求められる。その時に用いられる看護技術には、「実体に働きかける技術」「認識そのものに働きかける技術」「看護過程展開技術」がある。実際の場面ではこの３種類の技術を組み合わせて活用することになる。その中でも共通して使われる技術を取り上げ学習する。

フィジカルアセスメントでは、対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整え回復過程を支援するために、身体的側面について根拠にもとづき系統的に健康状態を把握する“いのちを守る”技術と考え方について学ぶ。

＜目　　標＞

１．人間にとっての生命活動の担い手について理解する
２．フィジカルアセスメントの意義・目的について理解する
３．事例演習を通して系統別フィジカルアセスメントの知識・思考を使って健康状態を判断できる
４．技術演習を通して系統別フィジカルイグザミネーションの技術を習得する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．生命を維持するための看護	2	１．生物体としての共通性について 〔学習の視点〕 人間にとっての呼吸・循環・体温は細胞の生命活動（物質代謝）の担い手である。身体的側面について根拠にもとづき“いのちを守る”看護を学ぶ。 １）演習：生命の共通性 （１）走ってみて、呼吸・循環・体温の変化をみる ２）学生の情報をもとに、呼吸・循環・体温の必要条件（精神面・物質面）と照らし合わせて考える	辻　　早 （実務経験教員）
	2	２．フィジカルアセスメントとは １）からだとこころ、社会関係のアセスメント（ヘルスアセスメント）の中の精神面・物質面のアセスメント（フィジカルアセスメント）とは ２）精神面・物質面のアセスメント（フィジカルアセスメント）の意義・目的	
	6	３）精神面・物質面のアセスメント（フィジカルアセスメント）に必要な技術 ３．生命を維持するための過程の観察 １）循環 （１）循環への看護の視点 （２）必要な知識 （３）脈拍・血圧調整のメカニズムと影響因子 （４）脈拍・血圧の測定方法とアセスメ	

	7	ント ２）呼吸 （１）呼吸への看護の視点 （２）必要な知識 （３）呼吸調整のメカニズムと影響因子 （４）呼吸音の聴取方法とアセスメント ３）体温 （１）体温への看護の視点 （２）必要な知識 （３）体温調整のメカニズムと影響因子 （４）体温測定の方法とアセスメント ４）全身の観察 （１）視診・触診・聴診・打診 （２）全体状態・全体印象の把握 （３）計測 ５）演習 （１）技術項目（基本技術） ①バイタルサイン測定 ４．生命を維持する働きのケア １）演習 （１）技術項目（基本技術） ①呼吸器系・循環器系の精神面・物質面の観察技術（フィジカルイグザミネーション） ②呼吸器系・循環器系の精神面・物質面のアセスメント（フィジカルアセスメント）	
２．人間を統合する脳の働きの看護	6	１．人間を統合する脳の働きのケア 〔学習の視点〕 人間の脳には、生きる力、生活する力、人と関わる力を働かせる高度な機能が組み込まれている。個別な看護を目指すうえで根幹をなす、その人らしさをつくりだすしくみとそのあらわれについて学ぶ。 １）演習 （１）技術項目（基本技術） ①感覚器系・運動系・神経系の精神面・物質面の観察技術（フィジカルイグザミネーション） ②感覚器系・運動系・神経系の精神面・物質面のアセスメント（フィジカルアセスメント）	辻　早 （実務経験教員）
３．食物を消化吸収する働きの看護	6	１．食物を消化吸収する働きのケア 〔学習の視点〕 人間の消化、吸収を担う臓器の健康状態は、その人の認識のありように支配されている。健康を実現するためのカギは、食に	

		あることを学ぶ。 １）演習 （１）技術項目（基本技術） ①消化器系の精神面・物質面の観察技術（フィジカルイグザミネーション） ②消化器系の精神面・物質面のアセスメント（フィジカルアセスメント）	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ｉ　基礎看護学〔２〕基礎看護技術Ｉ 有 田　清 子　他　（医学書院） ・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子（講談社）
参考書	・看護学テキストＮＩＣＥ　基礎看護学　基礎看護技術 香 春　知 永　他　（南江堂）

専門分野　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
生活過程を整える技術Ⅰ	1単位30時間	1年次前期～後期

＜目　　的＞

看護は、対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることにある。その生活過程は、「生命を維持発展する過程」「生活習慣を獲得し発展させる過程」「社会関係を維持発展させる過程」で支えられており、人間の一生は24時間の連続でつくられる。

その中でも、「生活習慣を獲得し発展させる過程」について取り上げ学習する。

人間の健康にとっての「食」および「排泄」の概念をおさえ、食と排泄のバランスを整え“日々の生活を安楽”にするための看護の視点や援助技術を習得する。

＜目　　標＞

1．人間の健康にとっての食・排泄の意義を理解する
2．食・排泄の看護の視点を理解する
3．食事・排泄の基本技術を習得する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．健康と食事	10	1．人間の健康にとっての「食」とは 〔学習の視点〕 細胞のつくりかえに必要な摂取→自己化→排出の意味を「ナースが視る病気」を活用し学習する。そして、認識が食を決定し人間の健康に影響することを前提に、食と排泄のバランスを整えていく看護について学習する。 1）学生の食生活の情報を収集する 2）学生の情報をもとに、健康な生活を送る人間にとっての食について考える 2．食と排泄のバランスを整えていくための看護 1）食事の意義・目的 2）看護の視点 （1）食のアセスメント（学生の食生活の情報を用いてアセスメントをする） ①食の必要条件（精神面・物質面） ②食への看護の視点 ③必要な知識 3）食事の基本技術 （1）食事観察技術 （2）食事介助技術 （3）食を促す技術 （4）経管栄養法 4）演習（基本技術） （1）技術項目 ①食事介助技術 ＊アセスメント、援助計画の立案を含む 5）演習（基本技術） （1）技術項目	大島　慈代 （実務経験教員）

		①経管栄養法	
２．健康と排泄	19	１．人間の健康にとっての「排泄」とは 〔学習の視点〕 細胞のつくりかえに必要な摂取→自己化→排出の意味を「ナースが視る病気」を活用し学習する。そして、認識が排泄を決定し人間の健康に影響することを前提に、食と排泄のバランスを整えていく看護を学習する。さらに、清潔との関連についても学習する。 １）学生の排泄習慣の情報を収集する ２）学生の情報をもとに、健康な生活を送る人間にとっての排泄について考える ２．食と排泄のバランスを整えていくための看護 １）排泄の意義・目的 ２）看護の視点 （１）排泄のアセスメント（学生の排泄習慣の情報を用いてアセスメントをする） ①排泄の必要条件（精神面・物質面） ②排泄への看護の視点 ③必要な知識 ３）排泄の基本技術 （１）排泄の観察技術 （２）排泄介助技術 （３）排泄を促す技術 ４）患者の状態に応じた排泄の看護技術 （１）失禁している患者のケア （２）膀胱留置カテーテル （３）浣腸・摘便 ５）演習（基本技術） （１）技術項目 ①排泄介助技術	山 村　涼 子 （実務経験教員）

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔３〕基礎看護技術Ⅱ 有 田　清 子　他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）

専門分野　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
生活過程を整える技術Ⅱ	1単位 30時間	1年次前期～後期

＜目　　的＞

看護は、対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることにある。その生活過程は、「生命を維持発展する過程」「生活習慣を獲得し発展させる過程」「社会関係を維持発展させる過程」で支えられており、人間の一生は24時間の連続でつくられている。

その中でも、「生活習慣を獲得し発展させる過程」について取り上げ学習する。

人間の健康にとっての「運動」および「休息」の概念をおさえ、運動と休息のバランスを整え“日々の生活を安楽”にするための看護の視点と援助技術を習得する。また、人間の健康にとっての「清潔」および「衣」の概念をおさえ、個人の習慣を尊重し、より良い清潔を保ち“日々の生活を安楽”にするための看護の視点と援助技術を習得する。

＜目　　標＞

１．人間の健康にとっての運動・休息・清潔・衣の意義を理解する
２．運動・休息・清潔・衣の看護の視点を理解する
３．運動・休息・清潔・衣の基本技術を習得する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．健康と運動・休息	6	１．人間の健康にとっての「運動」・「休息」とは 〔学習の視点〕 人間にとって運動と休息により統一体としての調和を保っていることを「ナースが視る病気」を活用して運動と休息が人間の健康にとっての土台であることを学習する。 １）学生の運動・休息の習慣の情報を収集する ２）学生の情報をもとに、健康な生活を送る人間にとっての運動・休息について考える ２．運動と休息のバランスを整えていくための看護 １）運動・休息の意義・目的 ２）看護の視点 （１）運動・休息のアセスメント（学生の運動・休息習慣の情報を用いてアセスメントをする） ①運動・休息の必要条件（精神面・物質面） ②運動・休息への看護の視点 ③必要な知識 ３）運動・休息の基本技術 （１）観察技術 （２）体位・移動介助技術 （３）睡眠・休息を促す技術 ４）演習（基本技術） （１）技術項目 ①良い姿勢の保持	寺　田　沙　織 （実務経験教員）

		②体位変換 ③歩行介助（歩行器を含む） ④車椅子の移乗、移送 ⑤ストレッチャーの移乗、移送 ＊アセスメント、援助計画の立案を含む	
２．健康と清潔・衣生活	10	１．人間の健康にとっての「清潔」・「衣」とは 〔学習の視点〕 細胞のつくりかえに必要な摂取→自己化→排出→清潔の意味を「ナースが視る病気」を活用し学習する。人間は、個々の認識によって生活するため、生活習慣のすべてが人間の生命力にかかわってくることをおさえて、清潔・衣について学習する。 １）学生の清潔習慣・衣生活の情報を収集する ２）学生の情報をもとに、健康な生活を送る人間にとっての清潔・衣について考える ２．より良い清潔が保てるようにする看護 １）清潔・衣の意義・目的 ２）看護の視点 （１）清潔・衣のアセスメント（学生の清潔習慣・衣生活の情報を用いてアセスメントをする） ①清潔・衣の必要条件（精神面・物質面） ②清潔への看護の視点 ③必要な知識 ３）清潔・衣の基本技術 （１）観察技術 （２）清潔・衣の援助技術 ４）演習（基本技術）	大島　慈代 （実務経験教員）
	13	（１）技術項目 ①整容、口腔ケア ②全身清拭、寝衣交換、陰部洗浄オムツ交換 ③手浴、足浴、洗髪 ＊アセスメント、援助計画の立案を含む ＊輸液ライン等のある患者の寝衣交換についてはデモンストレーションを行う ５）演習（基本技術） （１）技術項目 ①入浴介助 ＊ストレッチャー入浴のデモンストレーションを行う	寺田沙織 （実務経験教員）

評　価	筆記試験　１時間（30%）　技術試験（70%）を総合評価する		
教科書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔３〕基礎看護技術Ⅱ 有 田　清 子　他　（医学書院）		
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）		

専門分野　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
生活過程を整える技術Ⅲ	1 単位 30 時間	1 年次前期～後期

＜目　　的＞

看護は、対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることにある。その生活過程は、「生命を維持発展する過程」「生活習慣を獲得し発展させる過程」「社会関係を維持発展させる過程」で支えられており、人間の一生は 24 時間の連続でつくられている。

その中でも、「社会関係を維持発展させる過程」について取り上げ学習する。

人間の健康にとっての「環境」「労働」「性」の概念をおさえ、“その人を尊重した”生活を整えられるように、看護の視点、援助技術を習得する。また、『看護場面に共通する技術Ⅰ』（単元「安全・安楽」）での学習を土台に感染予防の基本技術について習得する。

＜目　　標＞

1．人間の健康にとっての環境・労働・性・感染予防の意義を理解する
2．環境・労働・性・感染予防の看護の視点を理解する
3．環境・感染予防の基本技術を習得する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．健康と環境	13	1．人間の健康にとっての「環境」とは 〔学習の視点〕 自然との連関が正常に維持される環境の中で最も健康的に存在することができる。人間は独自の存在様式を作り出しているため、その人間社会との連関が正常に維持されることが健康上不可欠となることを学習する。 1）自分の生活環境について情報を収集する 2）学生の情報をもとに、健康な生活を送る人間にとっての生活環境について考える 2．良い生活環境を整える看護 1）生活環境を整える意義・目的 2）看護の視点 （1）生活環境のアセスメント（学生の生活環境の情報を用いてアセスメントをする） ①生活環境の必要条件（精神面・物質面） ②環境への看護の視点 ③必要な知識 3）環境調整の基本技術 （1）観察技術 （2）環境調整技術 4）演習 （1）技術項目（基本技術） ①病床環境の整備 ②ベッドメーキング ③リネン交換	辻　　早 （実務経験教員）

		＊アセスメント、援助計画の立案を含む	
２．健康と労働・性	４	１．人間の健康にとっての「労働」・「性」とは 〔学習の視点〕 一人ひとりの人間が生きる喜びを実現し、社会の制約の中で個を整え発揮して生きていることを学習する。 １）自分の生きる喜びについて情報を収集する ２）学生の情報をもとに、社会の制約の中で生活を送る人間にとっての生きる喜びについて ２．その人を尊重し、その人らしい生活を整える看護 １）労働・性の意義・目的 ２）看護の視点 （１）労働・性のアセスメント(学生の情報を用いてアセスメントをする) ①労働・性の必要条件（精神面・物質面） ②労働・性への看護の視点 ③必要な知識 （２）看護としての支援	土 場 望由紀
３．健康と感染予防	12	１．人間の健康にとっての感染予防とは 〔学習の視点〕 人間が健康的に生きるためには、生態系のバランスを乱さないように自然界との関係を整えることを学習する。 １）自己の経験（風邪）から前後の身体の状態について情報を収集する ２）学生の体験をもとに、感染予防について考える ２．感染を予防する看護 １）感染予防の意義・目的 ２）看護の視点 （１）感染徴候のアセスメント(学生の情報を用いてアセスメントをする) ①感染予防への看護の視点 ②必要な知識 ３）感染予防の基本技術 （１）観察技術 （２）感染予防技術 ４）演習（基本技術） （１）技術項目 ①手洗い ②無菌操作	大 島　慈 代 （実務経験教員）

		５）演習（基本技術） （１）技術項目 ①個人防御用具の着脱 ②感染性廃棄物の取り扱い ＊アセスメント、援助計画の立案を含む	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔３〕基礎看護技術Ⅱ 有 田　清 子　他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）

専門分野　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
診療過程における看護技術Ⅰ	1単位 15時間	1年次後期

＜目　　的＞

ナイチンゲールの病気観は、「日々の生活の中で衰えたり毒されたりするプロセスが気づかずして進行しており、それらと自然の回復力との力関係の結果として病気が現れてくる」と定義している。医師は、健康現象を分析し、その因果関係を追及しながら健康レベルの向上のために診断・治療を行う。医療従事者は対象の健康を守るという共通の目的意識に支えられた専門職種であり、各職種はその中で独自の役割を担っている。そのため、看護者は健康障害の種類、健康の段階によってどのような診察・検査・治療が展開されるかの専門知識の修得に努めるとともに、他の医療関係者と協働して診察・検査・治療をたすける看護技術を身につけなければならない。

そこで、診療過程における看護師の責任と役割と、診察および検査に伴う看護について学ぶ。

＜目　　標＞

1．診断・治療をたすける看護について理解する
2．診察の介助を安全・安楽に実施するための目的・方法（原理原則）を理解する
3．検査の介助を安全・安楽・正確に実施するための目的と方法（原理原則）を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．診断・治療をたすける看護	2	1．健康観・病気観について 〔学習の視点〕 本来、人間の生命力は健康を保とうとする働きを持っている。対象がどのような生活上の不都合を抱えて診療を求めてきたかという視点から看護を学ぶ。 2．診療過程における看護師の責任と役割 1）病気観について 2）健康観について 3）対象の認識と健康障害との関係 4）看護師の責任と役割 （1）診断・治療を効果的に進むよう24時間の生活過程を整える （2）個別な障害因子を発見し取り除く （3）診断・治療をたすける看護	寺田沙織 （実務経験教員）
2．診察に伴う看護	2	1．診断過程の理解と看護 1）診察の目的と種類 2）診察方法・留意点 3）診察を受ける対象の認識 4）看護の実際 （1）受診に伴う不快を最小にする	

３．検査に伴う看護	11	１．検査の介助 １）検査の目的と種類 （１）生体検査 （２）検体検査 ２）検査の方法・留意点 ３）検査を受ける対象の認識 ４）看護の実際 （１）検査に伴う不快を軽減する ５）演習 （１）技術項目（基本技術） ①検尿 ②採血 ＊アセスメント、援助計画の立案を含む （２）事例（応用技術；基本技術→応用技術への思考の訓練） 「60 歳代、女性、発熱と嘔気、倦怠感のある患者。医師より検尿と採血の指示を受け、実施する場面。」	細　田　江利香

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・科学的看護論　薄　井　坦　子　（日本看護協会出版会） ・系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔３〕基礎看護技術Ⅱ 有　田　清　子　他　（医学書院）
参考書	

専門分野　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
診療過程における看護技術Ⅱ	1 単位 30 時間	1 年次後期

＜目　　的＞

『診療過程における看護技術Ⅰ』で学習した診療過程における看護師の責任と役割のもとに、対象が安全・安楽で安心して治療が受けられるように、治療・処置に伴う看護について学ぶ。

＜目　　標＞

1．呼吸・循環を整える技術を安全・安楽・正確に実施するための目的・方法（原理原則）を理解する
2．与薬の技術を安全・安楽・正確に実施するための目的・方法（原理原則）を理解する
3．創傷管理の技術を安全・安楽・正確に実施するための目的・方法（原理原則）を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．治療・処置に伴う看護	6	1．治療・処置の介助・補助 1）治療・処置の目的と種類 2）治療・処置の方法・留意点 3）治療・処置を受ける患者の認識	寺田　沙織 （実務経験教員）
	6	4）看護の実際 （1）呼吸・循環を整える看護 （2）与薬・輸血の看護 （3）創傷管理の看護 （4）洗浄・穿刺の看護 5）演習 （1）技術項目（基本技術） ①酸素吸入（酸素ボンベの操作と酸素量の計算） ②排痰ケア（気道内加湿、体位ドレナージ、吸引） ③末梢循環促進（温罨法・冷罨法） ＊アセスメント、援助計画の立案を含む ＊マッサージは講義で学習する （2）事例（応用技術；基本技術→応用技術への思考の訓練） 「76 歳、男性、心疾患の患者。咳嗽、夜間の呼吸苦と不眠にて外来受診する。検査にて、入院治療をすることとなった。」	土場　望由紀 （実務経験教員）
	8	6）演習 （1）技術項目（基本技術） ①与薬法（経口与薬・直腸内与薬・外用薬の貼付） ②注射法（筋肉・静脈内） ③輸液法（輸液管理・滴下調整）	

	9	＊アセスメント、援助計画の立案を含む ＊皮下注射は技術演習を行う （２）事例（応用技術；基本技術→応用技術への思考の訓練） 「76 歳、男性、心疾患の患者。咳嗽、夜間の呼吸苦と不眠にて外来受診する。検査にて、入院治療をすることとなった。」 ７）演習 （１）技術項目（基本技術） ①創傷処置 ②包帯法 ＊アセスメント、援助計画の立案を含む （２）事例（応用技術；基本技術→応用技術への思考の訓練） 「57 歳、女性、変形性膝関節症で手術後７日の患者。医師が、手術創の抜鉤をする場面。」	細 田 江利香

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔３〕基礎看護技術Ⅱ 有 田　清 子　他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）

専門分野　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
臨床看護技術	１単位 15 時間	２年次前期

＜目　　的＞

看護師には、対象の実体と認識への働きかけをつうじて、その人の持てる力を最大限に働かせ、生活過程をつくりだす看護を、計画的に実践することが求められる。その時に用いられる看護技術には、「実体に働きかける技術」「認識そのものに働きかける技術」「看護過程展開技術」がある。実際の場面ではこの３種類の技術を組み合わせて活用することになる。対象に合わせて、どの看護技術をどのように用いるのかは、臨床での看護師の認識（判断）に掛かっている。

そこで、看護師の臨床判断の考え方と看護技術の適応のさせ方について学ぶ。

＜目　　標＞

１．看護場面における看護師の臨床判断の考え方がわかる
２．対象の状況に応じた看護技術の適応の方法がわかる

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．臨床看護とは	２	１．臨床看護とは １）臨床看護とは ２）看護師の役割 （１）看護師の業務の範囲 ①看護活動の場（領域） ②発達段階　③健康段階 ④健康障害　⑤対象の単位 ⑥生活機能	山 村　涼 子 （実務経験教員）
２．看護師の臨床判断プロセス	４	１．看護師の臨床判断プロセス １）臨床判断とは （１）臨床判断の位置づけ （２）問題解決のプロセス （３）臨床判断の考え方 ①気づき　②解釈 ③反応　④省察	
３．臨床判断と看護介入に必要な情報と視点	４	１．臨床判断と看護介入に必要な情報と視点 １）発達段階と看護 ２）健康障害の種類 ３）健康の段階 （急性期・回復期・慢性期・終末期） ４）生活過程の特徴	
４．臨床看護の実際	４	１．演習 １）目的 「臨床判断の考え方と対象の状態・状況に応じた看護技術の適応方法を学ぶ」 ２）事例 「72 歳、女性、脳梗塞、リハビリテーション期にある患者。10：00 の状態観察の結	

		果から、対象の状態をアセスメントし、その日の看護を計画・実践しようとしている場面。」 ３）演習方法 （１）事例紹介（『看護過程展開の技術』と同一の事例）－ＧＷ－ロールプレイーデブリーフィング－事後レポート ４）ＧＷの視点 （１）気づき、解釈 （２）反応（援助計画の立案） ５）ロールプレイーデブリーフィング （１）援助計画の実施（看護技術の適応） （２）省察	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・系統看護学講座　基礎看護学４　臨床看護総論 香 春　知 永他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護過程に沿った対象看護　髙 木　永 子　他 （学研メディカル秀潤社） ・疾患別　看護過程の展開　第５版　山 口 瑞穂子　他 （学研メディカル秀潤社）

専門分野　基礎看護学

科目名	単位数	開講期
看護過程展開の技術	1 単位 30 時間	1 年次後期

＜目　　的＞

看護師には、対象の実体と認識への働きかけを通じて、その人の持てる力を最大限に働かせ、生活過程を整える看護を、計画的に実践することが求められる。その時に用いられる看護技術には、「実体に働きかける技術」「認識そのものに働きかける技術」「看護過程展開技術」がある。実際の場面では、この３種類の技術を組み合わせて活用することになる。

そこで、「看護過程展開技術」を取り上げ、科学的根拠にもとづいた看護を展開するための思考過程を学ぶ。

＜目　　標＞

１．科学的根拠にもとづいた看護を実践するための思考過程を理解する

２．対象理解における第一の関心の必要性について演習をとおして理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．科学的看護論での看護過程演習	24	１．科学的看護論での看護過程（一部）演習 １）紙上事例 「64 歳、男性、糖尿病、慢性期」 ２）演習方法 個人ワークーＧＷ－発表－まとめ－事後レポート (1) 第一の関心 ①全体像モデル ②３つの柱と 12 項目 ③立体像モデル ④対象特性 ⑤生物体の必要条件（看護の方向性） ３）個人ワーク （１)授業の進行に合わせて課題に取り組む ４）ＧＷの視点 （１）個人ワークをもとに、対象理解の考え方について認識を揃える	谷口　飛鳥 （実務経験教員）
２．看護過程のまとめ	6	１．看護過程（一部）のまとめ １）事例 『基礎看護学実習Ⅱ』の受け持ち患者 ２）演習方法 個人ワークー実習担当教員の指導－ＧＷ－発表－まとめ－事後レポート ３）個人ワーク (1)『基礎看護学実習Ⅱ』の受け持ち患者の対象特性を描き、看護の方向性を整理する ４）ＧＷの視点 (1) 看護になるとは	

評　価	演習（100%）を総合評価する
教科書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）
参考書	

専門分野　地域・在宅看護論

科目名	単位数	開講期
地域・在宅看護論Ⅰ	1単位 15 時間	1年次前期

＜目　　的＞

地球上の至る所で人間はさまざまな文化を築いてきた。それらは、基本的には自然の法則に支配されている。人間は、自然現象や先人の生活の知恵を社会的に伝承し、その知恵を用いて自然をつくりかえ、生命維持に適した場を広げ生活様式を自在につくりだしてきた。また、人間は、家族の中に生まれ、家族を基盤としてその地域社会に通用する生活習慣を身につける。個人の健康状態は、両親の暮らしぶりやその地域の健康を守る社会システムのレベルに影響される。

そこで、健康を支援する（健康の法則＝看護の法則）看護師は、自分が住む地域に関心を持ち、暮らしとは何か、暮らしが健康に与える影響について学ぶ。

＜目　　標＞

１．暮らし（生活）を理解する

２．暮らし（生活）が健康に与える影響を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．暮らということ	2	１．暮らということ １）子ども生み育てる ２）学ぶ、働く ３）病を治す ４）老いとともに生きる ５）最期を迎える	山下　直美 （実務経験教員）
２．支え合って生きるとは	2	１．支え合って生きるとは １）家族 ２）仲間 ３）近隣の人々 ４）学校や職場 ５）支え合い	
３．地域の生活環境が健康に与える影響	11	１．地域の生活環境が健康に与える影響 １）文化的環境 ２）社会的環境 ３）自然環境 ２．演習 １）目的 「人々の生活圏・生活環境をフィールドワークで理解し、環境が生活にどう影響するかを考える」 ２）演習方法 個人ワークーＧＷー地域リサーチ・インタビューーＧＷー発表―まとめー事後レポート ３）ＧＷの視点 （１）湯川地区の環境（世帯数、人口、施設など）歴史・文化について調べ地域の特徴をリサーチ	

		（２）24 時間のライフサイクルとコミュニティとの関連をリサーチ ①交通機関 ②商業施設 ③病院 ④施設 ⑤教育機関 ⑥行政機関 ⑦住宅環境 ⑧道路状況 （３）（１）と（２）より、演習目的について意見を交換し発表する	

評　価	演習（50%）、筆記試験　1 時間（50%）
教科書	・系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論（１）地域・在宅看護の基礎 川原　加代子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論（２）地域・在宅看護の基礎 川原　加代子　他　（医学書院） ・ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア 石田　千絵　　他（メディカ出版）
参考書	

専門分野　地域・在宅看護論

科目名	単位数	開講期
地域・在宅看護論Ⅱ	１単位 15 時間	２年次前期

＜目　　的＞

わが国は、他国に類をみない速さで進展する少子・超高齢社会にあり、それは生産年齢人口の著しい減少という事態を招いている。この変化は、従来型の病院中心・医療従事者主導の医療の仕組みを根本的から見直し必要性を示唆するものである。これからの看護師には、地域包括ケアシステムなどの中で、その役割を遂行することが求められる。

そこで、地域・在宅看護論の対象者を、地域で生活する人々と広くとらえ、変化する地域社会に目を向け、地域で生活する人々とその家族の持てる力を働かせ生活過程を整えられる能力を養う。

＜目　　標＞

１．社会情勢の変化から地域・在宅看護論の対象と看護の特性を理解する

２．地域で生活する人々とその家族を支える制度と社会資源を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．地域・在宅看護論の対象	8	１．地域・在宅看護論の基盤となる概念 １）地域・在宅看護論の社会背景 （１）少子・超高齢社会 （２）疾病構造の変化 （３）健康や療養の考え方の多様化 ２）地域・在宅看護論とは （１）療養者中心の医療・看護 （２）看護の倫理 （３）療養者の権利の保障 ３）地域・在宅看護論の対象 （１）個人を対象とする看護 （２）集団を対象とする看護 （３）地域で暮らすすべての人々 （４）健康の段階（健康～終末期まで） （５）発達段階（胎児期～老年期まで） （６）家族 ２．演習 １）目的 「地域・在宅看護論の対象は地域で暮らすすべての人々であり、多様な場で看護が提供されていることをフィールドワークで理解する」 ２）演習方法 個人ワークーＧＷー看護の多様な場をリサーチ・インタビューーＧＷー発表―まとめー事後レポート ３）ＧＷの視点 （１）函館市の世帯数、家族形態、人口動態などについて調べ地域の特徴をリサーチ （２）看護の多様な場をリサーチ ①病院（外来・入院）、診療所	山　下　直　美 （実務経験教員）

		②居宅（自宅・施設） ③療養通所介護事業所 ④訪問看護事業所 ⑤看護小規模多機能型居宅介護 ⑥通所サービス ⑦地域包括支援センター ⑧介護施設・老人保健施設など （３）（１）と（２）より、演習目的について意見を交換し発表する	
２．地域・在宅看護論に関する法と制度と施策	4	１．地域・在宅看護論に関する法と制度と施策 １）訪問看護制度の法的枠組み （１）医療保険法 （２）介護保険法 （３）障害者総合支援法 （４）権利保障に関する法と施策 ２）生活保護 ３）高齢者の保健事業と医療 ４）障害者を支える制度 ５）難病療養者に対する制度 ６）子どもを対象とする制度 ７）在宅療養者の権利を擁護する制度	長谷山　哲平
３．地域・在宅看護論における社会資源の活用	2	１．地域・在宅看護論における社会資源の活用 １）人的資源、物的資源 ２）社会資源活用における看護職の役割	

評　価	筆記試験１時間（50%）、演習（50%）を総合評価する
教科書	・系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論（１）地域・在宅看護の基礎 川原　加代子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論（２）地域・在宅看護の基礎 川原　加代子　他　（医学書院） ・ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア 石田　千絵　　他（メディカ出版）
参考書	

専門分野　地域・在宅看護論

科目名	単位数	開講期
地域・在宅看護論Ⅲ	１単位 15 時間	２年次後期

＜目　　的＞

地域で生活する人々とその家族の暮らし（生活）を支える地域包括ケアシステムの実際を学ぶ。また、在宅ケアチームのケアマネジメントから多職種と連携・協働する必要性を学ぶ。

そこで、地域で暮らし続けることを支援するための保健医療福祉チームを理解し、地域で生活する人々とその家族の持てる力を働かせ生活過程を整えられる能力を養う。

＜目　　標＞

１．在宅ケアにおけるケアマネジメントの必要性を理解する

３．前方支援・退院支援における多職種との連携・協働の必要性と看護の役割を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント	7	１．地域包括ケアシステムと地域・在宅看護論 １）地域包括ケアシステムと看護の役割 ２）地域包括ケアと保健医療福祉の連携 ２．地域包括支援センター １）関係職種・機関の役割 ２）関係職種との連携・協働 ３）住民との連携 ３．ケースマネジメント ４．演習 （１）目的 「事例を用いて GW を行い、地域包括ケアシステムの意義について考える」 （２）演習方法 事例紹介－個人ワーク－ＧＷ－発表－まとめ－事後レポート （３）ＧＷの視点 ①自助②互助③共助④公助	林　　珠 樹
２．地域で暮らし続けることを支援するための前方支援と後方支援	7	１．前方支援と後方支援 １）医療機関との連携 （１）外来看護 （２）退院調整とチーム連携 ２）保健・福祉機関との連携 （１）入院支援・入所支援 （２）退院時のサービス利用の援助 ３）看護の継続 （１）看護職間の情報提供 （２）目標の共有と評価 ２．演習 （１）目的 「事例を用いて GW を行い、前方支援・後方	五十嵐 智 仁

		支援について考える」 （２）演習方法 事例紹介－個人ワーク－ＧＷ－発表 －まとめ－事後レポート （３）ＧＷの視点 ①前方支援②後方支援など	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論（１）地域・在宅看護の基礎 川原　加代子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論（２）地域・在宅看護の基礎 川原　加代子　他　（医学書院） ・ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア 石田　千絵　　他（メディカ出版） ・ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論②　地域療養を支える技術 石田　千絵　　他（メディカ出版）
参考書	

専門分野　地域・在宅看護論

科目名	単位数	開講期
地域・在宅看護論Ⅳ	１単位 15 時間	３年次前期

＜目　　的＞
　在宅療養者とその家族を支える訪問看護の概要と制度・看護活動について学び、在宅療養者とその家族の持てる力を働かせ、生活過程を整えられる能力を養う。

＜目　　標＞
　１．在宅療養を必要とする人と家族の特性をふまえ、訪問看護の役割を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．在宅療養者を支える訪問看護	14	１．訪問看護の対象者 　１）法制度からみた対象者 　２）ライフサイクルからみた対象者 　３）健康レベルからみた対象者 　４）状態別・状況別からみた対象者 　５）生活の場・地域からみた対象者 ２．在宅療養の成立条件 　１）療養者・家族側 　２）サービス提供者 ３．在宅療養者への看護活動 　１）在宅療養者の自立・自律支援 　　（１）価値観の尊重と意思決定支援 　　（２）ＱＯＬの維持・向上 　　（３）セルフケア 　　（４）社会参加 　２）病状・病態の予測と予防 ４．家族への支援 　１）在宅看護と家族 　２）家族介護者の個別性に応じた支援 　　（１）家族の介護力のアセスメントと調整 　　（２）家族関係の調整 　　（３）ケア方法の指導 　　（４）レスパイトケア ５．訪問看護の概要 　１）訪問看護の提供方法と種類 　２）訪問看護サービスの仕組みと提供 ６．演習 　１）目的 　　「初回訪問を体験し、訪問看護の特徴について知る」 　２）事例 　　「55 歳、男性、パーキンソン病、妻と 2 人暮らし、２人の子どもは独立している」最近、起立性低血圧・便秘などの自律神経症状が出現したため、Ａ病院から訪問看護ステーションに訪問看護の依頼があり、初	吉　田　理　花

		回訪問を行うことになった。」 ３）演習方法 事例紹介－ＧＷ－ロールプレイ－ＧＷ－発表－まとめ－事後レポート ４）ロールプレイ・ＧＷの視点 （１）在宅療養の成立条件と在宅療養者の自立・自立支援について考えられているか （２）（１）をふまえて、訪問時に情報収集する内容と訪問時の行動計画を考える （３）訪問時の行動計画に、初回訪問の重要性と訪問マナーが考えられているか	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論（１）地域・在宅看護の基礎 川原　加代子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論（２）地域・在宅看護の基礎 川原　加代子　他　（医学書院） ・ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア 石田　千絵　　他（メディカ出版）
参考書	

専門分野　地域・在宅看護論

科目名	単位数	開講期
地域・在宅看護論Ⅴ	1単位 30 時間	3年次前期

＜目　　的＞
在宅における訪問看護の基本技術・生活援助技術・医療処置を学ぶ。
そこで、療養者および家族のセルフケア能力を最大限に生かし、生活の場における日常生活援助を安全・安楽に提供するために必要な基礎的能力を養う。

＜目　　標＞
1．訪問看護に必要な基本技術を理解する
2．療養者および家族のセルフケア能力を最大限に生かし、生活の場における日常生活援助を実践するために必要な知識・技術を理解する
3．在宅における医療処置に伴う、看護を安全安楽に提供するための技術を習得する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．訪問看護の基本技術	6	1．コミュニケーション 2．フィジカルアセスメント 3．環境整備 4．生活リハビリテーション 5．感染予防 ※援助の実際を演習やデモンストレーションを組み合わせて学習する	吉田　理花
2．在宅における日常生活援助	12	1．食生活 1）在宅療養の場における食生活の特徴 2）食に関するアセスメント 2．呼吸 1）在宅療養の場における呼吸ケアの特徴 2）呼吸に関するアセスメント 3）援助の実際 3．排泄 1）在宅療養の場における排泄ケアの特徴 2）排泄に関するアセスメント 4．睡眠 1）在宅療養の場における睡眠ケアの特徴 2）睡眠に関するアセスメント 5．清潔と更衣 1）在宅療養の場における清潔と更衣の特徴 2）清潔と更衣に関するアセスメント 6．肢位の保持と移動 1）在宅療養の場における肢位の保持と移動 2）移動能力に関わる身体機能のアセスメント 7．日常生活における安全管理 ※援助の実際を演習やデモンストレーションを組み合わせて学習する	吉田　理花

３．在宅での医療処置と看護	11	１．医療ケアの原理原則 ２．薬物療法 （がん外来化学療法・放射線療法・インスリン自己注射・疼痛管理） １）在宅における薬物療法の特徴 ２）薬物療法のアセスメント ３．在宅における栄養法と管理 １）胃瘻栄養法・経管栄養法・中心静脈栄養法・末梢静脈栄養法 ２）栄養状態のアセスメントと管理の特徴	岩渕　春香
		４．在宅における呼吸管理法 １）排痰ケア・気管カニューレ管理・在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法の特徴 ２）各療法のアセスメント ５．排泄障害者への援助 １）排尿ケア・ストーマ管理の特徴 ２）各療法のアセスメント ６．　在宅腹膜透析管理 １）在宅腹膜透析管理の特徴 ２）アセスメント・リスクマネジメント ７．褥瘡管理・足病変 １）褥瘡管理・足病変の特徴 ２）アセスメント・リスクマネジメント ８．災害対策 ※援助の実際を演習やデモンストレーションを組み合わせて学習する	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論（１）地域・在宅看護の基礎　川原　加代子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論（２）地域・在宅看護の基礎　川原　加代子　他　（医学書院） ・ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論②　地域療養を支える技術　石田　千絵　　他（メディカ出版）
参考書	

専門分野　地域・在宅看護論

科目名	単位数	開講期
地域・在宅看護論Ⅵ	1単位30時間	3年次前期

＜目　　的＞

在宅で療養する対象とその家族の生活を継続するための、健康の段階に応じた看護と社会資源の活用・調整、また、健康障害に応じた家族支援の方法と在宅療養者の価値観、人生観を尊重し、自己決定を支える看護を学ぶ。さらに、在宅において、安全でより良い看護を実践するために必要な臨床判断の方法について学ぶ。

そこで、地域で生活しながら療養する人々とその家族の持てる力を働かせ、対象とその家族の生活過程を整えられる能力を養う。

＜目　　標＞

1．在宅療養者の健康の段階に応じた看護と社会資源の活用・調整と看護を理解する
2．在宅療養を継続するために在宅療養者の健康障害に応じた、家族への支援と看護を理解する
3．在宅療養者と家族の状況から必要な看護を判断（臨床判断）し、療養者と家族を支えるための看護について理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．在宅療養者の健康の段階に応じた看護	10	1．健康の段階に応じた看護 1）日常生活動作の低下のある療養者 （1）日常生活のアセスメント （2）社会資源の活用・調整 2）疾病の再発予防が必要な療養者 （1）異常の早期発見と対応 （2）社会資源の活用・調整 3）急性期にある療養者 （1）緊急性と重症度のアセスメント （2）状態に合わせた対応・調整 （3）性症状への対応 （4）社会資源の活用・調整 4）慢性期にある療養者 （1）慢性期の特徴を踏まえた状態のアセスメント （2）状態に合わせた対応・調整 （3）急性増悪の早期発見と対応 （4）社会資源の活用・調整 5）リハビリテーション期にある療養者 （1）在宅におけるリハビリテーション （2）日常生活動作のアセスメント （3）状態に合わせた対応・調整 （4）住居環境のアセスメントと対応・調整 （5）社会資源の活用・調整 6）終末期にある療養者 （1）死のとらえ方の多様性 （2）エンド・オブ・ライフケア （3）在宅における看取り	保坂　明美

		①症状マネジメント ②緩和ケア ③死亡時の対応 ④家族への援助 ⑤社会資源の活用・調整 ７）演習 （１）目的 「１）～６）の事例を用いてGWを行い社会資源の調整と関係職種との連携・協働について考える」 （２）演習方法 事例紹介－個人ワーク－ＧＷ－発表－まとめ－事後レポート （３）ＧＷの視点 ①健康の段階に応じたアセスメント ②社会資源の活用・調整	
２．在宅療養者の健康障害に応じた看護	10	１．健康障害を持ちながら生活する療養者への看護 １）小児の療養者 （１）在宅療養継続のための健康危機管理 （２）自立支援とＱＯＬの維持・向上 （３）在宅療養継続のための家族への支援 ２）認知症療養者 （１）在宅療養継続のための健康危機管理 （２）自立支援とＱＯＬの維持・向上 （３）在宅療養継続のための家族への支援 ３）精神障害をもつ療養者 （１）在宅療養継続のための健康危機管理 （２）自立支援とＱＯＬの維持・向上 （３）在宅療養継続のための家族への支援 ４）難病の療養者 （１）在宅療養継続のための健康危機管理 （２）自立支援とＱＯＬの維持・向上 （３）在宅療養継続のための家族への支援 ５）演習 （１）目的 「１）～４）の事例を用いてGWを行い訪問看護の目的について考える」 （２）演習方法 事例紹介－個人ワーク－ＧＷ－発表	

		ーまとめー事後レポート （３）ＧＷの視点 ①在宅療養継続のための健康危機管理 ②自立支援とＱＯＬの維持・向上 ③在宅療養継続のための家族支援	
３．訪問看護における臨床判断	９	１．訪問看護における臨床判断 ２．訪問看護の記録 １）訪問看護記録の意義 ２）訪問看護で使用する記録 ３）訪問看護記録を記入するときの留意点 ３．紙上事例演習 １）事例 「60 歳代後半、すい臓がん、終末期、要介護２」 ２）演習方法 （１）個人ワークーＧＷー発表ーまとめーー事後レポート ３）個人ワーク：アセスメントの視点 （１）家族の生活状況から在宅療養を可能にするための必要条件の何が不足しているか （２）多職種との連携・協働 （３）継続看護 ４）ＧＷ・発表（ロールプレイ） （１）対象特性および生活体の必要条件を整理する （２）（１）をもとに、施設の看護の方向性について確認する （３）提示された場面について、臨床判断し、対象にとってより良い看護を実践する	山　下　直　美 （実務経験教員）

評　価	筆記試験　１時間（90%）　臨床判断演習（10%）を総合評価する
教科書	・系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論（１）地域・在宅看護の基礎 川原　加代子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論（２）地域・在宅看護の基礎 川原　加代子　他　（医学書院） ・ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア 石田　千絵　　他（メディカ出版）
参考書	

専門分野　成人看護学

科目名	単位数	開講期
成人看護学Ⅰ	1単位 15 時間	1年次後期

＜目　　的＞

成人期にある対象とその家族の生命力をアセスメント（生きる力・生活する力・人と関わる力・支える力）し、生命力の消耗を最小にするよう患者の持てる力を働かせて生活過程を整えられる能力を養う。

そこで、成人期の発達段階・発達課題・生活する力を理解し、健康の保持・増進・疾病の予防、健康障害から回復するための成人看護の基盤となる概念を学ぶ。

＜目　　標＞

1．成人期の特徴（身体面・心理面・社会面・生活面）を理解する
2．成人期における健康問題を生活と関連させて理解する
3．成人期の健康の保持・増進・疾病予防のための看護活動を理解する
4．成人期にある対象を看護するための基本的な考え方を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．成人期の特徴	4	1．ライフサイクルからみた成人期の特徴（第2の人生） 1）ライフサイクルにおける人間のつくられ方と各時期の生活する力（持てる力） 2）成人期の発達段階の特徴 （1）身体面　（2）心理面 （3）社会面 （4）生活状況の特徴（家族形態と機能・生活様式・社会状況の変化） 3）成人期の発達課題	谷口　飛鳥 （実務経験教員）
2．成人の生活と健康問題	4	1．成人の生活と健康問題 1）健康指標にみる成人の特徴 （1）人口動態　（2）生と死の動向 （3）受療状況など 2）生活の中にみる成人の特徴 （1）生活習慣病（食習慣・運動習慣・喫煙・飲酒） （2）自殺・職業性疾病・作業関連疾患 （3）心の病（ストレスに関連する健康課題）	
3．成人の保健・医療・福祉	4	1．成人の保健・医療・福祉 〔学習の視点〕 社会政策の歴史的背景と関連させて学ぶ。また、保健活動と法的根拠を関連させて学ぶ。 1）ヘルスプロモーション 2）保健・医療・福祉に関わる施策の概要 3）保健に関わる対策 4）医療に関わる対策 5）福祉に関わる対策	

		６）保健・医療・福祉の連携	
４．成人期にある対象を看護するための基本的な考え方	２	１．成人期の生活する力（持てる力）を働かせる支援 １）人間関係の構築 ２）患者・家族の意思決定を支える ３）健康の危機状況への適応 ４）成人期における健康学習支援	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔１〕成人看護学総論 小 松　浩 子　他　（医学書院）
参考書	

専門分野　成人看護学

科目名	単位数	開講期
成人看護学Ⅱ	１単位 30 時間	２年次前期～後期

＜目　　的＞

成人期にある対象とその家族の生命力をアセスメント（生きる力・生活する力・人と関わる力・支える力）し、生命力の消耗を最小にするよう患者の持てる力を働かせて生活過程を整えられる能力を養う。

そこで、成人期にある対象が、健康障害から回復するための看護や、臨終を迎える患者の看護など、健康の段階に応じた看護について学ぶ。さらに、さまざまな健康の段階にある対象の生命力の良い状態をつくりだすために、「リハビリテーション看護」・「がん患者の看護」・「緩和ケア」について学ぶ。

＜目　　標＞

１．さまざまな健康の段階にある対象と家族の特徴（身体面・心理面・社会面・生活面）を理解する
２．さまざまな健康の段階にある対象と家族への看護を展開するための知識を理解する
３．健康の段階で用いられる看護技術を対象に応じて安全・安楽に実施する
４．成人期にある患者の継続看護の特徴がわかる

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．急性期の看護	11	１．急性期にある対象の理解と看護の特徴 １）急性期にある対象の特徴 （１）急激な健康破たんをきたす原因・要因 ①外傷・事故・中毒 ②急性疾患　③侵襲的治療 ④慢性病の急性増悪 （２）急激な健康破たんをきたした人の特徴 ２）急性期における看護の基本 （１）危機にある人々への支援 ①危機モデル（フィンク）の活用 ②クリティカルケア看護（ショックへの処置） （２）合併症の予防 （３）回復を促進するための看護 ３）周手術期看護 （１）術前看護 （２）術中看護 （３）術後看護（ＩＣＵにおける看護） （４）ボディイメージの受容への支援 ４）急性期にある対象の家族の特徴と看護 ５）退院調整（継続看護） ２．演習 １）事例 「壮年期、直腸がん、急性期の患者の術後直後（手術後１日目）の看護」 ２）技術項目	大塚　梓

		（１）術後の観察（モニタリング・フィジカルアセスメントを含む） （２）ドレーン管理（酸素・胃チューブ・排液ドレーンなど）	
２．慢性期の看護	6	１．慢性期にある対象の理解と看護の特徴 １）慢性期にある対象の特徴 （１）慢性期疾患の特徴 （２）慢性期疾患患者の生活 ①中範囲理論：病みの軌跡 ２）慢性期における看護の基本 （１）治療の選択と意思決定への支援 （２）セルフマネジメントの支援 ①セルフケア能力と行動のアセスメント ②セルフケアの工夫への支援 ・学習支援とは：アンドラゴジーの活用 ・自己効力感（バンデューラ）の活用 ・エンパワーメントの活用 ３）慢性期にある対象の家族の特徴と看護 ４）退院調整と多職種連携（継続看護） ２．演習 １）事例 「壮年期、糖尿病、慢性期の患者の退院指導」 ２）技術項目 （１）指導技術 ①中範囲理論を活用した学習支援	斉 藤 恵利子
３．リハビリテーション看護	2	１．リハビリテーションが必要な対象の理解と看護の特徴 〔学習の視点〕 『リハビリテーション概論』での学習を土台に、健康の段階に合わせたリハビリテーション看護について学ぶ。 １）リハビリテーションにおける看護師の役割 （１）生活機能障害のアセスメント・ＱＯＬの評価 （２）障害に対する受容と適応への支援 （３）多職種連携と社会資源の活用（継続看護） （４）患者の社会参加への支援 （５）リハビリテーションが必要な対象の家族の特徴と看護 ２）経過別リハビリテーション看護の実際	

		（１）急性期　（２）回復期 （３）維持期　（４）終末期	
４．がん患者の看護	２	１．がん患者の理解と看護の特徴 １）がん患者の抱える苦痛 ２）がん患者の生活上の困難 ３）がん患者の治療と看護の概要 ４）がん患者の社会参加への支援（継続看護） ５）がん患者の家族の特徴と看護	目黒　恵弥
５．緩和ケア	４	１．緩和ケアを必要とする対象の理解と看護の特徴 １）緩和ケアとは （１）全人的苦痛（トータルペイン） ①身体的苦痛・精神的苦痛 ②社会的苦痛・スピリチュアルな苦痛 （２）緩和ケアチームとチーム医療 （３）倫理的課題（ＳＯＬとＱＯＬ） ２）緩和ケアの対象者 ３）看護介入の特徴 （１）日常生活を整える看護介入 （２）医療の効果を高める看護介入 （３）患者の潜在的な力を強める看護介入 ①代替・補完療法とは ４）緩和ケアを必要とする家族の特徴と看護 ２．演習 １）事例 「臨床での事例を用いて実際に代替・補完療法の一部を実施する」 ２）技術項目 （１）タッチング （２）マッサージ （３）罨法 （４）リラクゼーション （５）イメージ法など	
６．終末期の看護	４	１．終末期にある対象の理解と看護の特徴 １）終末期にある対象の理解と看護の特徴 （１）終末期にある対象の特徴 ①終末期医療の現状 ②延命医療から緩和ケアへ（継続看護） ③全人的苦痛（トータルペイン） ２）終末期における看護の基本 （１）エンド・オブ・ライフ・ケアの	

		概念 ①症状のアセスメント ②全人的苦痛のアセスメント ③苦痛緩和と意思決定への支援 ④生きる意味の探求への援助 ⑤死の準備教育 ⑥多職種連携（チームアプローチ） ⑦悲嘆に対するアセスメントとケア（グリーフケア） （２）終末期にある患者の家族の特徴と看護	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔１〕成人看護学総論 小 松　浩 子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　別巻　緩和ケア 恒 藤　　暁　他　（医学書院）
参考書	・系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護 武 田　宜 子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　別巻　がん看護学 小 松　浩 子　他　（医学書院）

専門分野　成人看護学

科目名	単位数	開講期
成人看護学Ⅲ	１単位 30 時間	２年次前期

＜目　　的＞

生活機能を維持する働きに障害をもつ成人期にある対象と家族に対し、健康障害・健康の段階に応じた看護について学ぶ。これらを学び、成人期にある対象とその家族の生命力をアセスメント（生きる力・生活する力・人と関わる力・支える力）し、生命力の消耗を最小にするよう、患者の持てる力を働かせて生活過程を整えられる能力を養う。

＜目　　標＞

１．生命を維持する働きに障害をもつ成人期にある患者と家族に、必要な看護を理解する
２．対象の健康障害と健康の段階に応じた状態観察を実施できる
３．成人期にある“生命を維持する働きに障害”をもつ対象の看護過程の展開方法を、理解する（急性期）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．呼吸を維持する働きに障害をもつ患者の看護	10	〔学習の視点〕 ライフサイクルにおける健康障害の現れより、「毒され群」「相互影響群」「衰え群」について、成人期の特性を理解し、看護の方向性を考えながら学習する。 １．呼吸を維持する働きに障害をもつ患者の看護 １）患者の特徴 ２）看護師の役割 ３）経過別看護 ４）症状に対する看護 （１）咳嗽・喀痰　（２）血痰・喀血 （３）胸痛　（４）呼吸困難 ５）検査を受ける患者の看護 （１）動脈ガス分析 （２）呼吸機能検査 （３）気管支鏡検査 （４）胸腔穿刺 （５）肺生検 ６）治療を受ける患者の看護 （１）酸素療法 （２）人工呼吸療法 （３）肺切除術 （４）胸腔ドレナージ （５）吸入による薬物療法 ７）代表的な疾患の看護 （１）肺がん　（２）肺炎 （３）慢性閉塞性肺疾患 （４）気管支喘息 ２．演習 １）事例 「壮年期、肺炎、急性期」	佐々木 歩 人

		２）演習方法 （１）患者の状態観察の実施 事例をもとに状態観察の援助計画を立案し実施する （２）課題学習（個人・ＧＷ）－技術演習－まとめ（アセスメントを含む）	
２．循環を維持する働きに障害をもつ患者の看護	9	１．循環を維持する働きに障害をもつ患者の看護 １）患者の特徴 ２）看護師の役割 ３）経過別看護 ４）症状に対する看護 （１）胸痛　（２）動悸 （３）浮腫　（４）呼吸困難 （５）チアノーゼ　（６）失神 （７）四肢の疼痛 ５）検査を受ける患者の看護 （１）心電図 （２）心血管超音波 （３）血管造影 （４）心臓カテーテル ６）治療を受ける患者の看護 （１）経皮的冠動脈形成術 （２）冠動脈バイパス術 （３）弁置換術・弁形成術 （４）大動脈バルーンパンピング （５）ペースメーカー （６）植込み型除細動器 （７）血栓溶解療法・血栓除去術 ７）代表的な疾患の看護 （１）心不全　（２）虚血性心疾患 （３）弁膜症　（４）不整脈 （５）閉塞性動脈硬化症	久保田 淑 貴
３．看護過程の展開	10	１．紙上事例演習 １）事例 「向老期、心筋梗塞、急性期」 ２）演習方法 （１）科学的看護論のモデルを活用 （２）個人ワークーＧＷ－発表－まとめ－事後レポート	谷 口 飛 鳥 （実務経験教員）

評　価	筆記試験　１時間（90%）　看護過程演習（10%）を総合評価する
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔１〕成人看護学総論 小 松　浩 子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔２〕呼吸器 浅 野 浩一郎　他　（医学書院）

	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔３〕循環器 吉 田　俊 子　他　（医学書院）
参考書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社）

専門分野　成人看護学

科目名	単位数	開講期
成人看護学Ⅳ	１単位 30 時間	２年次前期～後期

＜目　　的＞

生活機能を維持する働きに障害をもつ成人期にある対象と家族に対し、健康障害・健康の段階に応じた看護について学ぶ。これらを学び、成人期にある対象とその家族の生命力をアセスメント（生きる力・生活する力・人と関わる力・支える力）し、生命力の消耗を最小にするよう、患者の持てる力を働かせて生活過程を整えられる能力を養う。

＜目　　標＞

１．食物を消化・吸収する働きに障害をもつ成人期にある患者と家族に、必要な看護を理解する
２．生体防御機構の働きに障害をもつ成人期にある患者と家族に、必要な看護を理解する
３．生命の連続性を維持する働きに障害をもつ成人期にある患者と家族に、必要な看護を理解する（女性）
４．対象の健康障害と健康の段階に応じた状態観察を実施できる
５．成人期にある“食物を消化・吸収する働きに障害”をもつ対象の看護過程の展開方法を、理解する（急性期－慢性期）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．食物を消化・吸収する働きに障害をもつ患者の看護	10	１．食物を消化・吸収する働きに障害をもつ患者の看護 １）患者の特徴 ２）看護師の役割 ３）経過別看護 ４）症状に対する看護 （１）嚥下困難　（２）おくび・胸やけ （３）嘔気・嘔吐（４）腹痛 （５）吐血・下血（６）下痢 （７）便秘　（８）腹部膨満 （９）食欲不振と体重減少 （10）黄疸　（11）意識障害 ５）検査を受ける患者の看護 （１）上部消化管内視鏡 （２）大腸内視鏡 （３）内視鏡的逆行性胆管膵管造影 （４）消化管造影 （５）造影ＣＴ・ＭＲＩ （６）直腸診 （７）肝生検 ６）治療を受ける患者の看護 （１）咽頭・喉頭摘出術 （２）食道・胃・大腸・膵切除術 （３）腹腔鏡視下手術 （４）人工肛門造設術 （５）手術後ドレナージ （６）胆道・胆嚢ドレナージ ７）代表的な疾患の看護	若狭谷 聡 子

		（１）舌がん・喉頭がん （２）食道がん （３）結腸・大腸がん （４）人工肛門造設後 （５）クローン病 （６）胃・十二指腸潰瘍 （７）胆石症 （８）膵炎 （９）肝炎 （10）肝硬変 （11）肝がん ８）演習 （１）事例 「壮年期、直腸がん、人工肛門を造設した患者」 （２）技術項目 ①ストーマケア（急性期～慢性期） ア．全身の観察・ストーマ局所の観察 イ．ストーマケアの実際 ウ．学習支援	
２．生体防御機構の働きに障害をもつ患者の看護	10	１．生体防御機構の働きに障害をもつ患者の看護（「アレルギー性疾患」・「自己免疫疾患」・「免疫低下に関する疾患」） １）患者の特徴 ２）看護師の役割 ３）経過別看護 ４）症状に対する看護 （１）アレルギー性疾患 ①呼吸器症状　②消化器症状 ③皮膚症状　④眼症状 ⑤循環器症状 （２）自己免疫疾患 ①関節痛・関節炎　②レイノー現象 ③皮膚粘膜症状　④発熱 ⑤タンパク尿　⑥筋力低下 （３）免疫低下に関する疾患 ①発熱 ②発疹 ③下痢 ５）検査を受ける患者の看護 （１）アレルギー性疾患 （スキンテスト・皮膚生検） （２）自己免疫疾患 （３）免疫低下に関する疾患 ６）治療を受ける患者の看護 （１）アレルギー性疾患 （減感作療法・ステロイド療法）	倉見亜希子

		（２）自己免疫疾患 （免疫抑制薬・ステロイド療法） （３）免疫低下に関する疾患（ＨＩＶ療法） ７）代表的な疾患の看護 （１）アレルギー性疾患 ①花粉症　②蕁麻疹 ③接触性皮膚炎 ④アナフィラキシーショック （２）自己免疫疾患 ①全身性エリテマトーデス（ＳＬＥ） ②関節リウマチ ③シェーグレン症候群 （３）免疫低下に関する疾患 ①敗血症 ②ヒト免疫不全ウイルス感染症	
３．生命の連続性を維持する働きに障害をもつ患者の看護（女性）	９	１．生命の連続性を維持する働きに障害をもつ患者の看護 １）患者の特徴 ２）看護師の役割 ３）経過別看護 ４）症状に対する看護 （１）性器出血　（２）帯下・掻痒感 （３）疼痛　（４）リンパ浮腫 （５）下腹部膨満・腫瘤感 （６）自律神経失調症状・不定愁訴 ５）検査を受ける患者の看護 （１）ヒトパピローマウイルス検査 （２）腹部・経腟超音波検査 （３）マンモグラフィー （４）乳房超音波検査 ６）治療を受ける患者の看護 （１）手術療法　（２）化学療法 （３）放射線療法　（４）ホルモン療法 ７）代表的な疾患の看護 （１）乳腺疾患　（２）乳がん （３）子宮がん　（４）子宮筋腫 （５）生殖機能障害（月経異常・更年期障害）	中　島　真　理

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔５〕消化器 松　田　明　子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔９〕女性生殖器 末　岡　浩　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔11〕アレルギー　膠原病感染症

	岩 田 健太郎　他　（医学書院）
参考書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社）

専門分野　成人看護学

科目名	単位数	開講期
成人看護学Ⅴ	1 単位 30 時間	2 年次前期～後期

＜目　　的＞

生活機能を維持する働きに障害をもつ成人期にある対象と家族に対し、健康障害・健康の段階に応じた看護について学ぶ。これらを学び、成人期にある対象とその家族の生命力をアセスメント（生きる力・生活する力・人と関わる力・支える力）し、生命力の消耗を最小にするよう、患者の持てる力を働かせて生活過程を整えられる能力を養う。

＜目　　標＞

1．統一体を支える働きに障害をもつ成人期にある患者と家族に、必要な看護を理解する（血液の破たん）
2．内部環境を維持する働きに障害をもつ成人期にある患者と家族に、必要な看護を理解する（「腎・泌尿器」・「内分泌系」）
3．生命の連続性を維持する働きに障害をもつ成人期にある患者と家族に、必要な看護を理解する（男性）
4．成人期にある“内部環境を維持する働きに障害”をもつ対象の看護過程の展開方法を、理解する（慢性期）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．統一体を支える働きに障害をもつ患者の看護（血液の破たん）	8	1．統一体を支える働きに障害をもつ患者の看護（血液の破たん） 1）患者の特徴 2）看護師の役割 3）経過別看護 4）症状に対する看護 （1）貧血　（2）発熱 （3）リンパ腫脹　（4）出血傾向 5）検査を受ける患者の看護 （1）骨髄穿刺　（2）骨髄生検 6）治療を受ける患者の看護 （1）薬物療法　（2）放射線療法 （3）造血幹細胞移植 （4）輸血療法 7）代表的な疾患の看護 （1）貧血　（2）白血球減少症 （3）出血性疾患 （4）腫瘍（白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫）	伊藤涼介
2．内部環境を維持する働きに障害をもつ患者の看護（「腎・泌尿器」・「内分泌系」）	21	1．内部環境を維持する働きに障害をもつ患者の看護（「腎・泌尿器」・「内分泌・代謝系」） 1）患者の特徴 2）看護師の役割 3）経過別看護 4）症状に対する看護 （1）腎・泌尿器 ①浮腫　②高血圧	檜山萌美 （腎・泌尿器） （8） 五十嵐まい （内分泌系） （13）

		③下部尿路症状　④血尿・膿尿 ⑤疼痛 （２）内分泌・代謝系 ①体重変化・身長の異常 ②顔貌の変化 ③神経・筋症状　④循環器症状 ⑤消化器症状　⑥皮膚の変化 ⑦無月経 ５）検査を受ける患者の看護 （１）腎・泌尿器 ①尿検査　②膀胱鏡 ③逆行性腎盂造影 ④静脈性尿路造影 ⑤生検 （２）内分泌・代謝系 ①内分泌疾患の検査（ホルモン負荷試験・糖負荷試験） ②代謝疾患の検査 ６）治療を受ける患者の看護 （１）腎・泌尿器 ①薬物療法　②食事療法 ③運動療法　④血液・腹膜透析 （２）内分泌・代謝系 ①内分泌系疾患の治療（インスリン補充療法・糖尿病経口薬） ②代謝異常の疾患 ③体液調節の疾患 ７）技術演習 技術項目：簡易血糖測定 ８）代表的な疾患の看護 （１）腎・泌尿器 ①腎炎・慢性腎臓病 ②炎症性疾患（腎盂腎炎・膀胱炎） ③腫瘍（腎がん・膀胱がん） ④腎・尿路結石 ⑤排尿障害 ⑥腎不全 （２）内分泌・代謝系 ①下垂体疾患 ②甲状腺疾患 ③副甲状腺疾患 ④副腎皮質・髄質疾患 ⑤腫瘍（下垂体腫瘍・甲状腺がん） ⑥糖尿病 ⑦脂質異常症 ⑧高尿酸血症・痛風 ⑨水・電解質異常	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔４〕血液・造血器 飯 野　京 子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔６〕内分泌・代謝 黒 江 ゆり子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔８〕腎・泌尿器 大 東　貴 志　他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社）

専門分野　成人看護学

科目名	単位数	開講期
成人看護学Ⅵ	１単位 30 時間	２年次前期～後期

＜目　　的＞

生活機能を維持する働きに障害をもつ成人期ある対象と家族に対し、健康障害・健康の段階に応じた看護について学ぶ。これらを学び、成人期にある対象とその家族の生命力をアセスメント（生きる力・生活する力・人と関わる力・支える力）し、生命力の消耗を最小にするよう、患者の持てる力を働かせて生活過程を整えられる能力を養う。

＜目　　標＞

１．人間を統合する脳の働きに障害をもつ成人期にある患者と家族に、必要な看護を理解する

２．行動範囲を拡大する働きに障害をもつ成人期にある患者と家族に、必要な看護を理解する

３．成人期にある“生活をつくりだす働きの障害”をもつ対象の看護過程の展開方法を、理解する（リハビリテーション期）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．人間を統合する脳の働きに障害をもつ患者の看護	15	１．人間を統合する脳の働きに障害をもつ患者の看護 １）患者の特徴 ２）看護師の役割 ３）経過別看護 ４）症状・障害に対する看護 （１）意識障害　（２）言語障害 （３）高次脳機能障害 （４）運動麻痺 （５）運動失調・不随運動 （６）けいれん　（７）筋力低下 （８）感覚障害　（９）嚥下障害 (10) 排尿障害　(11) 呼吸障害 (12) 頭蓋内圧亢進症 (13) 褥瘡 ５）検査を受ける患者の看護 （１）脳波検査　（２）髄液検査 （３）脳血管造影 ６）治療を受ける患者の看護 （１）外科的治療 （２）内科的治療 ７）代表的な疾患の看護 （１）脳血管障害　（２）頭部外傷 （３）変性疾患　（４）多発性硬化症 （５）脳炎・髄膜炎（６）脳腫瘍 （７）てんかん （８）ギランバレー症候群	細　田　一　成

２．行動範囲を拡大する働きに障害をもつ患者の看護	14	１．行動範囲を拡大する働きに障害をもつ患者の看護 １）患者の特徴 ２）看護師の役割 ３）経過別看護 ４）症状に対する看護 （１）疼痛　（２）循環障害 （３）神経障害　（４）出血 （５）感染　（６）深部静脈血栓症 （７）褥瘡 ５）検査を受ける患者の看護 （１）脊髄造影検査 （２）関節造影検査 （３）関節可動域検査 （４）徒手筋力テスト （５）筋生検 ６）治療を受ける患者の看護 （１）保存療法（ギプス・牽引療法） （２）手術療法（人工関節置換術） （３）リハビリテーション看護 ７）代表的な疾患の看護 （１）大腿骨頸部骨折 （２）椎間板ヘルニア （３）四肢切断後 （４）骨腫瘍 （５）脊髄損傷	建 部 奈緒子

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔７〕脳・神経 井 出　隆 文　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔10〕運動器 織 田　弘 美　他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社）

専門分野　老年看護学

科目名	単位数	開講期
老年看護学Ⅰ	１単位 30 時間	２年次前期

＜目　　的＞

老年期にある対象の加齢に伴う身体的・心理的・社会的特徴と、高齢者を支える保健医療福祉の動向を学び、高齢者の健康と生活について理解する。そして、老年看護の倫理と看護の基本について学ぶ。この学びから、高齢者が生きがいをもち、その人らしく健康的な生活を送ることを支援するために必要な看護の視点と姿勢を養う。また、成人期にある学生が、老年看護の対象である高齢者を、知りたい・知ろうとする関心につなげる。

＜目　　標＞

１．老年期にある対象の加齢による変化と生活の特徴を理解する
２．高齢者に関する保健医療福祉の現状と課題を理解する
３．老年看護の特性（機能と役割）を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．老年看護の対象である高齢者の特徴	14	１．老年看護の対象 ２．高齢者の特徴 〔学習の視点〕 『発達心理学』で学んだ老年期の発達課題について復習して授業に臨むこと。 １）老年期の発達と変化 （１）ライフサイクルにおける老年期（第３の人生）の人間のつくられ方と生活する力（持てる力） （２）発達課題 ①ペックによる老年期の心理的危機 （３）加齢と老化 ①加齢に伴う身体的変化 ア．恒常性と４つ力 イ．高齢者の疾患の特徴 ②加齢に伴う心理的・社会的変化 ア．知能・人格・創造性 イ．役割と社会活動の変化 ウ．住宅環境・就労、雇用・収入、生計 ２）老いへの適応 （１）喪失体験と獲得体験 （２）サクセスフルエイジング （３）スピリチュアルティ （４）余暇活動と生きがい ３．演習 １）目的 「高齢者疑似体験」 ２）事例 「80 代、女性、２階建ての一戸建てに住所。主な健康障害はない。」 ３）演習方法	細田江利香

		（１）事例紹介－ロールプレイ－ＧＷ－発表－まとめ－事後レポート （２）ＧＷの視点 ①日常生活における身体的な不自由さと危険について意見交換をする ②それに伴う心理・社会的側面への影響を考える ③①②の結果を２－１）老年期の発達と変化、２－２）老いへの適応の学習と関連づける ４．高齢者の生活 １）高齢者のライフストリー（生活史） ２）演習 （１）目的 「前期・後期高齢者の時代背景を知る」 （２）演習方法 ①個人ワーク－ＧＷ－発表－まとめ－事後レポート ②ＧＷの視点 ア．生きてきた時代背景 イ．生活リズムと生活習慣、生活様式 ウ．アイと自分たちの背景を比較して、高齢者に対する印象について話し合う ３）高齢者のその人らしい生活の継続 （１）治療・介護の必要度と生活の場 （２）多様な生活の場とリロケーション （３）ノーマライゼーション	
２．高齢者を支える保健医療福祉の動向	7	１．高齢社会の現状 １）統計的特徴 ２）高齢化の要因 ３）高齢社会の伴う課題 ４）高齢者と家族の変化 ２．高齢者を支える保健医療福祉制度 １）医療保険制度 ２）介護保険制度 ３）地域包括ケアシステム	
３．老年看護の特性	8	１．老年看護の倫理 １）高齢者差別の防止（エイジズム） ２）高齢者虐待の防止 ３）高齢者の権利擁護 （１）安全確保と身体拘束 （２）認知症高齢者の権利擁護 （３）高齢者の意思決定への支援 （４）セーフティマネジメント	

		①寛ぎ・安心・安全 ２．老年看護活動の特性 １）意思決定 ２）理論・概念の活用 ３）健康の保持増進と予防 ４）高齢者のリスクマネジメント （医療安全・救命救急・災害看護） ５）家族との協働	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学 北 川　公 子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論 鳥 羽　研 二　他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社） ・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会）

専門分野　老年看護学

科目名	単位数	開講期
老年看護学Ⅱ	１単位 30 時間	２年次前期～後期

＜目　　的＞
高齢者のヘルスアセスメントの基本と日常生活機能を整える看護について学ぶ。
そこで、老年期にある対象を理解し、生命力の消耗を最小にするよう、患者の持てる力を働かせ、生活過程を整えられる能力を養う。

＜目　　標＞
１．高齢者のヘルスアセスメントの視点と方法を理解する
２．高齢者の身体各部の加齢変化とフィジカルアセスメントの視点を理解する
３．日常生活力の維持・改善と安全な生活を支えるための援助を習得する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．高齢者のヘルスアセスメント	14	１．高齢者のヘルスアセスメントの基本 〔学習の視点〕 基礎看護学で学んだヘルスアセスメンを基本に、高齢者のヘルスアセスメントについて学習する。 １）ヘルスアセスメントの視点と観察方法 （１）身体的健康 （２）生活の自立状態 （３）心理・社会的健康 （４）環境 （５）生活史 ２．高齢者の身体各部（器官）の加齢変化とフィジカルアセスメント 〔学習の視点〕 加齢による身体的変化と連動して高齢者のフィジカルアセスメントを学習するため、解剖生理学で学んだ知識と基礎看護学で学んだフィジカルアセスメントについて復習して臨むこと。 １）生理的老化と病的老化について ２）加齢に伴う身体機能の変化 ３）演習 （１）目的 「加齢に伴う身体各部（器官）の変化を学ぶ」 （２）演習方法 個人ワーク⇒ＧＷ⇒発表⇒まとめ⇒事後レポート （３）ＧＷの視点 自己学習にて、①～⑩の項目を解剖生理学での学びを土台に、加齢による変化をまとめる。ＧＷは、10Ｇで編成し学びを共有する。発表は、１Ｇ／１項目を担当し、成人期の正常な解剖生理と老年期の解剖生理を比較して表現	河　田　隆　盛

		する ①皮膚とその付属器 ②視聴覚とその他の感覚 ③循環系　　④呼吸器系 ⑤消化・吸収 ⑥ホルモンの分泌・免疫機能 ⑦代謝・排泄機能 ⑧性機能　　⑨運動器系 ⑩認知・知覚機能 ４）高齢者のフィジカルアセスメント （１）高齢者の身体各部（器官）のフィジカルアセスメントの視点 （２）演習 ①事例 「80 代女性、肺炎で入院中。治療により回復し、翌日退院予定。午後２時のバイタルサインの測定にて、ＢＴ39℃。BP160－100mmHg、P68 回/分。症状は、「なんともないよ。」、顔面が紅潮し、湿性咳嗽あり。」 ②演習の方法 個人ワーク⇒ＧＷ⇒発表⇒まとめ⇒事後レポート ③ＧＷの視点 ア．どんな状態が予測されるかを意見交換する イ．フィジカルアセスメントの計画を立てる ウ．高齢者の特徴に合わせたフィジカルイグザミネーションと情報収集を行う エ．フィジカルアセスメントにて判断したことを述べる	
２．高齢者の生活機能を整える看護	15	１．加齢に伴う日常生活機能の低下と援助 〔学習の視点〕 老年期にある対象の三過程の特徴を学習し、これまでに学んだ「基礎看護技術」を自立した生活が送れるように対象に合わせて応用する。また、『老年看護学Ｉ』で体験した高齢者疑似体験での学びを想起して臨むこと（事後レポートの活用）。 １）生命を維持する過程 （１）循環・呼吸・体温のアセスメントと看護 ①加齢現象に伴うバイタルサインの特徴 ②生活への影響 ③観察ポイント ④肺炎予防、深部静脈血栓症の予防	

			２）日常生活習慣を獲得し発展させる過程 （１）運動のアセスメントと看護 （日常生活を支える基本的活動） ①基本動作と環境 ②・転倒、転落、外傷の予防 （２）休息と生活リズムを整えるアセスメントと看護 ①高齢者と生活リズム ②睡眠と覚醒 ③生活への影響 （３）食事・食生活のアセスメントと看護 ①高齢者の食生活 ②摂食・嚥下機能の変化と誤嚥予防 ③低栄養状態 ④食事への援助（自助具の工夫） （４）排泄のアセスメントと看護 ①排泄ケアの基本姿勢 ②排泄の障害（尿失禁・前立腺肥大など） ３）演習 （１）技術項目 ①失禁ケア （皮膚粘膜の保護を含む） ②オムツ交換 （２）清潔・衣生活のアセスメントと看護 ①皮膚の特徴 ②清潔の援助 ③身だしなみと衣生活 ４）社会関係を維持発展させる過程 （労働・性・環境） （１）社会活動 ①高齢者のコミュニケーション （２）性（セクシャリティ） （３）住環境と安全 ２．高齢者の生活機能と評価 １）ＩＣＦ・ＣＧＡ・ＡＤＬ ＩＡＤＬとＢＡＤＬ	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学 北 川　公 子　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論 鳥 羽　研 二　他　（医学書院）

参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社） ・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会）

専門分野　老年看護学

科目名	単位数	開講期
老年看護学Ⅲ	１単位 15 時間	２年次前期～後期

＜目　　的＞
　高齢者の健康の段階における特徴的な症状、その病態・アセスメントの視点を学ぶ。そして、高齢者の健康の段階の特徴をおさえて、対象とその家族への経過別看護について学ぶ。さらに、高齢者の生命力（生きる力・生活する力・人とかかわる力・支える力）に応じて、社会資源を活用し多様な生活の場で展開する高齢者への看護について学ぶ。
　そこで、老年期にある対象を理解し、生命力の消耗を最小にするよう、患者の持てる力を働かせ、生活過程を整えられる能力を養う。
＜目　　標＞
　１．高齢者の健康の段階の特徴とその段階に応じた看護を理解する
　２．多様な生活の場で展開する高齢者への看護について理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．老年期の経過別看護	7	〔学習の視点〕 『成人看護学Ⅱ』で学習した経過別看護を基本に、高齢者とその家族への看護の特徴を中心的に学習する。 １．健康の維持と介護予防 １）健康の維持 ２）増進の状況 ３）受療状況 ４）介護予防の促進 ２．急性期の高齢者と家族への看護 １）急性期の高齢者の特徴 （意識障害・せん妄・熱中症） ３．慢性期の高齢者と家族への看護 １）慢性期の高齢者の特徴 （腰背痛・やせ・手足のしびれ） ２）慢性期の高齢者の援助 ４．高齢者のリハビリテーション １）回復へ向けた高齢者の特徴 ２）生活機能の維持と向上 ５．演習 １）目的 「関節可動域訓練の高齢者にとっての目的･方法を理解し､ロールプレイにて患者･看護師役を体験する」 ２）演習の方法 個人ワーク⇒ロールプレイ⇒まとめ⇒事後レポート ３）ロールプレイの視点 （１）デモンストレーションの見学 （２）自己学習とデモンストレーションをもとに、患者・看護師役・観察者を行う （３）目的の達成の有無や技術の評価、	河　田　隆　盛

		それぞれの役割から意見交換をする （４）この演習を、実習でどのように生かすか意見交換する ６．終末期の高齢者と家族の看護 １）人生の終焉を迎える高齢者とその家族への看護 （１）終末期ケア （２）エンド・オブ・ライフ・ケア （３）看護の実際 ①症状マネジメント ②日常生活の援助 ③意思決定のプロセスへの貢献 ④家族への援助	
２．多様な生活の場で展開する高齢者への看護	7	〔学習の視点〕 『老年看護学Ⅰ』で学習した、高齢者を支える保健医療福祉制度について復習して臨むこと。 １．高齢者に対する保健医療福祉の特徴と看護 １）介護保険施設等の看護 （１）介護保険施設等の種類と特徴 （２）入所者の暮らしの特徴と看護の役割 （３）長期入所高齢者の生活上の課題と援助 ２）地域密着型サービス、居宅サービスにおける看護 （１）地域密着型・居宅サービスの種類と特徴 （２）サービスを利用する高齢者の暮らしの特徴と看護の役割 （３）福祉用具・介護用品の活用 適応・活用状況に関するアセスメント安全で有効な活用の支援 ２．多職種の多様化と役割拡大 １）生活の場の移動と看護の継続 ２）看護と福祉・介護の協働と連携 （１）目標達成に向けた連携の方法 ①介護職員による医療行為 ②多職種連携、チームアプローチ ３．介護を必要とする高齢者の家族看護 １）高齢者の家族の健康と生活への影響 ２）家族全体への影響と介護への適応	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学 北 川　公 子　他　（医学書院）

	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論 鳥 羽　研 二　他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社） ・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会）

専門分野　老年看護学

科目名	単位数	開講期
老年看護学Ⅳ	１単位 15 時間	２年次前期～後期

＜目　　的＞

老年期に多くみられる症状・健康障害の特徴と看護、検査・治療を受ける高齢者の看護を学ぶ。

そこで、高齢者とその家族の生命力（生きる力・生活する力・人とかかわる力・支える力）をアセスメントし、さまざまな健康障害をもつ高齢者とその家族が、持てる力を働かせ生活過程を整えられる能力を養う。

＜目　　標＞

１．老年期に多くみられる症状・健康障害の特徴と看護を理解する
２．検査・治療・処置を受ける高齢者の看護を理解する
３．健康障害をもつ高齢者と家族の看護過程の展開方法を、理解する（急性期～回復期）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．老年期に多くみられる症状・健康障害の特徴と看護	12	１．老年期に多くみられる症状と看護 １）発熱　２）痛み ３）掻痒（かゆみ）　４）脱水 ５）嘔吐　６）浮腫 ７）倦怠感 ２．老年期に多くみられる健康障害の特徴と看護 １）認知症と看護 （１）加齢による病態と要因 （２）環境と行動・心理症状 （３）認知機能の評価 （４）予防治療、療法的アプローチ （５）コミュニケーション方法、療養環境の調整 （６）家族への支援とサポートシステム ２）大腿骨頸部骨折等の運動器系の看護 ３）前立腺肥大症等の泌尿器系の看護 ４）難聴・白内障等の感覚器系の看護 ３．廃用症候群について １）廃用症候群とは ２）廃用症候群のアセスメント ３）廃用症候群の予防	加藤　輝明
２．検査・治療を受ける高齢者の看護	２	１．検査を受ける高齢者の看護 １）安全・安楽な検査の実施 ２）加齢による検査結果への影響 ２．薬物治療を受ける高齢者の看護 １）加齢に伴う薬物動態の変化とリスクマネジメント	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学 北川　公子　他　（医学書院）

	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論 鳥 羽　研 二　他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社） ・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会）

専門分野　小児看護学

科目名	単位数	開講期
小児看護学Ⅰ	１単位 30 時間	２年次前期

＜目　　的＞

小児看護の概念および小児を取り巻く環境の変化を理解し、小児看護の対象と看護の特性について学ぶ。また、小児とその家族が健全に成長発達を促進するための看護と健康増進のための看護を学ぶ。

この学びから、「人間が、よく生まれ、よく育まれ、よく働かせる」ようにつくられていることを意識し、どの時代であっても小児とその家族が健やかな成長発達と健康の増進が図れるように、対象の持てる力を働かせ生活過程を整えられる能力を養う。

＜目　　標＞

１．小児看護の対象と看護の特性を理解する
２．小児を取り巻く環境と保健の動向（法・施策）について理解する
３．小児の成長発達過程と発達課題を理解する
４．小児各期の日常生活援助と生活指導について理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．小児看護の対象と看護の特性	2	〔学習の視点〕 「人間が、よく生まれ、よく育まれ、よく働かせる」ようにつくられていることについて、意識して学ぶ。 １．ライフサイクルにおける小児期の人間のつくられ方と生活する力（持てる力） ２．小児看護の基盤となる概念 １）小児とは ２）小児看護の対象とは ３）小児看護の目標と役割 ４）小児看護の場と職種 ５）小児看護における倫理 （子どもの権利） ６）小児看護における課題	藤原久美子
２．小児を取り巻く環境と保健の動向	6	１．小児看護を取り巻く環境と保健の動向 １）小児諸統計からみた子どもと家族の健康問題 （１）人口動態と出生率 （２）出生と母親の年齢・世帯構造 （３）子どもの死亡（周産期死亡・乳児死亡など） ２）小児看護に関する法律と制度 （１）児童福祉法 （２）母子保健対策 （３）学校保健対策 （４）医療費支援 （５）予防接種 （６）特別支援養育 （７）臓器移植法など ３）小児看護の対象を取り巻く環境	

		（１）家族構造と機能の変化 （２）虐待・育児放棄 （３）健康問題 （４）いじめ・不登校 （５）発達障害児に対する理解 （６）小児医療の現状と課題	
３．小児の各期における成長発達と看護	8	１．小児の成長発達と看護 １）小児の成長発達の原則と影響因子 （１）成長発達の概念・原則・影響因子 （２）発達課題と発達理論 ２）小児の成長発達のアセスメント （１）形態的成長・機能的発達の評価 （２）身体発育の評価 （３）発達検査 （４）心理・社会的発達の評価 （５）療育環境 ３）小児期における成長発達の特徴と看護 （１）神経系 （２）運動系 （３）感覚器系 （４）循環器系 （５）免疫系 （６）呼吸器系 （７）消化器系 （８）代謝系 （９）泌尿器系 (10) 体温調節 (11) 大泉門・小泉門・生歯 (12) 認知・思考・コミュニケーション・言語 (13) 情緒・アタッチメント・分離不安 (14) 社会性・道徳性	
４．成長発達に応じた生活の支援	13	１．成長発達に応じた生活の支援 １）新生児期 （１）栄養と授乳 （２）事故防止 （３）親子関係の確立 （４）家族の育児技術の獲得 （５）コミュニケーション ２）乳児期 （１）栄養と離乳　（２）運動と遊び （３）感染予防と予防接種 （４）事故防止 （５）親子関係の確立 （６）家族の育児技術の獲得 （７）コミュニケーション	

		３）幼児期 （１）食生活と食育（２）運動と遊び （３）生活リズムの確立 （４）基本的生活習慣の確立 （５）感染予防と予防接種 （６）事故防止と安全教育 （７）親子関係の確立 （８）社会化 （９）育児技術の獲得 （10）コミュニケーション ４）学童期 （１）肥満や食習慣の乱れ （２）う歯の予防 （３）近視の予防 （４）スポーツ外傷の予防 （５）学校感染症の予防 （６）生活習慣病の予防 （７）学習と遊び （８）事故防止と安全教育 （９）セルフケアと保健教育 （10）食生活と食育 （11）仲間との関係や学校への適応 （12）コミュニケーション ５）思春期 （１）体格と体力 （２）第二次性徴 （３）アイデンティティの確立 （４）情緒的変化と家族関係 （５）仲間との関係 （６）性意識の変化と逸脱行動 （７）異性への関心 （８）ライフスタイルと生活リズムの変化 （９）喫煙・飲酒の防止 （10）不登校の実体と支援 （11）いじめ・校内暴力の防止 （12）自殺の防止 （13）コミュニケーション ６）演習 （１）目的 「発達段階による生活の支援の違いについて学ぶ」 （２）演習方法 ①個人ワークーＧＷーロールプレイー発表ーまとめー事後レポート （３）ＧＷの視点 ①栄養・事故防止・遊びと学習・コミュニケーションについて、発達段階による特徴を理解する ②健やかに成長をするための生活の	

		支援について計画立案し実践する	
評　価	筆記試験　１時間		
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔１〕小児看護学概論 小児臨床看護総論　奈良間 美 保　他　（医学書院）		
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）		

専門分野　小児看護学

科目名	単位数	開講期
小児看護学Ⅱ	１単位 30 時間	２年次前期～後期

＜目　　的＞

小児期の主な健康障害と障害について学ぶ。この学びから、「人間が、よく生まれ、よく育まれ、よく働かせる」ようにつくられていることを意識し、小児とその家族の健康障害や入院治療による影響を最小にし、健やかな成長発達と健康の回復に向けて、対象の持てる力を働かせ生活過程を整えられる能力を養う。

＜目　　標＞

１．小児期に起こりやすい健康障害と障害の特徴について理解する
２．健康障害や障害をもつ小児と家族に必要な看護を理解する
３．特別な状況にある小児と家族への看護（虐待）を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．小児の健康障害と治療	20	〔学習の視点〕 “ライフサイクルにおける健康障害の現れ”（「毒され群」「相互影響群」「衰え群」）より、同じ健康障害でも成人期と小児期では発生の機序や心身の成熟度が違うため看護の方向性は、必ずしも同一ではない。そのため、成人看護学の学習を土台にしながら、小児の特徴を踏まえて学ぶ。 １．感染症・呼吸器系の健康障害をもつ小児 １）代表的な健康障害の病態と治療 （１）風疹 （２）麻疹 （３）伝染性紅斑 （４）突発性発疹症 （５）水痘 （６）急性喉頭炎 （７）気管支炎 （８）肺炎 ２．消化器系の健康障害をもつ小児 １）代表的な健康障害の病態と治療 （１）乳児下痢症 （２）口唇裂 （３）口蓋裂 （４）腸重積 （５）ヒルシュスプルング病 （６）アセトン血症嘔吐症 ３．循環器系の健康障害をもつ小児 １）代表的な健康障害の病態と治療 （１）心室中隔欠損症 （２）ファロー四徴症 （３）川崎病 （４）乳幼児突然死症候群 ４．運動器系の健康障害をもつ小児 １）代表的な健康障害の病態と治療	土 場 望 由 紀

		（１）先天性股関節症 ５．血液・造血器系の健康障害・悪性新生物をもつ小児 １）代表的な健康障害の病態と治療 （１）鉄欠乏性貧血 （２）再生不良性貧血 （３）突発性血小板減少性紫斑病 （４）血友病 （５）神経芽腫 （６）白血病 ６．免疫・アレルギー性疾患をもつ小児 １）気管支喘息の病態と治療 ２）アトピー性皮膚炎の病態と治療 ７．腎・泌尿器系の健康障害をもつ小児 １）代表的な健康障害の病態と治療 （１）急性糸球体腎炎 （２）ネフローゼ症候群 ８．染色体異常・体内環境により発生する先天的な障害をもつ小児の病態と治療 １）先天異常の種類と特徴 （１）ダウン症候群 （２）脳性麻痺 ２）心身障害のある小児の治療とリハビリテーション ９．発達障害をもつ小児の特徴と治療 １）発達障害の種類と特徴 10.子どもを取り巻く社会的問題	
２．小児の健康障害と看護	7	１．感染症・呼吸器系の健康障害をもつ小児 １）代表的な健康障害と看護 （１）風疹 （２）麻疹 （３）伝染性紅斑 （４）突発性発疹症 （５）水痘 （６）急性喉頭炎 （７）気管支炎 （８）肺炎 ２）症状のアセスメントと看護 （１）発熱 （２）熱性けいれん （３）発疹 （４）喘鳴 （５）咳嗽 （６）呼吸困難 ２．消化器系の健康障害をもつ小児 １）代表的な健康障害と看護 （１）乳児下痢症 （２）口唇裂	土 場 望由紀

		（３）口蓋裂 （４）腸重積 （５）ヒルシュスプルング病 （６）アセトン血症嘔吐症 ２）症状のアセスメントと看護 （１）嘔吐・下痢・脱水・便秘 ３．循環器系の健康障害をもつ小児 １）代表的な健康障害と看護 （１）心室中隔欠損症 （２）ファロー四徴症 （３）川崎病 （４）乳幼児突然死症候群 ２）症状のアセスメントと看護 （１）チアノーゼ（２）ショック ４．運動器系の健康障害をもつ小児 １）代表的な健康障害と看護 （１）先天性股関節症 ２）小児と家族のリハビリテーション看護 ３）在宅における小児と家族の看護 ５．血液・造血器系の健康障害・悪性新生物をもつ小児 １）代表的な健康障害と看護 （１）鉄欠乏性貧血 （２）再生不良性貧血 （３）突発性血小板減少性紫斑病 （４）血友病 （５）神経芽腫 （６）白血病 ２）症状のアセスメントと看護 （１）貧血 （２）出血 ６．免疫・アレルギー性疾患をもつ小児 １）気管支喘息の小児と家族の看護 ２）アトピー性皮膚炎の小児と家族の看護 ７．腎・泌尿器系の健康障害をもつ小児 １）代表的な健康障害の看護 （１）急性糸球体腎炎 （２）ネフローゼ症候群 ２）症状のアセスメントと看護 （１）浮腫 （２）血尿 （３）タンパク尿 ８．染色体異常・体内環境により発生する先天的な障害をもつ小児 １）小児の受容に対する看護 ２）低出生体重児の疾患と看護 ３）ダウン症候群・脳性麻痺 ４）心身障害のある小児と家族の看護 （１）レスパイトケア （２）デイケア	

		９．発達障害をもつ小児 １）発達障害をアセスメントする視点と看護師の役割 ２）発達障害をもつ小児と家族への看護（療育） ３）多職種連携（医療機関―学校―地域―家庭）	
３．特別な状況にある小児と家族への看護（虐待）	２	１．特別な状況にある小児と家族への看護（虐待） １）虐待の分類とその特徴 ２）虐待に至るおそれのある要因 ３）虐待をアセスメントする視点と看護師の役割 ４）虐待児とその家族の看護 ５）多職種連携（児童虐待防止システム）	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔２〕小児臨床各論 奈良間 美 保　他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）

専門分野　小児看護学

科目名	単位数	開講期
小児看護学Ⅲ	１単位 15 時間	２年次後期

＜目　　的＞

病気や入院・診察（検査・処置）が小児と家族に与える影響とその看護を学ぶ。

この学びから、「人間が、よく生まれ、よく育まれ、よく働かせる」ようにつくられていることを意識し、小児とその家族の健康障害や入院治療による影響を最小にし、健やかな成長発達と健康の増進が図れるように、対象の持てる力を働かせ生活過程を整えられる能力を養う。

＜目　　標＞

１．健康障害や診察（検査・処置）・治療・入院が小児と家族に与える影響を理解する
２．診察（検査・処置）・治療を安全安楽に安心して受けられるための根拠となる知識を理解する
３．診察・検査・治療・処置を安全安楽に安心して受けられる知識・技術を理解する
４．健康障害をもつ小児の日常生活援助技術を安全安楽に実施できる

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．健康障害や診察（検査・処置）・治療・入院が小児と家族に与える影響と看護	2	１．健康障害や診察・入院が小児と家族に与える影響と看護 １）健康障害に対する小児の理解と説明 （１）健康障害に対する小児の理解の特徴 （２）小児の理解に関する要因 （３）発達に応じた病気の説明 （４）インフォームドアセント ２）プレパレーションとは ３）病気や診察・入院が小児に与える影響と看護 （１）成長発達に及ぼす影響 （２）健康障害や診察・入院に伴うストレスと影響要因 （３）小児の反応とストレス対処行動 ４）小児の健康障害や診察・入院がきょうだい・家族に及ぼす影響と看護 ５）痛みを表現している小児と家族への看護 ６）活動制限が必要な小児と家族への看護 ７）感染対策上隔離が必要な小児と家族への看護 ８）外来における小児と家族への看護	土 場 望由紀
２．診察（検査・処置）・治療を受ける小児と家族への看護	6	〔学習の視点〕 小児看護では、「基礎看護技術」で学んだ原理原則を基に、発達段階や健康障害・健康の段階に応じた援助技術を学ぶ。事前に課題を学習して演習に臨むこと。 １．診察（検査・処置）を受ける小児と家族への看護	

		１）診察・治療に伴うコミュニケーション技術 （１）心理的準備（プレパレーションの実際） （２）検査・処置・治療に伴う苦痛に対する支援（ディストラクション） ２）診察（検査・処置）に伴う看護 （１）状態観察（バイタルサイン測定） （２）身体計測 （３）採血 （４）採尿 （５）骨髄穿刺 （６）腰椎穿刺 ３）治療に伴う看護 （１）与薬 （２）注射 （３）輸液療法 （４）吸引 （５）吸入 （６）酸素療法 （７）経管栄養 ２．演習 １）事例 「生後６か月の女児、昨晩から発熱と咳嗽、喘鳴があり、病院を受診した。診察にて、気管支喘息と診断され、本日、入院となる。医師の指示により、点滴静脈内注射と吸入をすることになった。」 ２）技術項目 （１）プレパレーション （２）ディストラクション （３）状態観察（バイタルサイン測定） （４）輸液療法（点滴静脈内注射の介助） （５）吸入	
３．健康障害をもつ小児の日常生活援助技術	６	〔学習の視点〕 小児看護では、「基礎看護技術」で学んだ原理原則を基に、発達段階や健康障害・健康の段階に応じた援助技術を学ぶ。事前に課題を学習して演習に臨むこと。 １．日常生活援助技術 １）食事の援助技術 （１）調乳、哺乳と排気・離乳食介助 ２）清潔・衣生活の援助技術 （１）沐浴・入浴 （２）清拭・陰部洗浄・臀部浴 （３）うがい・歯磨き	

		（４）衣類の交換 ３）排泄の援助技術 （１）オムツ交換 （２）浣腸 ４）呼吸の援助技術 （１）体位の工夫（体位交換・体位ドレナージ)・スクイージング ５）移動の援助技術 （１）乳児の抱き方 （２）車椅子・ストレッチャーでの移乗と移送 ６）環境整備の技術 （１）ベッドメイキング （２）転倒・転落・外傷予防 ２．演習 １）事例 「生後６か月の女児、３日前に発熱と咳嗽、喘鳴があり病院を受診した。診察にて、気管支喘息と診断され、即日、入院となる。薬物療法を受け、状態が回復し、明日、退院することが決まった。」 ２）技術項目 （１）調乳、哺乳と排気・離乳食介助 （２）清拭・臀部浴 （３）オムツ交換 （４）乳児の抱き方・体位の工夫 （５）環境整備	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔１〕小児看護学概論 小児臨床看護総論　奈良間 美 保　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔２〕小児臨床各論 奈良間 美 保　他　（医学書院）
参考書	・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）

専門分野　小児看護学

科目名	単位数	開講期
小児看護学Ⅳ	１単位 30 時間	３年次前期

＜目　　的＞

さまざまな健康の段階にある小児とその家族の看護についてと、小児看護における看護過程の展開方法を学ぶ。

そこで、小児期にある対象とその家族の生命力をアセスメント（生きる力・生活する力・人と関わる力・支える力）し、小児とその家族が健康障害や入院治療による影響を最小限にし、健やかな成長発達と健康の回復に向けて、対象の持てる力を働かせ生活過程を整えられる能力を養う。

＜目　　標＞

１．さまざまな健康の段階にある小児とその家族の特徴を理解する
２．さまざまな健康の段階にある小児とその家族に必要な看護を理解する
３．健康障害をもつ小児と家族の経過別の看護過程の展開方法を、理解する（急性期）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．急性期にある小児と家族への看護	8	〔学習の視点〕 小児看護における経過別看護は、成人看護学で学習した経過別看護を土台にして学ぶ。 １．急性期にある小児と家族の看護 １）急性症状のある小児と家族への看護 （１）急性的な経過をたどる疾患の特徴と治療 （２）急性期の小児と家族の特徴と看護 （３）フィジカルアセスメントと看護 ①発熱　②脱水 ③下痢・嘔吐　④呼吸困難 ⑤けいれん ２）救急救命処置が必要な小児と家族への看護 （１）小児のトリアージ （２）フィジカルアセスメントと看護 ①小児の意識レベル ②小児の一次救命処置 （３）主な事故と処置 ①誤飲物質と処置 ②溺水と処置 ③熱傷の特徴と重症度および処置 ３）周手術期における小児と家族への看護 （１）小児の手術の特徴 ①手術を要する健康障害と手術の時期手術の適応：緊急手術・計画手術 ②手術を受ける小児と家族の反応と看護 ③術前・術中・術後の看護 プレパレーション・身体状態のアセスメント・安全安楽 ４）出生直後から集中治療が必要な小児と	松葉まどか

		家族への看護 〔学習の視点〕 母性看護学で学ぶ新生児の異常と看護と関連づけて学習する。ここでは集中治療における援助と親子・家族関係確立への支援について学ぶ。 （１）集中治療における援助（ＮＩＣＵ） （２）親子・家族関係確立への支援 ５）退院に向けての援助（多職種連携・在宅看護）	
２．慢性期にある小児と家族への看護	13	１．慢性期にある小児と家族への看護 １）慢性疾患をもつ小児と家族の看護 （１）慢性的な経過をたどる疾患の特徴と治療 （２）小児慢性特定疾患治療研究事業 （３）疾患による小児と家族の生活 （４）学習支援・復学支援 （５）発達に応じたセルフケア能力の獲得のための養育と家族への支援 （６）継続看護と多職種連携（在宅療養） ２）先天性疾患のある小児と家族の看護 （１）先天性異常の種類と特徴 （２）小児の発達段階に応じた援助 （３）小児の疾患に対する家族の心理と受容 （４）養育とケア技術獲得に関する家族の援助 （５）継続看護と多職種連携（在宅療養） ３）医療的ケアを必要として退院する小児と家族への看護 （１）入院生活から在宅への移行に向けた支援 （２）継続看護と多職種連携と社会資源の活用 （３）在宅療養中の小児と家族への支援 （４）小児のセルフケア行動の促進	佐藤　彩香
３．終末期にある小児と家族への看護		１．終末期にある小児と家族への看護 １）小児の死の理解と看護 （１）小児の死の概念 （２）死に対する小児の反応と看護 ２）終末期にある小児と家族への緩和ケア （１）終末期にある小児の心身状態と緩和ケア （２）小児の死を看取る家族の反応と看護	

４．看護過程の展開	８	１．紙上事例演習 １）事例 「学童期、気管支喘息、急性期」 ２）演習方法 （１）科学的看護論のモデルを活用 （２）個人ワークーＧＷー発表ーまとめーー事後レポート	

評　価	筆記試験　１時間（90％）、看護過程演習（10％）を総合評価する
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔１〕小児看護学概論 小児臨床看護総論　奈良間 美 保　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔２〕小児臨床各論 奈良間 美 保　他　（医学書院）
参考書	

専門分野　母性看護学

科目名	単位数	開講期
母性看護学Ⅰ	1単位 30 時間	2年次前期～後期

＜目　　的＞

母性看護の概念および次世代を生み育てることの意義を理解し、母性看護の対象と看護の特性について学ぶ。そして、女性の生涯を通じた母性の健康の保持・増進の観点から、リプロダクティブヘルスに関する健康問題と看護を学ぶ。

そこで、母性看護の対象を広く捉え、「人間が、よく生まれ、よく育まれ、よく働かせる」ようにつくられていることに、看護師として携わり、対象の持てる力を働かせ生活過程を整えられる能力を養う。

＜目　　標＞

１．母性看護の対象と看護の特性を理解する
２．母性を取り巻く保健の動向と法・施策、社会の現状について理解する
３．女性のライフサイクル各期の特徴と健康問題に対する看護について理解する
４．リプロダクティブヘルスに関する健康問題と看護について理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．母性看護の対象と看護の特性	16	〔学習の視点〕 「人間が、よく生まれ、よく育まれ、よく働かせる」ようにつくられていることについて、意識して学ぶ。“生命の誕生”について解剖生理学の学習を土台に学ぶ。また、科学的看護論における日常生活アセスメント 12 項目の「性」について結びつけて考えられるようにする。 １．母性看護の基盤となる概念 １）母性とは ２）母性看護の対象とは （１）妊産褥婦 （２）女性の一生と生殖 （３）育児のパートナーとしての男性 （４）子どもが生まれる・乳幼児を育てる家族 （５）その家族が生活する地域（地域社会） ３）母性看護の役割 ４）母性看護の場と職種 （１）周産期医療における母性看護提供ネットワーク（地域社会） （２）母性看護における看護師の役割 ５）母子関係と家族発達 ６）母性看護を実践する上で必要となる考え方 （１）セクシャリティ （２）リプロダクティブヘルス/ライツ （３）ヘルスプロモーション	寺　田　沙　織 （実務経験教員）

		（４）ウエルネス ７）母性看護のあり方 ８）母性看護における倫理 ９）母性看護における安全・事故予防 ２．母性看護の対象を理解する 〔学習の視点〕 『解剖生理学Ｖ』で学習した、女性のライフサイクルと形態・機能の変化（女性生殖器・妊娠と胎児分化について復習して講義に臨むこと。 １）女性のライフサイクルと家族 （１）現代女性のライフサイクル （２）家族の発達段階と家族看護 （３）女性のライフサイクルと生涯発達 ２）母性の発達・成熟・継承 ３．母性看護の実際 １）母性看護活動の種類 （１）直接的看護活動 （２）環境の保持・調整活動 （３）保健医療福祉チームとしての活動の調整と連携 ２）母性看護における看護過程 ３）母性看護に使われる看護技術 （１）基盤となる看護技術 ①カウンセリング技術 ②触診 （２）女性の意思決定を支える看護技術 （３）ヘルスプロモーションのための看護技術 （４）親になる過程および家族適応を促す看護技術 （５）ストレス・不快感・苦痛を緩和する看護技術 ４）診察の介助および検査・処置・手術を受ける患者の看護 （１）内診時の看護 （２）検査・処置時の看護 （３）手術を受ける患者への看護 ４．演習 １）目的 「母性・父性について考える」 ２）事例 「青年期にある新婚の夫婦が、第１子を無事に出産しました。あなたがお母さん・お父さんです。５日後、こどもと一緒に自宅へ退院します。」 ３）演習方法 （１）事例紹介―ロールプレイ―ＧＷ－発表―まとめ―事後レポート ４）ＧＷの視点	

		（１）母親・父親の率直な気持ち・思い（生まれたばかり） （２）これまでの生活とこれからの生活の違い（家族が増える） （３）母親・父親が抱えるだろう気持ち・思い（退院後） （５）（１）～（３）より、母性・父性について意見をまとめる	
２．母性の対象を取り巻く環境と母子保健	３	１．母性看護を取り巻く社会の変遷と現状 １）母子保健統計からみた歴史的変遷 （１）出生・死亡・人工妊娠中絶の動向 ２）母性看護に関する組織と法律 （１）「母子保健法」「労働基準法」「母体保護法」 ３）母子保健施策からみた現状 （１）「妊産婦と乳幼児に対する支援」「少子化対策」 ４）母性看護の対象を取り巻く環境 （１）家族・労働・社会文化	
３．女性のライフサイクルにおける健康問題と看護	４	１．女性のライフステージ各期における看護 １）女性のライフサイクルと健康 ２）思春期の健康と看護 （１）思春期の特徴 ①性機能の発達 ②性アイデンティティの発達 （２）健康問題と看護 ①月経異常 ②性感染症 ③妊娠 （３）思春期女性への看護の視点 ３）成熟期の健康と看護 （１）成熟期の特徴 ①性機能の充実 ②就労・結婚・出産・子育て （２）健康問題と看護 ①月経困難 ②子宮筋腫 ③卵巣腫 ④不妊・不育症 （３）成熟期女性への看護の視点 ４）更年期の健康と看護 （１）更年期の特徴 ①閉経 ②卵巣機能の低下 ③アイデンティティの再体系化 ④母性性の充実	笠 原 視砂子

		（２）健康問題と看護 ①更年期障害 ②尿失禁 ③骨粗鬆症 （３）更年期女性への看護の視点	
４．リプロダクティブヘルス／ライツに関する健康問題と看護	６	１．リプロダクティブヘルス／ライツ １）家族計画 ２）性感染症とその予防 ３）人工妊娠中絶と看護 ４）生活習慣および環境への調整 ５）性暴力を受けた女性への看護 ２．演習 １）事例 「１―１）２）３）５）のいずれかの事例を用いてＧＷを行いリプロダクティブヘルス／ライツについて考える」 ２）演習方法 （１）個人ワークーＧＷ―発表―まとめ―事後レポート ３）ＧＷの視点 （１）事例の背景 （２）女性の権利 （３）法律や制度 （４）日本の文化 （５）対象者の思い・家族の思い （６）身体と心・生活への影響 （７）私たち看護師にできる対象の持てる力を働かせ生活過程を整えることを具体的に挙げるなど ４）ＧＷをして（１）～（７）について意見をまとめる。リプロダクティブヘルスケアについて結びつける（倫理的課題）	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学〔１〕母性看護学概論 森　　恵 美　他　（医学書院） ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔９〕女性生殖器 末 岡　　浩　他　（医学書院）
参考書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）

専門分野　母性看護学

科目名	単位数	開講期
母性看護学Ⅱ	1単位 30時間	2年次後期

＜目　　的＞

妊娠・分娩経過を生理的なプロセスとして理解し、母体と胎児がより健康な経過をたどり、安全に生命誕生を迎えるために必要な看護を学ぶ。

そこで、妊娠期・分娩期にある対象と家族が、安全で喜びに包まれた生命の誕生を迎えられるように、対象と家族の持てる力を働かせ生活過程を整えられる能力を養う。

＜目　　標＞

1．正常な妊娠の経過および妊婦と胎児の生理的変化を理解する
2．妊娠期の心理的変化・社会的変化の特徴を理解する
3．安全安楽に妊娠期の生活を送るために必要な妊婦と家族への援助を理解する
4．正常な分娩の経過および産婦と胎児の生理的変化を理解する
5．安全安楽に分娩を進行するために必要な援助について理解する
6．ハイリスク妊娠および妊娠経過に起こりやすい異常の予防と早期発見、健康回復のための援助を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．妊娠期の看護（妊娠期の異常と看護を含む）	15	1．正常な妊娠経過 1）妊娠期の身体的変化 （1）妊娠の生理 ①妊娠とは ②妊娠の成立 ③胎盤の形成 （2）胎児の発育と生理 ①胎児の発育 ②胎盤と羊水の生理 ③胎児の生理 （3）母体の生理的変化 ①生殖器における変化 ②初産婦と経産婦の区別 ③妊娠による全身的変化 2）妊娠期の心理・社会的変化 （1）妊婦の心理的特徴 （2）妊婦と家族および社会 2．妊婦と胎児の健康と生活のアセスメント 1）妊婦経過の診断（出生前診断） 2）胎児の発育と健康状態の診断 3）妊婦健康診査 4）妊婦と胎児・家族の身体・心理・社会・生活面の健康状態のアセスメント 3．演習 1）目的 「出生前診断の倫理的課題について」 2）演習方法 （1）ＧＷ－発表―まとめ 3）ＧＷの視点 （1）出生前診断の目的	北守　奈美

		（２）診断結果をどのように捉えるか （３）妊婦と家族の判断と選択 （妊娠の継続・堕胎） （４）妊婦と家族と胎児の権利 （５）看護師の葛藤 ４．妊婦と家族の看護 １）妊婦の保健指導と実際 （１）妊娠中の食生活（貧血） （２）清潔・排泄・衣生活 （３）活動・休息（労働・性生活） （４）妊娠中のマイナートラブル （５）母子保健事業（母子健康手帳） ２）親になるための準備教育 （１）分娩準備教育 （２）育児準備のための保健指導 （母親学級・両親学級） ５．演習 １）目的 「ロールプレイで妊婦体験をして、身体・心理・社会的変化の特徴について考える」 ２）演習方法 （１）事例紹介－ロールプレイ－ＧＷ－発表－まとめ－事後レポート ３）ロールプレイ・ＧＷの視点 （１）身体・心理・社会的変化の特徴について意見交換する （２）（１）をふまえて、不自由な点や危険なことについて意見交換する （３）（２）より、健康な妊娠についてとその生活指導の方法を意見交換する （４）（１）～（３）をまとめる ６．妊娠期の健康問題と看護 １）ハイリスク妊娠（糖尿病・心疾患・甲状腺機能亢進症） ２）流産・早産 ３）子宮外妊娠 ４）妊娠高血圧症候群 ５）常位胎盤早期剥離、前置胎盤 ７．妊娠期に使われる看護技術 １）妊婦の計測（腹囲・子宮底長計測） ２）レオポルド触診法 ３）児心音の聴取 ８．演習 １）技術項目 （１）妊婦の計測（腹囲・子宮底長計測） （２）レオポルド触診法 （３）児心音の聴取	

２．分娩期の看護	14	１．正常な分娩経過 １）分娩の要素 （１）分娩とは（分娩区分・分娩の経過） （２）分娩の３要素 （３）分娩の機序 ２）分娩の経過 （１）分娩の進行と産婦の身体的変化 ①分娩の前兆 ②分娩第１期～４期 （２）産痛 （３）胎児に及ぼす影響 （４）産婦の心理・社会的変化 （５）産婦と胎児・家族の身体・心理・社会・生活面の健康状態のアセスメント ２．産婦と家族の看護 １）安全・安楽な分娩への援助 ２）良いお産になるための援助 ３）基本的ニードに関する援助 （１）食事・排泄・清潔など ４）分娩各期の看護 （１）産痛緩和と補助 （２）動作・リラックス法 ３．演習 １）技術項目 （１）産痛緩和と補助 （２）動作・リラックス法	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学〔２〕母性看護学各論 森　　恵 美　他　（医学書院）
参考書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）

専門分野　母性看護学

科目名	単位数	開講期
母性看護学Ⅲ	１単位 30 時間	３年次前期

＜目　　的＞

褥婦および新生児とその家族の特性を理解し、産褥期の健康を促進し、新生児が環境の変化に適応するために必要な看護を学ぶ。

そこで、産褥期にある対象（褥婦と新生児）と家族が、身体機能の回復と進行性変化に適応し、安全で健全な育児環境を整えられるように、対象と家族の持てる力を働かせ生活過程を整えられる能力を養う。

＜目　　標＞

１．正常な産褥期の経過および生理的変化（身体的変化）・心理的変化・社会的変化の特徴を理解する
２．褥婦の身体機能回復および進行性変化を促進し、母親役割の獲得や家族関係の再構築に必要な援助を理解する
３．新生児の特徴と生理的変化を理解する
４．新生児が安全で健康に成長・発達するために必要な援助を理解する
５．順調な経過をたどる褥婦と新生児の看護過程の展開方法を、理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．産褥期の看護	10	１．正常な産褥の経過 １）産褥とは ２）産褥期の身体的変化 （１）退行性変化 （２）進行性変化 ３）産褥期の心理・社会的変化 （１）褥婦の心理的変化 ①母親への適応過程 ②マタニティブルーズ ③愛着・絆の形成とこどもの確認 （２）家族の心理的変化 ①父親・きょうだい・祖父母の心理的変化 （３）ソーシャルサポート（社会的支援） ２．褥婦の健康と生活のアセスメント １）産褥経過の診断 ２）褥婦の身体・心理・社会・生活面の健康状態のアセスメントの視点 ３．褥婦と家族の看護 １）産褥復古に関する支援 ２）日常生活とセルフケア ３）食生活の教育 ４）バースレビュー ５）親子愛着形成への支援 ６）母乳育児への支援 ７）育児技術習得への支援 ８）家族関係の再構築	笠 原 視砂子

２．新生児期の看護	9	１．新生児の特徴と生理 〔学習の視点〕 母性看護学では早期新生児（生後７日未満）に焦点をあてて学習する。 １）新生児とは ２）新生児の形態と機７ ・神経系・運動器系・感覚器系・循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・代謝系・体温調節・生体の防御機能 ２．新生児の健康と発育のアセスメント １）新生児の診断 （１）ハイリスク児の評価・要因 （２）出生直後の評価（アプガースコア） （３）発育・奇形の評価 （４）黄疸・新生児マススクリーニング ２）健康状態のアセスメント （１）基礎情報（リスク因子・バイタルサイン測定値・計測など） （２）子宮外生活への適応状態 ①子宮外生活適応過程 ②全身状態（フィジカルアセスメント） ③排泄状態 ④生理的体重減少 ⑤黄疸 ⑥新生児に実施される検査 ⑦哺乳状態 ⑧保育環境 ３．新生児の看護 １）出生直後の看護 ２）出生から退院までの看護 ３）退院後から一か月健診までの看護 ４．新生児の看護で使われる看護技術 １）バイタルサイン測定技術 ２）計測技術 ３）フィジカルアセスメント ４）日常生活の援助技術 （１）沐浴と臍処置 （２）衣類の着脱 （３）抱き方 （４）寝かせ方 （５）オムツ交換と股関節脱臼予防	笠 原 視砂子 (7) 吉 村　英 敦 （２）

	2	5．演習 1）技術項目 （1）沐浴と臍処置 （2）衣類の着脱 （3）抱き方 （4）寝かせ方 （5）オムツ交換と股関節脱臼予防	寺　田　沙　織 （実務経験教員）
3．看護過程の展開	8	1．産褥期・新生時期にある対象と家族への看護 1）紙上事例演習 （1）事例 「正常な経過をたどる褥婦と新生児の事例を用いて看護過程の展開をする」 （2）演習方法 ①科学的看護論モデルを活用 ②個人ワークーGWー発表ーまとめー事後レポート （3）個人ワーク：アセスメントの視点 ①産褥期の生理的変化が順調に経過しているか ②新生児の生理的変化からの逸脱を予防し、胎外生活へ適応と健康な発達が出来ているか ③母子相互作用を意識し、愛着形成過程が順調に進み、母親役割の獲得および家族関係再構成が進んでいるか （4）GW・発表 ①対象特性および生活体の反応を捉える ②対象特性・看護の方向性を一致させる。生活体の反応を付き合わせて看護計画を立案し、経過情報をもとに評価する	寺　田　沙　織 （実務経験教員）

評　価	筆記試験　1時間（90%）、看護過程演習（10%）を総合評価する
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学〔2〕母性看護学各論 森　　恵 美　他　（医学書院）
参考書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社） ・看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄 井　坦 子　（講談社）

専門分野　母性看護学

科目名	単位数	開講期
母性看護学Ⅳ	１単位 15 時間	３年次前期

＜目　　的＞

分娩・産褥経過中にみられる異常および産婦・褥婦および胎児・新生児に起こりやすい問題についてとその看護について学ぶ。

そこで、分娩・産褥経過と胎児・新生児に異常や問題ある対象と家族が、危機的状況から回避および対処行動がとれるように、また、回復過程を支援するために、対象と家族の持てる力を働かせ生活過程を整えられる能力を養う。

＜目　　標＞

１．分娩・産褥期の異常や健康問題の特徴とその治療について理解する
２．胎児・新生児の異常の特徴とその治療について理解する
３．分娩・産褥経過・新生児に異常や問題をもつ対象と家族に必要な看護を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．分娩・産褥の異常と看護	10	１．分娩期の健康問題と看護 １）産道・娩出力の異常 ２）胎児および付属物の異常 ３）分娩時の損傷 ４）分娩時の異常出血 ２．分娩期の異常に伴う産科処置・手術と看護 １）前期破水 ２）帝王切開 （１）常位胎盤早期剥離・前置胎盤・分娩遅延・胎児骨盤不均衡（ＣＰＤ） ３）胎児機能不全と胎児心拍モニタリング ４）分娩時の出血	遠　藤　　拓
		３．産褥期の健康問題と看護 １）子宮復古不全 ２）産褥期の発熱 （１）産褥熱・乳腺炎・泌尿器感染症 ３）肺塞栓・産褥血栓症 ４）精神障害を有する褥婦（産後うつ病） ４．予期しない危機状況にある褥婦への看護 １）死産 ２）母児分離 ３）先天性異常・障害をもつ児	新　垣　加　奈
２．新生児の異常と看護	４	〔学習の視点〕 原因・症状・治療・看護について学習する。母性看護学では早期新生児（生後７日未満）に焦点をあてて学習する。 １．新生児の異常と看護 １）新生児仮死（保育器管理） ２）分娩外傷 ３）低出生体重児 ４）高ビリルビン血症（光線療法）	小 島　崇 史

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学〔２〕母性看護学各論 森　　恵 美　他　（医学書院）
参考書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・看護のための人間論　ナースが視る人体　薄 井　坦 子　（講談社）

専門分野　精神看護学

科目名	単位数	開講期
精神看護学Ⅰ	1単位30時間	2年次前期～後期

＜目　　的＞

人間の健康は24時間の生活の中で、心、体が相互に影響し合いながら一定の均衡を保っている。この均衡が乱れ人間に備わっている自然力（回復力）が小さくなると、心にも乱れをきたす。その乱れの（生命力を脅かす）要因は生活する場によって大きく影響を受けるため、社会関係が関連していることを理解することが重要である。そのために、人間の成り立っている要素を隈なく取り入れたバイオ・サイコ・ソーシャルモデル（生物学的・心理学的・社会学的）の視点でトータルに理解することが求められる。

さらに、精神看護の対象はすべての発達段階にある人であり、その人の健康の段階に伴う心の問題、および精神障害者とその家族について理解するための知識を学習する。また、精神医療の歴史を概観する中で、精神障害者の人権とノーマライゼーションについて深く考えられるようにし、精神障害者の人権の尊重と精神看護を展開するうえでの看護師の役割および倫理的配慮についても学習する。

人間の心の発達と心の健康を理解し、発達課題と関連する心の健康上の課題、人々を取り巻く社会の価値規範やしくみが心の健康障害の顕在化と対応に及ぼす影響を学ぶ。また、精神保健福祉に関する制度、ライフサイクルと生活の場から精神保健を捉え、精神看護の役割と課題について学ぶ。

＜目　　標＞

1．ケアの対象者を理解するために、バイオ・サイコ・ソーシャルモデルを理解する
2．精神医療での人権尊重と精神看護の目的と看護師の基本的役割を理解する
3．ライフサイクルにおける精神の健康と社会関係の関連性を理解する
4．心の健康問題は、あらゆる場で起こりうる問題であることを理解する
5．精神障害者のこれまで置かれてきた歴史的・社会的背景を学習し、精神保健医療の動向について理解する
6．精神保健福祉の関連法規を学習し、今日の現状と課題について理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．精神看護活動	10	1．精神看護はどんな活動か 1）対象者はどんな体験をしているのか 2）対象者をトータルに理解するには ―バイオ（生物学的）・サイコ（心理学的）・ソーシャルモデル（社会学的）を使って理解を深めよう― （1）バイオ・サイコ・ソーシャルモデルとは （2）バイオ・サイコ・ソーシャルな理解とは （3）バイオ・サイコ・ソーシャルな看護を可能にするには 2．看護師は何をするのか 1）精神看護の目的、役割、機能 2）対象者が自分の力を信じられる援助 3）対象者の安全と安寧を守る 3．多職種との協働（チーム医療） 1）精神科でのチーム医療の必要性 2）チーム医療における各職種の役割	田　中　隆　志

		（１）精神科医 （２）保健師 （３）精神保健福祉士 （４）作業療法士 （５）精神保健福祉相談員 （６）薬剤師 （７）栄養士 （８）ピアサポーター （９）臨床心理技術者（臨床心理士・公認心理師等） ３）病院・地域におけるチーム医療と看護 ４．人権を守るために ―精神看護における基本的人権と倫理的問題― １）とくに精神科医療で注意すべきこと （１）自己決定権の侵害 （２）身体の自由に対する権利の侵害 ①隔離　②身体拘束 ２）患者の権利と人間の尊厳	
２．ライフサイクルと精神保健	10	１．ライフサイクルから見た精神看護 １）周産期の精神の健康 ２）乳幼児期から学童期の精神の健康 ３）思春期と青年期の精神の健康 ４）成人期の精神の健康 ５）老年期の精神の健康 ２．精神看護の場と看護 １）リエゾン精神看護とは ２）リエゾン精神看護師の役割 ３）リエゾン精神看護の対象者 ４）リエゾン精神看護師の活動 ３．医療施設以外の精神看護 １）家庭（患者と家族の精神の健康） ２）学校（子どもと教職員の精神の健康） ３）職場（働く人の精神の健康） ４．災害時の地域における精神保健医療活動 １）災害時の精神保健医療活動 ２）災害時の精神保健に関する初期対応 ３）災害時の精神障害者への治療継続	
３．精神保健医療福祉の歴史と法制度	9	１．精神医療の歴史的変遷 １）世界における精神医療の歴史的変遷 ２）近年における治療法と法制度の発展 ３）日本における精神看護者の出現 ４）最近の精神保健の動向 ２．精神保健関連法規 １）精神保健福祉法 ２）障害者自立支援法から障害者総合支援	

		法へ ３）障害者総合支援法 ４）心身喪失者等医療観察法 ５）児童虐待防止法 ６）ＤＶ防止法 ３．精神保健医療福祉の現状と課題 １）長期入院患者の地域移行 ２）長期入院を生み出さない急性期ケアの確立 ３）地域ケアの充実 ４）身体合併症ケアの充実 ４．心の健康に関する普及啓発 １）こころのバリアフリー宣言 ２）健康日本 21(第二次) ３）新健康フロンティア戦略	

評　価	筆記試験（70%）１時間、レポート評価（30%）
教科書	・系統看護学講座　専門分野　精神看護学（１）精神看護の基礎　武井麻子他（医学書院）
参考書	・精神看護学ノート　武 井　麻 子　（医学書院） ・精神看護学 精神保健　第４版　太 田　保 之　他　（医歯薬出版）

専門分野　精神看護学

科目名	単位数	開講期
精神看護学Ⅱ	１単位 30 時間	２年次後期

＜目　　的＞

精神の対象を理解するために、心の病を持つ人の内的世界を理解し、精神看護の働きかけの方法を学習する。さらに、精神の健康障害の特徴・診断・治療・検査について学び、看護援助を展開できる能力を養う。

＜目　　標＞

１．精神を病む人の現象（状態像）と精神症状について理解する
２．精神看護で理解しておくべき脳の構造と機能について理解する
３．精神医学で使われる疾患名とその診断基準、その症状の特徴や病型について理解する
４．治療にあたっての検査の概要を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．精神を病む人はどんな状態を示すのか	4	１．現症（状態像） １）不安状態 ２）心気状態 ３）躁状態と抑うつ状態 ４）幻覚妄想状態 ５）錯乱状態 ６）緘黙状態 ７）通過症侯群（健忘症侯群） ８）神経衰弱状態 ９）残遺状態 ２．精神症状 １）精神症状をとらえるために ２）記憶とその障害 ３）知覚とその障害 ４）思考とその障害 ５）感情とその障害 ６）意欲・行動とその障害 ７）注意・集中とその障害 ８）自我意識とその障害	柳川　厚史
２．対象を理解するための考え方	20	１．生物的側面から理解する １）脳の構造・機能・障害 （１）脳の部位と精神機能 （２）脳の構造 （３）脳の細胞構築とその成り立ち （４）神経伝達物質と精神機能 （５）中枢神経系と末梢神経系の違い ２）精神医学で使われる疾患の診断基準 （１）統合失調症 （２）気分＜感情＞障害 ①双極性障害 ②うつ病性障害 （３）神経症性障害、ストレス関連障害	

		および身体症状症 ①不安症 ②不安障害 ③適応障害 ④ヒステリー ⑤解離症／解離性障害 （４）睡眠障害・摂食障害 （５）アルコール 関連精神障害・薬物依存 （６）境界型パーソナリティ障害・性同一性障害 （７）器質性精神障害（認知症・てんかん） （８）知的能力障害 （９）自閉スペクトラム症 ①注意欠陥／多動性障害 ２．心理学的側面から理解する １）自我～私とは何か ２）自我はどのように作られるのか ３）フロイトが発見したこと ４）自我を守る働き～防衛機制～ ３．社会的側面から理解する １）社会的存在としての人間 ２）社会的ネットワークの中にいる対象者 ３）対象者を社会的側面から理解する視点 ４）適切な入院と脱施設化の働きかけ	
３．臨床検査	５	１．生物学的側面からアプローチする検査 １）理学的検査 ２）血液生化学検査 ３）心電図検査 ４）脳波検査 ５）脳脊髄液検査 ２．心理学的側面からアプローチする検査 １）知能検査 ２）人格検査（性格テスト） ３．社会機能を知る尺度	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野　精神看護学（２）精神看護の基礎　武井麻子他（医学書院）
参考書	・系統看護学講座　別巻　精神保健福祉　末 安　民 夫　他　（医学書院） ・看護のための精神医学　中 井　久 夫　他　（医学書院）

専門分野　精神看護学

科目名	単位数	開講期
精神看護学Ⅲ	1単位 30 時間	2年次後期

＜目　　的＞

人間は社会関係の中で形成された個々の認識によって日常生活を送っているが、精神を病むと眼に見えない精神活動に支障をきたし、精神の不安定さが激しくエネルギーを消耗させてしまう。そこで、精神の対象に持てる力を差し出し、対象の持てる力を活用し「生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整える」援助方法を身につける必要がある。そのため、対象理解をするためのアセスメントに用いられる理論や方法を学習する。さらに、自己洞察する力を養い、対象との援助関係を進展させる、相手の認識に働きかける援助方法を学ぶ。それらを活用して、主な精神障害に対する看護の実際を学ぶ。

＜目　　標＞

1．精神看護のアセスメントに用いられる理論を理解する
2．精神看護におけるコミュニケーション技法とその学習方法を理解する
3．主な精神の健康障害（疾患）に対する看護実践モデルについて理解する
4．精神を障害された対象および家族への看護過程を展開する（慢性期）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1．精神保健看護の展開方法と技術	15	1．精神看護におけるアセスメントの特徴 1）精神看護のアセスメントとは 2）精神看護におけるアセスメントの具体的内容と方法 3）精神看護のアセスメントにおける大切なポイント 2．アセスメントに用いられる主な理論 1）看護師-患者関係論 2）危機理論 3）ストレングスモデル 4）リカバリー 5）セルフケアモデル セルフケアモデルを使い必要なケアを考える（事例） 6）エンパワーメント理論 3．精神看護におけるコミュニケーション技法 1）コミュニケーションのむずかしさと楽しさ 2）セルフヘルプグループ 3）カウンセリング 4）プロセスレコードの活用 （精神看護実践における活用の意義） 5）リラクゼーション 6）コーチング	成田　邦男
2．主な精神障害の看護	14	1．事例から学ぶ日常生活行動の看護の実際 1）統合失調症患者の看護 事例：壮年期、統合失調症、慢性期」	

		２）うつ病患者の看護 ３）強迫性障害患者の看護 ４）パニック障害患者の看護 ５）アルコール依存症患者の看護 ６）摂食障害患者の看護 ７）パーソナリティ障害患者の看護	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野　精神看護学（２）精神看護の基礎　武井麻子他（医学書院）
参考書	・改訂　精神看護学　日本精神看護技術協会監修　（中央法規） ・精神科看護技術の展開　川 野　雅 資　編　（中央法規）

専門分野　精神看護学

科目名	単位数	開講期
精神看護学Ⅳ	１単位 15 時間	３年次前期

＜目　　的＞

精神に障害をもつ人が回復するための治療に必要な看護を学習する。精神保健医療の施策は入院医療中心から地域生活中心に移行している。従って、回復過程における精神科リハビリテーションの変遷と現状をとらえ、ノーマライゼーションの理念にそって、精神に障害をもつ対象の社会復帰や社会参加の基本と働きかけの方法を学ぶ。また、地域で生活するために必要な支援について学ぶ。

＜目　　標＞

１．生物学的・心理学的・社会的側面のそれぞれからアプローチする治療・ケア・支援について理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．治療・ケア・支援の方法	6	１．生物学的側面からのアプローチ １）薬物療法と看護 ２）電気けいれん療法と看護 ３）身体合併症とケア ２．心理学的側面からのアプローチ １）精神療法の基本 ２）特異的な精神療法 ３）心理教育 ４）認知行動療法とアセスメント	山崎　晶子
	6	３．社会的側面からのアプローチ １）精神科リハビリテーションの概念 ２）精神科リハビリテーションの基礎 ３）医療機関におけるリハビリテーションのさまざまな技術 （１）作業療法 （２）レクリエーション療法 （３）芸術療法（アートセラピー） （４）遊戯療法（プレイセラピー） （５）行動療法と認知療法を利用したリハビリテーション （６）ＳＳＴ（社会生活技術訓練） ４）入院と地域をつなぐかかわり ５）包括的リハビリテーションとは ６）今後の精神科リハビリテーションとＥＢＰ	江刺家泰平
	2	４．地域での自立、総合への支援 １）障害者総合支援法とは ２）障害者総合支援法に基づくサービス （１）自立支援医療 （２）介護給付 （３）訓練等給付 （４）地域相談支援給付 （５）地域生活支援事業 ３）精神障害者保健福祉手帳に基づくサー	松田　征洋

		ビスの概要 ４）インフォーマルなサポート （１）患者会、家族会などのセルフヘルプグループ （２）ボランティアサービス	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・系統看護学講座　専門分野　精神看護学（２）精神看護の基礎　武井麻子他（医学書院）
参考書	・系統看護学講座　別巻　精神保健福祉　末 安　民 夫　他　（医学書院）

専門分野　看護の統合と実践

科目名	単位数	開講期
看護管理	１単位 30 時間	３年次前期

＜目　　的＞

看護管理とは管理者だけではなく、個々のスタッフがそれぞれの立場でさまざまな状況に対応する際に基盤となるものであり、看護であるものと、看護でないものが見極められ、実践できるしくみをつくることを学ぶ。また、国際社会における保健医療の実際を知り、国際協力について学ぶ。さらに、地域包括ケアの時代に必要な多職種との連携・協働についても学ぶ。

そこで、より良い看護を提供できる専門職業人であるために、自立した個人として自己のキャリアを主体的に考える姿勢を養う。

＜目　　標＞

１．看護管理の対象と看護管理者の役割、看護組織マネジメントに関する基礎的知識を理解する
２．看護の国際協力の必要性としくみを理解する
３．保健医療福祉チームにおける看護師の役割と責任を意識し、対象の課題解決に必要な多職種との連携・協働の実際について理解する
４．専門職業人として、主体的に学び続けることの意義と重要性を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．看護管理	8	１．看護管理の基本 １）組織とマネジメント ２）看護師の仕事とその管理 ３）看護の質の保証とその管理 ４）看護と経営 ２．看護管理に必要な知識・技術 １）リーダーシップとは、メンバーシップとは ２）リーダーの特性理論 ３）リーダーシップスタイル ４）リーダーシップに求められる能力、資質の条件 ３．情報のマネジメント	柴田　香奈美
	5	４．看護に関する諸制度と生涯学習 １）看護制度の変遷 ２）看護活動と法令、行政組織 ３）看護と専門機関、職能団体 ４）継続教育制度と生涯学習 ５．演習 １）目的 「看護管理の考え方と実際」 ２）演習方法 個人ワークーＧＷー発表ーまとめー事後レポート ３）学習の視点 （１）ナイチンゲールの小管理をもとにして、組織での看護をマネジメントする	

２．国際看護	４	１．看護の国際化と国際看護 １）看護における国際化の状況 ２）国際協力のしくみ ３）世界の健康問題の現状 ４）国際看護活動の実際	大　上　郁　子
３．多職種連携の実際	12	〔学習の視点〕 多職種連携に関する基礎知識として、保健医療福祉チームに携わる職種と、その仕事内容について、専門基礎分野・専門分野Ｉで学んでいる（『基礎看護学』『公衆衛生』『社会保障論Ⅱ』『リハビリテーション概論』）。その知識を活用し、専門分野Ⅱでは、各看護学の特性に合わせた多職種連携・協働についての知識を学んでいる。さらに、『成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ』『老年看護学実習Ⅰ』では、受け持ち患者の回復過程から、必要な社会資源と職種・調整事項について、現状（現在、関わっている職種と受けている支援）と比較して理解できることをねらいに、実習を積み重ねている。 以上の学習を前提に演習を進める。 １．多職種連携演習 １）連携に必要な能力について （１）個々の専門職（看護職）の知識・技術・姿勢 （２）専門職に共通の知識・技術・姿勢 （３）全ての専門職に必要な一般的能力（社会人基礎力） ２）演習の導入（２時間） （１）オリエンテーション ①演習目標「保健医療福祉チームにおける看護師の役割と責任を意識し、対象の課題解決に必要な多職種との連携・協働の実際について理解する」 ②演習の進め方（演習の成員：看護師・ＰＴ・ＯＴ） ③事例紹介 「60 代、男性、糖尿病の進行により足趾が壊死した。下腿切断のために入院し、現在は慢性期で、内服治療とリハビリテーションを行っている。義足での歩行練習を行いながら、自立へ向かっている。キーパーソンは妻で、二人暮らし。２週間後に自宅退院を控えている。」	山　下　直　美 （実務経験教員）

		④状況設定 「対象が生命力の消耗を最小にし、生活過程を整えられ、２週間後に自宅退院を迎えられるように、必要な社会資源と調整について検討が必要になった。今後の予定は、明日は看護カンファレンス、３日後に多職種カンファレンスが計画されている。」 （２）グループワーク１：演習準備（事前学習） ①演習計画書作成 ②事例に必要な基礎知識の確認と文献検索 ア．事例に必要な看護職としての知識 イ．多職種と仕事内容の確認 ウ．社会資源について ３）演習（２時間） （１）グループワーク２：看護カンファレンス ＜事例検討＞ ①課題解決に向けた支援内容 ア．看護職としての支援内容 イ．必要な社会資源と職種、連携・協働内容（演習の成員は、看護師・ＰＴ・ＯＴであるが、必要であれば他の職種と連携・協働内容を挙げること） ②課題解決に向けた連携・協働の方法 ア．方法を具体的挙げ援助計画書を作成 （２）グループワーク３：多職種カンファレンス（６時間） ①各職種における対象の捉え（対象特性） ②事例の課題の確認 ③職種間で必要な社会資源とその根拠・具体策について検討 ④課題解決に向けて援助計画書の作成 ⑤グループ発表 （３）ロールプレイ ①１Ｇ選出し、援助計画書をもとにロールプレイを行う ②意見交換 （４）グループワーク４:看護師カンファレンス（２時間）	

		①多職種カンファレンスより、看護職としての役割と責任、調整事項を明確にする ②看護計画の立案・修正 ４）グループワーク５：演習の学び （１）演習目標に対する振り返り （２）自己課題 ５）演習のまとめ	

評　価	筆記試験　１時間（60%）　多職種連携演習（40%）を総合評価する
教科書	・系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践（１）看護管理（1)上泉和子他 ・系統看護学　看護の統合と実践（３）災害看護学・国際看護学　竹下喜久子他 （医学書院） ・看護覚え書－看護であること看護でないこと－ 薄 井　坦 子　他　（現代社）
参考書	

専門分野　看護の統合と実践

科目名	単位数	開講期
救急・災害看護	１単位 30 時間	２年次前期～後期

＜目　　的＞

救急看護の基本的な目的は、対象の「命を救い、生を支える」ことにある。また、災害看護の対象は人々であり、そのコミュニティで暮らす人々の健康や生活がよりよい状態になるようにケアすることが災害看護の役割である。そのため、救急・災害看護の特徴と役割を理解し、対象の状況に応じた適切な看護を提供するための基礎的知識を学ぶ。

この学びから、看護の専門的知識を統合し、救急・災害におけるあらゆる対象の健康障害の特徴から、援助を行うための基本的な能力と医療チームにおける多職種と連携・協働する基礎的能力を養う。

＜目　　標＞

１．救急医療・救急看護の特徴と看護の役割を理解する
２．救急患者に見られやすい主要病態に対する治療および看護を理解する
３．災害の定義および災害医療の概要を理解する
４．災害サイクルにおける保健医療ニーズと活動の場に応じて必要な看護を理解する
５．災害時（直後）における必要な看護と看護師の責任と役割を理解する（災害看護演習）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．救急と看護	4	１．救急看護の基礎 １）救急看護の定義、体制、看護の場 ２）救急看護の対象	丸 山 明日香
２．救急処置と看護	8	１．救急患者の観察とアセスメント １）学習の視点 （１）意識障害 （２）呼吸障害 （３）ショック・循環障害 （４）急性腹症 （５）泌尿器・生殖器障害 （６）体液・代謝異常への対応 （７）体温異常 （８）外傷 （９）熱傷 （10）中毒 （11）溺水 （12）刺咬症 （13）精神症状 （14）脳死状態 ２．主要病態に対する治療と看護技術 １）心肺停止状態への対応（一次・二次救命処置） ２）各定義の救急処置と看護 ３．演習 「心肺蘇生法･ＡＥＤ」	湯 瀬　奈 祐

３．災害と看護	４	１．災害医療の基礎 １）災害の定義、種類と特徴 ２）災害の歴史と法制度 ３）災害の情報伝達体制、災害に対する社会の対応 ４）災害サイクルと保健医療体制	中 村　洋 美
４．災害各期の看護	８	１．災害医療の特徴と看護活動 １）災害各期の特徴 （超急性期・急性期・慢性期・静穏期） ２）災害看護の役割 ３）災害看護の活動の場 ２．災害時の看護 １）地域アセスメント ２）災害が人々の生活に及ぼす影響と健康問題 ３．被災者の特性に応じた災害看護 ４．被災者、救護者のストレスと心のケア ５．初期から中長期的な健康問題と看護 １）避難所における人々の看護 ２）仮設住宅での看護 ３）自宅避難者の看護 ６．減災・防災マネジメント ７．演習 １）目的 「各ライフサイクルにおける特徴的な看護」 ２）演習方法 個人ワークーＧＷー発表ーまとめ ３）学習の視点 （１）要配慮者、小児・母性、高齢者、障害者、継続治療が必要な患者、外国人、遺族への看護 （２）災害における保健医療の役割	
	５	８．災害看護の実際（災害看護演習） 『函館空港消火救難救急医療総合訓練』に、負傷者役で参加し、トリアージや救護の実際、多職種連携について、体験および見学をする。そこから、災害直後における必要な看護と看護師の責任と役割を理解する。 １）訓練の導入 （１）演習目標 （２）演習の進め方 ①設定：航空機事故による火災等 ②訓練の流れ 航空機からの脱出→トリアージ区域へ搬送または独歩で移動→トリアージ→病態別に救護室で必要な処置を受ける	本 間 かほり （実務経験教員）

		（３）学生の役割 ①重傷・中等傷・軽傷の傷病者 （４）事前グループワーク ２）訓練に参加 決められた傷病者になり、訓練の流れに沿って演じる ３）事後グループワーク 演習目標に沿って、訓練の実際から、意見交換を行い、学びを整理する。 ４）演習のまとめ	

評　価	筆記試験　１時間　レポート課題を総合評価する
教科書	・系統看護学　別巻　救急看護学　山 勢　博 彰　他　（医学書院） ・系統看護学　看護の統合と実践（３）災害看護学・国際看護学　竹下喜久子他（医学書院）
参考書	

専門分野　看護の統合と実践

科目名	単位数	開講期
家族看護論	１単位　15 時間	３年前期

＜目　　的＞

個人の健康状態は、両親の健康状態や暮らし方やその地域の健康を守る社会的システムに影響される。また、24 時間の生活をとおして定まっていくため、個人の健康を守るために家族全体を看護の対象として捉える必要性がある。そして、対象の持てる力を働かせて、家族とともに対象がその人らしく生きるための看護について学ぶ。

そこで、家族社会学で学習した家族の動向、家族関係、家族理解の諸理論の知識を前提に、家族の健康の保持増進、健康問題を解決するための予防的・支持的・治療的な看護実践能力を養う。

＜目　　標＞

１．家族構成員の健康が家族全体に影響を及ぼすため、家族を一つの単位として看護する必要性を理解する
２．家族看護における看護の役割を理解する
３．家族が健康に生活するために必要な支援を理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．家族看護の基礎	6	１．家族看護とは １）家族看護の定義 ２）家族看護の目的と看護の役割 ３）家族看護の発展と動向 ２．家族看護における対象理解 １）家族の発達段階 ２）家族システム ３）家族看護からみた家族 （１）ジェノグラム （２）エコマップ ４）看護の対象としての家族のとらえ方 （１）家族の機能・ライフステージと健康問題の特性 （２）家族の疾病による役割と生活の変化 ５）家族像の形成 （１）家族を理解する場・情報 （２）家族の多様性 ３．家族を取り巻く社会的・文化的背景 １）家族の動向 ２）家族と地域社会	伊　藤　好　一
２．家族看護の実践	8	１．家族看護における看護の役割 １）家族看護における看護の特徴 （１）情報収集とアセスメントの方法 （２）家族アセスメントと介入 ２）健康問題に応じた家族への支援 （１）患者の背景としての家族アプローチ （２）１つのシステムとしてのアプローチ	

		２．演習 １）目的 「対象とその家族が健康でその人らしい生活を送るための退院調整について考える」 ２）事例 「80 歳、女性、アルツハイマー型認知症、高血圧」 ３）演習方法 事例紹介－個人ワーク－ＧＷ－発表－まとめ－事後レポート ４）ＧＷの視点 （１）家族アセスメントと判断 （２）健康問題に応じた家族への支援 （３）（１）（２）の個人ワークをもとに、意見交換を行い家族支援の方法を考える	

評　価	筆記試験　１時間
教科書	系統看護学講座 別巻 家族看護学　上別府　恵子他（医学書院）
参考書	

専門分野　看護の統合と実践

科目名	単位数	開講期
看護実践と医療安全	１単位 30 時間	３年次前期

＜目　　的＞

看護師は、医師の指示を受けて医療行為を行う機会が多い。数ある職業の中で、医療職ほどわずかな間違いで対象の傷害に直結する職業はない。そのため、看護師は、医療事故の当事者になる可能性が高く、医療システムの中に潜む危険因子を知り、臨床実践におけるさまざまな状況に対応できる看護実践力が必要となる。

そこで、これまでに学んだ知識と技術を統合し、安全で安心できる倫理的な看護を提供するための思考・判断・行動の仕方について学ぶ。

＜目　　標＞

１．医療システムの中の危険要因を知り、事故防止のための基本的知識を理解する
２．医療安全における看護の役割と看護師としての責任について理解する
３．安全で安心な医療提供に必要な臨床判断の考え方を理解する
４．医療現場の実践を知り、多重課題への対処方法について理解する

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．医療安全	14	１．医療安全の概念 ２．看護師の法的規定 ３．医療安全の取り組みと評価 ４．事故発生のメカニズム ５．リスクマネジメントのプロセス ６．主な医療事故とその予防策 ７．演習 １）演習方法 事例紹介－個人ワーク－ＧＷ－発表－まとめ－事後レポート ２）学習の視点 （１）医療事故のインシデント報告の要因と対策 （インシデントレポートの分析と活用） （２）危険予知トレーニング （ＫＹＴ基礎４ラウンド法）	山　下　辰　志
２．臨床看護の実践	15	１．演習 １）目的 「複数患者への援助の実際と看護技術評価」 ２）演習方法 （１）事例紹介－ディスカッション－まとめ－事後レポート ３）学習の視点 （１）症状を呈する患者および日常生活援助を必要としている患者２名を事例設定する （２）グループで患者の状態・状況をアセスメントして安全・安楽の確保、	山 村　涼 子 （実務経験教員）

		自立度に合わせた援助の実施、援助の効率化を考え計画する （３）２名の患者への実施すべき援助の優先順位を踏まえ計画立案する （４）自己の看護技術の到達状況を評価し、課題を明確にする ４）技術項目 （１）①～⑥の診療の補助技術と日常生活援助技術とを組み合わせて実施する ①経鼻胃チューブの挿入・確認 ②グリセリン浣腸、摘便 ③体位ドレナージと口腔内・鼻腔内・気管内吸引 ④酸素ボンベの操作 ⑤導尿、膀胱留置カテーテルの挿入 ⑥注射法（静脈注射、点滴管理）輸液ポンプの操作	

評　価	「医療安全」筆記試験　１時間（40%）　「臨床看護の実践」演習（60%）を総合評価する
教科書	・系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践（２）医療安全　川村治子 （医学書院）
参考書	

専門分野　看護の統合と実践

科目名	単位数	開講期
看護研究の基礎	１単位 15 時間	２年次前期～後期

＜目　　的＞
　看護研究の基本的な過程をたどりながら研究的な学習の進め方を学び、看護研究の実際に向けて看護とは何か、看護現象や援助のあり方、看護専門職としての役割について理解を深める。

＜目　　標＞
１．看護研究の意義を理解する
２．研究課題を焦点化するプロセスを理解する
３．他者の意見を取り入れ、自己の考えを表現し、グループとして学びを高め合うことができる

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．看護研究の方法	14	１．看護研究とは ２．研究方法の種類 ３．研究の進め方 ４．看護研究における「動機」 ５．看護研究における倫理 ６．文献検索の意義と方法 ７．論文構成要素 ８．先行研究論文の読み方 ９．演習 「ケーススタディ」をクリティークしてみよう！ 10．看護研究に取り組むにあたっての要件	齊　藤　恭　平

評　価	筆記試験　１時間
教科書	・科学的看護論　薄 井　坦 子　（日本看護協会出版会） ・系統看護学講座　別巻　看護研究　坂下玲子他　（医学書院）
参考書	

専門分野　看護の統合と実践

科目名	単位数	開講期
看護研究の実際	１単位 15 時間	３年次前期～後期

＜目　　的＞

『看護研究の基礎』で学習した看護研究に関する基礎知識をもとに、基本的な過程をたどりながら研究的な学習を進める。また研究計画書から発表までの一連の過程をとおして、看護とは何か、看護現象や援助のあり方、看護専門職としての役割について理解を深める。

＜目　　標＞

１．看護研究の基本的なステップにもとづいて、研究計画を立案することができる
２．看護研究計画書にもとづいて、研究活動を遂行することができる
３．他者の意見を取り入れ、自己の考えを表現し、グループとして学びを高め合うことができる
４．研究活動をとおして、看護に対する見方・考え方や看護専門職としての役割を洞察できる

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
１．看護研究の実際	15	１．看護現象から研究課題へ １）自己の研究課題の発見 ２）研究テーマの絞り込み ※臨地実習を振り返り、探求したい看護実践を見いだし、研究の可能性を見極めて研究テーマを絞り込む。 ２．研究課題の選定 ３．研究計画書の作成 １）研究テーマの検討 ２）目的の明確化 ３）看護研究における倫理的配慮の指針を適応 ４）指定の構成要素・内容を満たした計画書作成 ※担当教員の指導・助言を受けながら進める。 ４．看護研究の実施 １）研究計画書にもとづき、その事実から論理を引き出す ２）論文作成	齊藤　恭平

評　価	演習を総合評価する
教科書	・科学的看護論　薄井　坦子　（日本看護協会出版会） ・系統看護学講座　別巻　看護研究　坂下玲子他　（医学書院）
参考書	

専門分野　　基礎看護学

科目名	単位数	開講期	単位認定者
基礎看護学実習Ⅰ	1単位 30 時間	1年次前期	辻　　早 （実務経験教員）

実習目的	対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えるために必要な、看護活動の場や看護師の役割・機能および療養生活を送る患者の生活環境について学ぶ。
実習目標	１．看護活動が行われる場を理解する（病院の機能・構造） ２．患者の療養生活環境を知る ３．患者を尊重した言葉使いや挨拶ができる ４．患者の療養生活を支える看護活動を知る ５．看護を学ぶ社会人として倫理的な行動がとれる
実習内容 実習方法	１．実習期間：４日間 ２．実習場所：病棟・学内 ３．実習内容・実習方法：見学・一部体験実習を行う １）病院見学・病院オリエンテーション ２）看護活動の見学 ３）患者とのコミュニケーション
実習評価	１．授業科目の所定時間数の３分の２以上出席した者に対し、実習評価を受けることができる ２．実習評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする

専門分野　　基礎看護学

科目名	単位数	開講期	単位認定者
基礎看護学実習Ⅱ	２単位 90 時間	１年次後期	辻　　早 （実務経験教員）

実習目的	対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えるために必要な「対象の全体像の描き方」「看護の方向性の考え方」「生活過程を整える看護」について、看護過程のプロセスの一部を展開して学ぶ。
実習目標	１．対象の全体像を描くことができる ２．看護の方向性がイメージできる ３．対象に関心を持ち関わることができる ４．生活過程を整える看護技術を安全・安楽に実践できる ５．看護を学ぶ社会人として倫理的な行動がとれる
実習内容 実習方法	１．実習期間：12 日間 ２．実習場所：病棟・学内 ３．実習内容・実習方法：受け持ち患者を持ち、看護過程のプロセスの一部を展開する １）対象の全体像を描き、看護の方向性をイメージするために、情報収集と看護活動を見学する ２）全体像モデルを活用して対象の全体像を描き、看護の方向性をイメージする ３）受け持ち患者に必要な日常生活の援助を実践する
実習評価	１．授業科目の所定時間数の３分の２以上出席した者に対し、実習評価を受けることができる ２．実習評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする

専門分野　　地域・在宅看護論

科目名	単位数	開講期	単位認定者
地域・在宅看護論実習	２単位 60 時間	３年次前期～後期	大 島　慈 代 （実務経験教員）

実習目的	地域・在宅看護の特性を理解し、地域で生活する対象とその家族を大づかみに捉え、看護の方向性から経過を予測し対象の状態に応じて、日々の看護を実践する能力を養う（臨床判断能力）。
実習目標	１．あらゆる健康の段階にある在宅で生活する対象とその家族を大づかみに理解する ２．在宅で生活する対象と家族に関心を持ち関わることができる ３．在宅で生活する対象と家族の生活を支援するために、対象の状態に応じて日々の看護を計画・実践・評価ができる ４．地域・在宅看護の特性を理解する ５．保健医療福祉チームの連携・協働の必要性から、看護師の役割を理解する ６．看護を学ぶ社会人として倫理的な行動がとれる
実習内容 実習方法	１．実習期間：８日間 ２．実習場所：保健所・地域包括支援センター・連携室・訪問看護ステーション・学内 ３．実習内容・実習方法 １）「保健所・地域包括支援センター」は、見学実習を行う ２）訪問看護ステーションは、利用者を受け持ち、臨床判断能力育成実習を行う （１）対象特性・看護の方向性を捉えるため、情報収集と看護活動を見学する （２）立体像モデルを描き、対象特性と看護の方向性をあげる （３）訪問看護ステーションの看護計画をもとに、その日の対象の状態に応じた日々の援助を計画・実践・評価する （４）カンファレンスをする ３）連携室は、見学・一部体験実習を行う
実習評価	１．授業科目の所定時間数の３分の２以上出席した者に対し、実習評価を受けることができる ２．実習評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする

専門分野　　成人看護学

科目名	単位数	開講期	単位認定者
成人看護学実習Ⅰ	２単位 90 時間	２年次前期	山 村　涼 子 （実務経験教員）

実習目的	健康障害をもつ成人期にある”対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整える”ために必要な「対象特性の理解」「看護の方向性の考え方」「生活過程を整える看護」について、看護過程のプロセスの一部を展開して学ぶ。
実習目標	１．健康障害をもつ対象の対象特性（全体像）を捉えることができる ２．看護の方向性を挙げることができる ３．対象に関心を持ち関わることができる ４．生活過程を整える看護技術を安全・安楽に実践できる ５．看護を学ぶ社会人として倫理的な行動がとれる
実習内容 実習方法	１．実習期間：12 日間 ２．実習場所：病棟・学内 ３．実習内容・実習方法：受け持ち患者を持ち、看護過程のプロセスの一部を展開する １）対象特性・看護の方向性を捉えるために、情報収集と看護活動を見学する ２）全体像モデル・立体像モデルを描き、対象特性と看護の方向性をあげる ３）受け持ち患者に必要な日常生活の援助を実践する
実習評価	１．授業科目の所定時間数の３分の２以上出席した者に対し、実習評価を受けることができる ２．実習評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする

専門分野　　成人看護学

科目名	単位数	開講期	単位認定者
成人看護学実習Ⅱ	２単位 90 時間	２年次後期	谷 口　飛 鳥 （実務経験教員）

実習目的	健康障害をもつ成人期にある対象とその家族を総合的に理解し、健康の段階に応じて、生命力の消耗を最小にするよう持てる力を働かせ、生活過程を整えることを看護過程を展開し学ぶ。
実習目標	１．あらゆる健康の段階にある健康障害をもつ成人期の対象とその家族を総合的に理解する ２．対象と家族に関心を持ち人間関係を築くことができる ３．対象が持てる力を発揮できるように看護計画の立案・実践・評価ができる ４．保健医療福祉チームの連携・協働の必要性を理解する ５．看護を学ぶ社会人として倫理的な行動がとれる
実習内容 実習方法	１．実習期間：12 日間 ２．実習場所：病棟・学内 ３．実習内容・実習方法：受け持ち患者を持ち、看護過程展開実習を行う １）対象特性・看護の方向性を捉えるために、情報収集と看護活動を見学する ２）全体像モデル・立体像モデルを描き、対象特性と看護の方向性をあげる ３）日常生活の規制から必要な看護計画を立案する ４）看護計画にもとづき、援助を実践する ５）看護計画を実践結果にもとづき評価・修正する ６）カンファレンスをする
実習評価	１．授業科目の所定時間数の３分の２以上出席した者に対し、実習評価を受けることができる ２．実習評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする

専門分野　　健康の段階別看護実習

科目名	単位数	開講期	単位認定者
健康の段階別看護実習Ⅰ （慢性期・終末期）	２単位 90 時間	２年次後期	山 村　涼 子 （実務経験教員）

実習目的	慢性期・終末期にある健康障害をもつ成人・老年期の対象とその家族を総合的に理解し、生命力の消耗を最小にするよう持てる力を働かせ、生活過程を整えることを看護過程を展開し学ぶ。
実習目標	１．　慢性期・終末期にある健康障害をもつ成人・老年期の対象とその家族を総合的に理解する ２．対象と家族に関心を持ち人間関係を築くことができる ３．対象が持てる力を発揮できるように看護計画の立案・実践・評価ができる ４．保健医療福祉チームの連携・協働の必要性を理解する ５．看護を学ぶ社会人として倫理的な行動がとれる
実習内容 実習方法	１．実習期間：９日間 ２．実習場所：病棟・学内 ３．実習内容・実習方法　：受け持ち患者を持ち、看護過程展開実習を行う １）対象特性・看護の方向性を捉えるために、情報収集と看護活動を見学する ２）全体像モデル・立体像モデルを描き、対象特性と看護の方向性をあげる ３）日常生活の規制から必要な看護計画を立案する ４）看護計画にもとづき、援助を実践する ５）看護計画を実践結果にもとづき評価・修正する ６）カンファレンスをする
実習評価	１．授業科目の所定時間数の３分の２以上出席した者に対し、実習評価を受けることができる ２．実習評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする

専門分野　　健康の段階別看護実習

科目名	単位数	開講期	単位認定者
健康の段階別看護実習Ⅱ （周手術期）	２単位 90 時間	３年次前期	谷 口　飛 鳥 （実務経験教員）

実習目的	周手術期にある成人・老年期の対象とその家族を大づかみに捉え、看護の方向性から経過を予測し対象の状態に応じて、日々の看護を実践する能力を養う（臨床判断能力）。
実習目標	１．周手術期にある成人・老年期の対象とその家族を総合的に理解する ２．対象と家族に関心を持ち人間関係を築くことができる ３．回復過程を支援するために、対象の状態に応じて日々の看護を計画・実践・評価ができる ４．周手術期（術前・術中・術後）における看護の特性を理解する ５．保健医療福祉チームの連携・協働の必要性から、看護師の役割を理解する ６．看護を学ぶ社会人として倫理的な行動がとれる
実習内容 実習方法	１．実習期間：12 日間 ２．実習場所：病棟・ＩＣＵ・手術室 ３．実習内容・実習方法 １）手術室・ＩＣＵ実習：見学・一部体験実習を行う ２）病棟実習：受け持ち患者を持ち、臨床判断能力育成実習を行う （１）対象特性・看護の方向性を捉えるため、情報収集と看護活動を見学する （２）立体像モデルを描き、対象特性と看護の方向性をあげる （３）病棟の看護計画（クリティカルパス）をもとに、対象特性・看護の方向性と結び付ける （４）病棟の看護計画をもとに、その日の対象の状態に応じた日々の援助を計画・実践・評価する （５）カンファレンスをする
実習評価	１．授業科目の所定時間数の３分の２以上出席した者に対し、実習評価を受けることができる ２．実習評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする

専門分野　　老年看護学

科目名	単位数	開講期	単位認定者
老年看護学実習	２単位 60 時間	３年次前期～後期	細 田 江利香

実習目的	老年看護の特性を理解し、地域で生活している老年期の対象とその家族を大づかみに捉え、看護の方向性から経過を予測し対象の状態に応じて、日々の看護を実践する能力を養う（臨床判断能力）。
実習目標	１．住み慣れた生活の場で、その人らしく生活している対象とその家族を総合的に理解する ２．老年期の対象と家族に関心を持ち人間関係を築くことができる ３．老年期の生活を支援するために、対象の状態に応じた日々の看護を計画・実践・評価ができる ４．地域における老年看護の特性を理解する ５．保健医療福祉チームの連携・協働の必要性から看護師の役割を理解する ６．看護を学ぶ社会人として倫理的な行動がとれる
実習内容 実習方法	１．実習期間：８日間 ２．実習場所：介護老人保健施設「入所施設・通所施設」 ３．実習内容・実習方法 １）通所施設：見学・一部体験実習を行う ２）入所施設：受け持ち利用者を持ち、臨床判断能力育成実習を行う （１）対象特性・看護の方向性を捉えるため、情報収集と看護活動を見学する （２）立体像モデルを描き、対象特性と看護の方向性をあげる （３）病棟の看護計画をもとに、その日の対象の状態に応じた日々の援助を計画・実践・評価する （４）カンファレンスをする
実習評価	１．授業科目の所定時間数の３分の２以上出席した者に対し、実習評価を受けることができる ２．実習評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする

専門分野　　小児看護学

科目名	単位数	開講期	単位認定者
小児看護学実習Ⅰ	1単位 30 時間	2年次前期	土 場 望由紀

実習目的	乳幼児期の発達段階にある小児の理解と、健やかな小児の成長発達に必要な看護について学ぶ。
実習目標	1．小児の成長発達過程を理解する 2．健康な生活を送る小児の生活過程を理解する 3．小児の健全な成長発達を支援する保育の実際を理解する 4．保健医療福祉チーム・教育機関との連携・協働の必要性を理解する 5．看護を学ぶ社会人として倫理的な行動がとれる
実習内容 実習方法	1．実習期間：4日間 2．実習場所：認定こども園・学内 3．実習内容・実習方法　：見学・一部体験実習を行う 1）オリエンテーションを受ける（実習1日目） 2）日替わりで発達段階の違うクラス（年少・年中・年長）に入り、園児と保育（日常生活の支援・遊び）・教育（学習）に、指導を受けながら参加する 3）グループワークと全体会で『小児看護学実習Ⅰ』の学びを看護の視点で整理する
実習評価	1．授業科目の所定時間数の3分の2以上出席した者に対し、実習評価を受けることができる 2．実習評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする

専門分野　　小児看護学

科目名	単位数	開講期	単位認定者
小児看護学実習Ⅱ	1単位 30 時間	3年次前期～後期	土 場 望由紀

実習目的	小児看護の特性を理解し、あらゆる健康の段階にある患児とその家族を大づかみに捉え、看護の方向性から日々の看護を実践する能力を養う（臨床判断能力）。
実習目標	１．あらゆる健康の段階にある患児とその家族を大づかみに理解する ２．患児と家族に関心を持ち関わることができる ３．患児の回復過程を支援するために、対象の状態に応じて日々の看護を計画・実践・評価ができる ４．小児看護の特性を理解する ５．保健医療福祉チーム・教育機関との連携・協働の必要性から、看護師の役割を理解する ６．看護を学ぶ社会人として倫理的な行動がとれる
実習内容 実習方法	１．実習期間：４日間 ２．実習場所：外来・NICU・病棟 ３．実習内容・実習方法 １）外来・NICU 実習は、見学・一部体験実習を行う ２）病棟実習は、受け持ち患児を持ち、臨床判断能力育成実習を行う （１）対象特性・看護の方向性を捉えるため、情報収集と看護活動を見学する （２）立体像モデルを描き、対象特性と看護の方向性をあげる （３）看護計画をもとに、その日の対象の状態に応じた日々の援助を計画・実践・評価する （４）カンファレンスをする
実習評価	１．授業科目の所定時間数の３分の２以上出席した者に対し、実習評価を受けることができる ２．実習評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする

専門分野　　母性看護学

科目名	単位数	開講期	単位認定者
母性看護学実習	２単位 60 時間	３年次前期～後期	寺 田　沙 織 （実務経験教員）

実習目的	母性看護の特性を理解し、周産期にある母子とその家族が持てる力を働かせて、生活過程を整えるために必要な看護について学ぶ。
実習目標	１．周産期にある母子とその家族を大づかみに理解する ２．周産期にある母子と家族に関心を持ち関わることができる ３．周産期にある母子に必要な看護をその日の状態に応じて、計画・実践・評価ができる ４．周産期における母性看護の特性を理解する ５．保健医療福祉チームとの連携・協働の必要性から、看護師の役割を理解する ６．看護を学ぶ社会人として倫理的な行動がとれる
実習内容 実習方法	１．実習期間：８日間 ２．実習場所：外来・病棟「褥室・新生児室」・学内 ３．実習内容・実習方法 １）外来実習は、見学・一部体験実習を行う ２）病棟実習は、受け持ち褥婦・新生児（親子セット）を持ち、臨床判断能力育成実習を行う （１）対象特性・看護の方向性を捉えるため、情報収集と看護活動を見学する （２）立体像モデルを描き、対象特性と看護の方向性をあげる （３）病棟の看護計画（クリパス）をもとに、その日の対象（褥婦・新生児）の状態に応じた日々の援助を計画・実践・評価する （４）カンファレンスをする
実習評価	１．授業科目の所定時間数の３分の２以上出席した者に対し、実習評価を受けることができる ２．実習評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする

専門分野　　精神看護学

科目名	単位数	開講期	単位認定者
精神看護学実習	２単位 90 時間	３年次前期～後期	辻　　早 （実務経験教員）

実習目的	精神に障害をもつ対象とその家族の状況を知り、精神症状や精神状態によって影響された生活過程を整えるための看護の役割を学ぶ。また、対象との関りを通して自己を見つめ、人間関係を成立・発展させるための能力を養う。
実習目標	１．精神に健康障害をもつ対象の特性を捉え、必要な看護を理解する ２．対象との関わりをとおして自己を見つめ、「患者-看護師関係」のあり方を理解し、人間関係を築く能力を身につける ３．精神障害をもつ対象の看護活動に参加し、日常生活を整える看護を理解する ４．精神医療における看護の役割を理解する ５．保健医療福祉チームの一員として、看護師および多職種の役割と連携・協働の必要性を理解する ６．看護を学ぶ社会人として倫理的な行動がとれる
実習内容 実習方法	１．実習期間：９日間 ２．実習場所：病棟・デイケアセンター・学内 ３．実習内容・実習方法 １）病棟実習 （１）対象特性・看護の方向性を捉えるため、情報収集・看護活動の見学・実施をする （２）全体像モデル・立体像モデルを描き対象特性・看護の方向性をあげる （３）対象との関りをプロセスレコード（再構成）にとり、対象の認識や言動の意味、自己の傾向を分析・考察する （４）薬物療法、作業療法、レクレーション療法などに参加する （５）病棟のカンファレンスや多職種との連携・協働場面を見学する （６）カンファレンスをする ２）ディケア実習 （１）活動に参加し、利用者はどんな社会資源を活用して地域で生活しているのか、関わりをとおして知る
実習評価	１．授業科目の所定時間数の３分の２以上出席した者に対し、実習評価を受けることができる ２．実習評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする

専門分野　　看護の統合と実践実習

科目名	単位数	開講期	単位認定者
看護の統合と実践実習	2 単位 90 時間	3 年次後期	山 下　直 美 （実務経験教員）

実習目的	看護を組織でよりよく行うための看護管理の実際について知り、看護チームの一員として責任と役割を学び、看護師としての認識を高める。さらに、複数の対象に必要な看護を行うための思考・判断・行動について理解を深めるとともに、よりよい看護実践となるよう臨床判断について学ぶ。また、看護専門職としての自覚を持ち、自己課題を明確にし、自己研鑽する能力を養う。
実習目標	1．病院で行われている看護管理の実際について理解する 2．看護管理の目的をもとに、看護チームの責任と役割を実際から理解する 3．対象の 24 時間の療養生活に合わせた看護活動の実際について理解する 4．複数の受け持ち対象を総合的に理解する 5．複数の受け持ち対象に関心を持ち人間関係を築くことができる 6．複数の受け持ち対象の日々の状態・状況に応じた必要な看護を安全で倫理的に看護を実践できる 7．看護チームの一員として責任と自覚をもち、メンバーシップを意識した行動がとれる 8．卒後の臨床看護実践をイメージして、看護専門職としての自己課題を明確にする 9．看護を学ぶ社会人として倫理的な行動がとれる
実習内容 実習方法	1．実習期間：9 日間 2．実習場所：病棟・学内 3．実習内容・実習方法 1）病棟管理者に同行し看護管理の実際を見学する 2）チームリーダー・メンバーに同行し、業務の実際を見学・体験する（午前・午後に役割体験を分ける） 3）夜勤帯業務を見学・体験する 4）複数の対象を受け持ち日々の状態・状況に応じた必要な看護を、優先度を判断して実践する（受け持ち患者選定 2 名：発達段階や健康の段階を限定しない） 5）カンファレンスをする
実習評価	1．授業科目の所定時間数の 3 分の 2 以上出席した者に対し、実習評価を受けることができる 2．実習評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする